Nikon

デジタルカメラ

COOLPIX P510

クールピクス P510

活用ガイド

Jp

商標説明

- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、Apple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。iFrameのロゴおよびシンボルは、Apple Inc.の商標です。
- AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。
- SDXC、SDHC、SDロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- PictBridgeロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。
詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。
http://www.mpegla.comをご参照ください。

はじめにお読みください

ニコンデジタルカメラCOOLPIX P510をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
お使いになる前に、本製品の使用方法や「安全上のご注意」（🕮vi）をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

箱の中身をご確認ください

万一、不足のものがありましたら、ご購入店にご連絡ください。

COOLPIX P510
カメラ本体

ストラップ

レンズキャップ
LC-CP24
（レンズキャップ用ひも付き）

Li-ion リチャージャブル
バッテリー EN-EL5
（端子カバー付き）

本体充電 AC アダプター
EH-69P

USB ケーブル
UC-E6

オーディオビデオ
ケーブル EG-CP16

ViewNX 2
Installer CD
（ViewNX 2
インストーラー CD）

活用ガイド CD

- 使用説明書
- 保証書
- 登録のご案内

※メモリーカードは付属していません。

本書について

すぐにカメラをお使いになりたいときは、「撮影と再生の基本ステップ」（□17）をご覧ください。
また、カメラ各部の主な役割や基本的な操作方法は、「各部の名称と基本操作」（□1）をご覧ください。

● 本書の記載について

- 本文中のマークについて

マーク	意味
☑	カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。
🖉	カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
□/🔭/💡	関連情報が記載されているページです。🔭は「詳細編」、💡は「付録、索引」のページです。

- SD/SDHC/SDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。
- 液晶モニターに表示されるメニュー項目や、パソコンに表示されるボタン名、メッセージなどは、［ ］で囲って表記しています。
- 本書では、液晶モニター上の表示をわかりやすく説明するために、被写体の表示を省略している場合があります。
- 本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

●カスタマー登録のお願い

下記のホームページから登録をお願いします。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載の登録コードをご用意ください。

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、本体充電ACアダプター、ACアダプターなど）に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

ホログラムシール

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5 には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のLi-ion リチャージャブルバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が出せないことや、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となることがあります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故、故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●説明書について

- 説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 説明書が破損などで判読できなくなったときは、PDFファイルを下記のホームページからダウンロードできます。

  http://www.nikon-image.com/support/manual/

  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリー（SDカード/カメラ内蔵メモリーを含む）内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトウェアなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリー内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトウェアなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします。なお、［**オープニング画面**］（🕮108）の［**撮影した画像**］も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

SDカードに保存したログデータの扱いは、SDカード内の他のデータと同じです。SDカードに未保存の取得済みデータは、［**ログ取得**］→［**ログ取得終了**］→［**ログ消去**］で消去できます。

●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。
この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
表示と意味は以下のようになっています。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、以下の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラについて）

 分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
 接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
 水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
 電池を取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。 電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

禁止	**通電中のカメラに長時間直接触れない** 使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。
 使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使わない** プロパンガス、ガソリン、可燃スプレーなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因になります。
 発光禁止	**車の運転者等にむけてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
 発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。
 保管注意	**幼児の口にはいる小さな付属品は、幼児の手の届く所に置かない** 幼児の飲み込みの原因となります。 飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。
 保管注意	**ストラップが首に巻きつかないようにすること** **特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと** 首に巻き付いて窒息の原因となります。
 警告	**指定の電源(電池、本体充電ACアダプターまたはACアダプター)を使うこと** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。
 使用禁止	**充電時やACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

⚠ 注意（カメラについて）

 感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
 保管注意	**製品は、幼児の手の届く所に置かない** ケガの原因になることがあります。
 保管注意	**使用しないときは、レンズにキャップを付けて太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
 移動注意	**三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。
 使用注意	**航空機内では、離着陸時に電源をOFFにする** **また、搭乗前にGPSの位置情報記録機能もOFFにする** **病院では、病院の指示に従う** 本機器が出す電磁波などが、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
 電池を取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源(電池、本体充電ACアダプターまたはACアダプター)を外すこと** 電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因になることがあります。 本体充電ACアダプターやACアダプターをお使いの際には、電源プラグをコンセントから抜いて、その後でカメラを取り外してください。火災の原因になることがあります。
 発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因になることがあります。

禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。
放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因になることがあります。
禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠注意
（3D画像について）

使用注意	**本機器で撮影した3D画像をテレビまたはモニターなどで長時間続けて視ない** **特に視覚の発達段階にある幼児は、事前に小児科や眼科などの医師の指示に従う** 眼の疲労や、気分が悪くなるなどの不快な症状が出ることがあります。症状が出たときは、3D画像の閲覧をやめ、必要に応じて医師にご相談ください。

⚠危険
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池を分解しない** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL5は、ニコンデジタルカメラ専用の充電池でCOOLPIX P510に対応しています。** **EN-EL5に対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
使用禁止	**充電には専用の充電器を使う** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しない** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは、端子カバーをつけてください。
危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

保管注意	**電池は、幼児の手の届く所に置かない** 幼児の飲み込みの原因となります。飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
使用禁止	**変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**充電の際に、所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは充電をやめる** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参いただくか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠注意
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

注意	**電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠警告
（本体充電ACアダプターについて）

分解禁止	**分解したり修理・改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
プラグを抜く すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使わない** プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因になります。

警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着しているときは、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると、火災の原因になります。
使用禁止	**雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
禁止	**ケーブルを傷つけたり、加工したりしないこと** **また、重いものを載せたり、加熱したり、引っぱったり、むりに曲げたりしないこと** ケーブルが破損し、火災、感電の原因となります。
禁止	**通電中のACアダプターに長時間直接触れない** 使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。
感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因となります。
禁止	**海外旅行者用電子式変圧器(トラベルコンバーター)や DC/AC インバーターなどの電源に接続して使わないこと** 発熱、故障、火災の原因となります。

⚠ 注意
（本体充電ACアダプターについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
放置禁止	**製品は、幼児の手の届く所に置かない** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

目次

はじめに

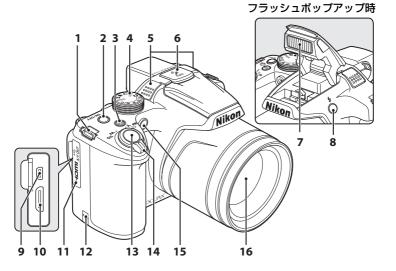
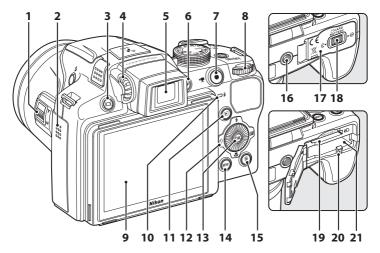
目次

各部の名称と基本操作

この章では、各部の名称のほか、各部の主な役割や基本操作について説明しています。

すぐにカメラをお使いになりたいときは、「撮影と再生の基本ステップ」（□17）をご覧ください。

各部の名称

カメラ本体

1	ストラップ取り付け部 7
2	電源スイッチ/電源ランプ 25
3	Fn（ファンクション）ボタン 110
4	モードダイヤル 28
5	マイク（ステレオ）............88、96
6	GPSアンテナ 103
7	フラッシュ 66
8	⚡（フラッシュポップアップ）ボタン 66
9	USB/オーディオビデオ出力端子 ....20、90
10	HDMIミニ端子（Type C） 90
11	端子カバー ....20、90
12	パワーコネクターカバー（別売ACアダプター接続用） .... 🔗100
13	シャッターボタン ....4、32
14	ズームレバー ....31 W：広角ズーム ....31 T：望遠ズーム ....31 ▦：サムネイル表示 ....35 🔍：拡大 ....35 ?：ヘルプ 41
15	セルフタイマーランプ ....69 AF補助光 109
16	レンズ

1	サイドズームレバー ....109 **W**：広角ズーム ....31 **T**：望遠ズーム 31
2	スピーカー .... 88、100、109
3	⎮▭⎮（モニター）ボタン 16
4	視度調節ダイヤル 16
5	電子ビューファインダー 16
6	**DISP**（表示切り換え）ボタン 15
7	●（動画撮影）ボタン ....11、34、96
8	コマンドダイヤル 57
9	液晶モニター ....8、28
10	充電ランプ ....20、89 フラッシュランプ 66
11	▶（再生）ボタン ....11、34
12	ロータリーマルチセレクター （マルチセレクター）....................12
13	Ⓚ（決定）ボタン 12
14	**MENU**（メニュー）ボタン 13
15	🗑（削除）ボタン .... 36、100
16	三脚ネジ穴
17	バッテリー /SDカードカバー ....18、22
18	ロックレバー ....18、22
19	SDカードスロット 22
20	バッテリーロックレバー ....18、19
21	バッテリー室 18

撮影時に使う主な操作部

操作部	名称	主な機能	📖
	モードダイヤル	撮影モードを切り換える	28
	ズームレバー	T（Q）（望遠）方向で被写体を大きく、W（▦）（広角）方向で広い範囲を写す	31
	ロータリーマルチセレクター	→「ロータリーマルチセレクターを使う」をご覧ください。	12
	コマンドダイヤル	プログラムシフト（撮影モードP時）またはシャッタースピード（撮影モードS、M時）を設定する	57、59、110
	MENU（メニュー）ボタン	メニューを表示/終了する	13
	シャッターボタン	半押し：少し抵抗を感じるところまで押し、ピントと露出を固定する 全押し：深く押し込み、シャッターをきる	32
	Fn（ファンクション）ボタン	あらかじめ設定した機能の設定メニューを表示する	110
	再生ボタン	画像を再生する	11、34
	削除ボタン	最後に保存した画像を1コマ削除する	36
	●（動画撮影）ボタン	動画撮影を開始/終了する	96

操作部	名称	主な機能	📖
(モニター切り換えボタン)	▭（モニター）ボタン	表示するモニターを切り換える	16
DISP	DISP（表示切り換え）ボタン	液晶モニターに表示する情報を切り換える	15
T / W	サイドズームレバー	［**サイドズームレバー設定**］で割り当てた機能を使う	109

再生時に使う主な操作部

操作部	名称	主な機能	📖
▶	再生ボタン	• 電源 OFF 時に長押しして、再生モードで電源を ON にする • 撮影に戻る	25 11
T W	ズームレバー	• **T**（Q）方向で拡大表示、**W**（▦）方向でサムネイル / カレンダー表示する • 音声メモ、動画再生の音量を調節する	35 88、100
OK	ロータリーマルチセレクター	→「ロータリーマルチセレクターを使う」をご覧ください。	12
(コマンドダイヤル)	コマンドダイヤル	拡大した画像の倍率を切り換える	35
OK	決定ボタン	• 連写グループの画像を 1 コマずつ表示する • かんたんパノラマで撮影した画像をスクロール再生する • 動画を再生する • サムネイル表示 / 拡大表示から 1 コマ表示に戻る	⚯13 ⚯3 100 12
MENU	MENU（メニュー）ボタン	メニューを表示/終了する	13

操作部	名称	主な機能	📖
🗑	削除ボタン	画像を削除する	36
（シャッターボタン）	シャッターボタン	撮影に戻る	–
🎥 ●	●（🎥動画撮影）ボタン	撮影に戻る	–
□	□（モニター）ボタン	表示するモニターを切り換える	16
DISP	**DISP**（表示切り換え）ボタン	液晶モニターに表示する情報を切り換える	15
Fn	Fn（ファンクション）ボタン	ログ取得中に撮影した画像の撮影地点（緯度、経度、ログの軌跡中の位置）を表示する	⚭73

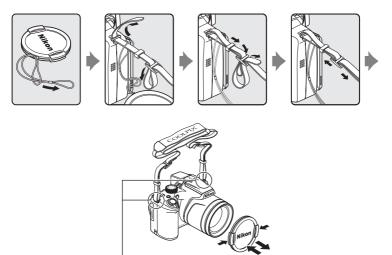
液晶モニターの角度を変える

液晶モニターの角度は、下向きに82°、上向きに90°動かせます。カメラを高い位置や低い位置に構えて撮影するときなどに便利です。

☑ 液晶モニターについてのご注意

- 液晶モニターの角度を変えるときは、無理な力を加えないでください。
- 液晶モニターは、左右方向には動かせません。
- 通常は、液晶モニターの位置をもとに戻してお使いください。

ストラップとレンズキャップの取り付け方

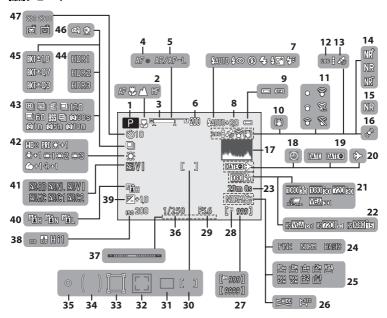
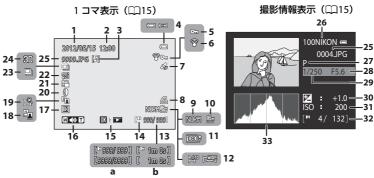
レンズキャップをストラップに取り付けてから、ストラップをカメラに取り付けます。

2 カ所に取り付けます。

レンズキャップについて

- 撮影するときはレンズキャップを外してください。
- 電源をOFFにしているときや持ち運び中など、撮影していないときは、レンズキャップをカメラに取り付けてレンズを保護してください。
- レンズには、レンズキャップ以外のものを取り付けないでください。

液晶モニターの表示内容

• 撮影、再生画面に表示される情報は、カメラの設定や状態によって異なります。
DISP（表示切り換え）ボタンを押すと、情報の表示/非表示が切り換わります（📖15）。

撮影モード

1 撮影モード ....28、29
2 フォーカスモード 73
3 ズーム表示 31
4 AF表示 32
5 AE/AF-L表示 .... ○-○7
6 ズームメモリー 62
7 フラッシュモード 67
8 調光補正 62
9 バッテリー残量表示 24
10 手ブレ補正表示 108
11 Eye-Fi通信表示 .... 111、○-○93
12 ログ取得表示 105
13 GPS受信状態 104
14 ノイズ低減フィルター 62
15 連写NR撮影 43
16 モーション検知表示 109
17 ヒストグラム表示 ....74、108
18 日時未設定 ....27、108
19 デート写し込み 108
20 訪問先 108
21 動画設定（通常速度の動画）..... 99
22 動画設定（HS動画）.................... 99
23 記録可能時間（動画）............96、98
24 画質 77
25 画像サイズ 78
26 かんたんパノラマ 51
27 記録可能コマ数（静止画）....24、79
28 内蔵メモリー表示 24
29 絞り値 57
30 AFエリア（マニュアル、中央時） ....32、49、50、61
31 AFエリア（オート時、ターゲットファインドAF時）...........................61
32 AFエリア（顔認識時、ペット検出時） ....52、61、70、85
33 AFエリア（ターゲット追尾時） 61
34 中央部重点測光範囲 61
35 スポット測光範囲 61
36 シャッタースピード 57
37 露出インジケーター 59
38 ISO感度表示 .... 30、61
39 露出補正値 74
40 アクティブD-ライティング 62
41 COOLPIXピクチャーコントロール 60
42 ホワイトバランス 61
43 連写モード .... 52、61
44 逆光（HDR）................................. 44
45 AEブラケティング 61
46 手持ち撮影/三脚撮影 .... 42、47
47 セルフタイマー 69
笑顔自動シャッター 70
ペット自動シャッター 52

再生モード

1	撮影日 26	16	音量表示 .... 88、100
2	撮影時刻 26	17	黒フレーム済み表示 88
3	音声メモ表示 88	18	D-ライティング済み表示 88
4	バッテリー残量表示 24	19	簡単レタッチ済み表示 88
5	プロテクト表示 88	20	フィルター効果済み表示 88
6	Eye-Fi通信表示 .... 111、⚯93	21	スモールピクチャー .....88、⚯22
7	GPS情報記録済み表示 104	22	美肌編集済み表示 88
8	プリント指定表示 88	23	連写グループ表示 .... ⚯13
9	画質 77	24	3D画像表示 53
10	画像サイズ 78	25	ファイル名 .... ⚯98
11	動画設定 .... 96、99	26	フォルダー名 .... ⚯98
12	かんたんパノラマ表示 51	27	撮影モード※1 29
13	(a)画像の番号/全画像数 .... 34 (b)動画の再生時間 100	28	絞り値 32
14	内蔵メモリー表示 34	29	シャッタースピード 32
15	かんたんパノラマ再生ガイド .... ⚯5 連写グループ再生ガイド ..... ⚯13 動画再生ガイド 100	30	露出補正値 74
		31	ISO感度 61
		32	画像の番号/全画像数 34
		33	ヒストグラム※2

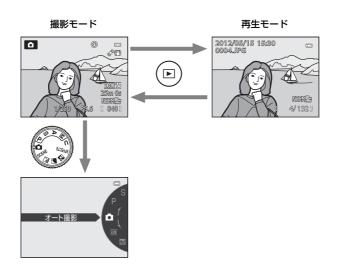
※1 撮影モードが、📷、SCENE、▦、▲、▣、EFFECTS、**P**のときには**P**と表示されます。
※2 ヒストグラムは、画像の明るさの分布を表すグラフです。横軸は輝度を示し、左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります。縦軸は画素数を示します。

基本操作

撮影モードと再生モードを切り換える

このカメラには、画像を撮影する「撮影モード」と、撮影した画像を再生する「再生モード」があります。

「撮影モード」と「再生モード」を切り換えるには、▶（再生）ボタンを押します。

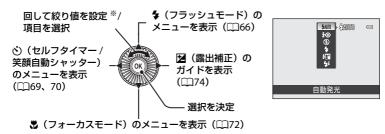
- 再生モードでシャッターボタン、または●（動画撮影）ボタンを押しても、撮影モードになります。

- モードダイヤルを回してアイコンを指標に合わせると、撮影モードの種類が選べます（□28、29）。

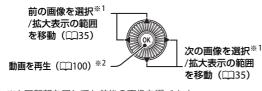
各部の名称と基本操作

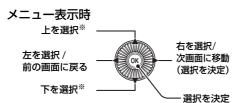
ロータリーマルチセレクターを使う

回転部を回すか、回転部の上（▲）、下（▼）、左（◀）、右（▶）、または㊍ボタンを押して操作します。

- 本書では「ロータリーマルチセレクター」を「マルチセレクター」と表記することがあります。

撮影モード時

※ 撮影モード**A**、**M**時に、絞り値を設定します（59）。メニューの表示中は項目を選べます。

再生モード時

※1 回転部を回しても前後の画像を選べます。
※2 サムネイル表示/拡大表示時は、1コマ表示に戻ります。

メニュー表示時

※ 回転部を回しても上下の項目を選べます。

メニューを使う（MENUボタン）

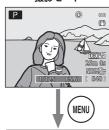
撮影、再生時の画面でMENUボタンを押すと、選んでいるモードに応じたメニューが表示されます。メニュー画面では、撮影や再生、カメラに関する各種設定を変更できます。

撮影モード

タブ

撮影メニュー

再生モード

タブ

再生メニュー

P タブ：
使用中の撮影モード（28）で使える項目を表示します。タブのアイコンは、撮影モードによって異なります。

タブ：
動画撮影専用の項目を表示します。

タブ：
GPS設定メニュー（105）の項目を表示します。

タブ：
セットアップメニュー（カメラに関する基本設定）の項目を表示します。

タブ：
再生モードで使える項目を表示します。

タブ：
GPS設定メニュー（105）の項目を表示します。

タブ：
セットアップメニュー（カメラに関する基本設定）の項目を表示します。

タブの切り換え方

ロータリーマルチセレクターの◀を押してタブに移動します。

ロータリーマルチセレクターの▲▼を押してタブを選び、Ⓚボタンまたは▶を押します。

選んだタブのメニューが表示されます。

メニュー項目の選び方

ロータリーマルチセレクターの▲▼で項目を選び、▶またはⓀボタンを押します。

▲▼で項目を選び、Ⓚボタンを押します。

設定が終わったら、MENU（メニュー）ボタンを押してメニューの表示を終了します。

メニュー表示中のコマンドダイヤル操作について

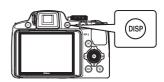
メニュー表示中にコマンドダイヤルを回すと、選んでいる項目の設定値を変更できます。コマンドダイヤルでは変更できない設定値もあります。

メニュー画面が2ページ以上あるとき

ページの位置を示すバーが表示されます。

液晶モニターの表示を切り換える（DISPボタン）

DISP（表示切り換え）ボタンを押すたびに、撮影時や再生時に液晶モニターに表示する情報の切り換えができます。

撮影時

情報ON
撮影画像と撮影情報を表示します。

動画枠表示
動画の写る範囲を枠線で表示します。

情報OFF
撮影画像だけを表示します。

再生時

画像情報ON
再生画像と画像情報を表示します。

撮影情報ON
（動画は除く）
ヒストグラム、撮影情報を表示します※。

情報OFF
再生画像だけを表示します。

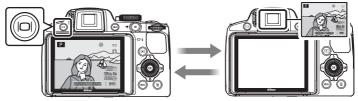
※ ヒストグラムと撮影情報について → 10

撮影時のヒストグラム、格子線表示について

セットアップメニュー（108）の［**モニター設定**］で液晶モニターの表示オプションを変更できます。表示オプションには、ヒストグラム、格子線表示があります。

表示するモニターを切り換える（|□|ボタン）

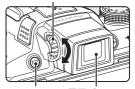
|□|（モニター）ボタンを押すたびに、液晶モニターまたは電子ビューファインダーのどちらかにモニター表示が切り換わります。

電子ビューファインダー

電子ビューファインダーを使う

日差しの強い屋外など、明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、電子ビューファインダーを使って撮影してください。|□|ボタンを押すと、電子ビューファインダーに切り換えられます。

ファインダー内の像が見えにくいときは、ファインダーをのぞきながら、視度調節ダイヤルを回して調節します。

- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

視度調節ダイヤル

|□|ボタン　電子ビューファインダー

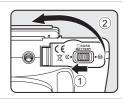
撮影と再生の基本ステップ

準備

撮影

再生

準備1　バッテリーを入れる

1 バッテリー /SDカードカバーを開ける

2 付属のバッテリー EN-EL5（リチウムイオン充電池）を入れる

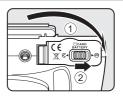
バッテリーロックレバー

- バッテリーでオレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押し下げながら（①）、奥まで差し込みます（②）。
- 正しく入れると、バッテリーロックレバーでバッテリーが固定されます。

逆挿入に注意

バッテリーの向きを間違えると、カメラを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 バッテリー /SDカードカバーを閉じる

- ご購入直後やバッテリー残量が少なくなったときは、バッテリーを充電してからお使いください。→📖20
- バッテリー /SDカードカバーが開いていると、カメラの電源をONにできません。カメラ内のバッテリーも充電できません。

バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにして（📖25）、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開けます。
オレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと（①）、バッテリーが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

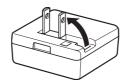
高温注意

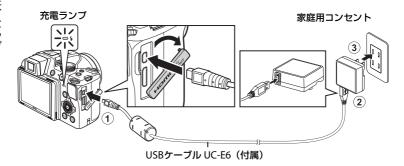
カメラを使った直後は、カメラやバッテリー、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

バッテリーについてのご注意

- リチャージャブルバッテリーをお使いになるときは、「安全上のご注意」の「危険」（📖viii）、「警告」（📖ix）、「注意」（📖ix）の注意事項を必ずお守りください。
- 「取り扱い上のご注意」（🔆2～🔆5）をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。

準備2　バッテリーを充電する

1 付属の本体充電ACアダプター EH-69Pを用意する

2 バッテリーを入れたカメラと本体充電ACアダプターを①～③の順に接続する

- 電源はOFFにしたままにしてください。
- プラグの挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。プラグを外すときも、まっすぐに引き抜いてください。
- バッテリー /SDカードカバーは、閉じてください。

- カメラの充電ランプが緑色でゆっくり点滅し、充電が始まります。
- 残量がないバッテリーの場合、フル充電までの時間は約4時間30分です。
- フル充電されると、充電ランプが消灯します。
- 充電ランプについて➡︎📖21

3 コンセントから本体充電ACアダプターを外し、USBケーブルを外す

- カメラをEH-69Pでコンセントに接続しているときは、カメラの電源はONにできません。

充電ランプについて

状態	意味
ゆっくり点滅（緑色）	充電中です。
消灯	充電していません。ゆっくりした点滅（緑色）から消灯に変わると、充電の完了です。
速い点滅（緑色）	• 使用可能な温度ではありません。周囲の温度が 5 ℃ ～ 35 ℃の室内で充電してください。 • USB ケーブルまたは本体充電 AC アダプターが正しく接続されていないか、バッテリーの異常です。正しく接続し直すか、バッテリーを交換してください。

本体充電ACアダプターについてのご注意

- 本体充電ACアダプターをお使いになるときは、「安全上のご注意」の「警告」（□ix）、「注意」（□x）の注意事項を必ずお守りください。
- 「取り扱い上のご注意」（☼2～☼5）をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。

パソコンや充電器で充電する

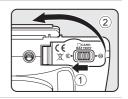
- COOLPIX P510をパソコンに接続してもLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5を充電できます（□90、110）。
- 別売のバッテリーチャージャー MH-61（⚯100）を使うと、カメラを使わずにEN-EL5を充電できます。

AC電源について

- 別売のACアダプター EH-62A（⚯100）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給して撮影または再生ができます。
- EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

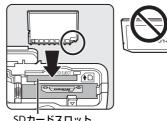
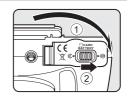
準備3　SDカードを入れる

1 電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー /SDカードカバーを開ける

- カバーを開けるときは、必ず電源をOFFにしてください。

2 SDカードを入れる

- カチッと音がするまで差し込みます。

逆挿入に注意

SDカードの向きを間違えると、カメラやSDカードを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 バッテリー /SDカードカバーを閉じる

SDカードの初期化について

- 他の機器で使ったSD カードをこのカメラで初めて使うときは、このカメラで初期化してからお使いください。
- **SD カードを初期化すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っているときは、初期化する前に、パソコンなどに保存してください。
- SD カードを初期化するには、カードをカメラに入れ、MENU ボタンを押し、セットアップメニュー（□108）の［**カードの初期化**］を選びます。

SDカードについてのご注意

SDカードの使用説明書や「取り扱い上のご注意　メモリーカードについて」（☼5）をご覧ください。

SDカードを取り出すときは

電源をOFFにして、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー /SDカードカバーを開けます。
SD カードを指で軽く奥に押し込むと（①）、SD カードが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

高温注意

カメラを使った直後は、カメラやバッテリー、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

内蔵メモリーとSDカードについて

撮影したデータは、カメラの内蔵メモリー（約90 MB）またはSDカードのどちらかに記録されます。内蔵メモリーを使って記録や再生をするときはSDカードを取り出してください。

推奨SDカード

下記のSDカードの動作を確認しています。

- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。

	SD メモリーカード	SDHC メモリーカード ※2	SDXC メモリーカード ※3
SanDisk	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
TOSHIBA	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic	2 GB※1	4 GB、8 GB、12 GB、16 GB、32 GB	48 GB、64 GB
Lexar	-	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB、128 GB

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

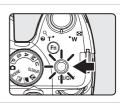
※2 SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。

- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、各カードメーカーにお問い合わせください。その他のメーカー製のSDカードは、動作の保証をいたしかねます。

ステップ1　電源をONにする

1 レンズキャップを外し、電源スイッチを押して電源をONにする

- **はじめて電源をONにしたときは** →**「表示言語と日時を設定する」**（□26）
- レンズが繰り出し、液晶モニターが点灯します。

2 バッテリー残量表示と記録可能コマ数を確認する

バッテリー残量表示

表示	意味
[バッテリーアイコン]	バッテリー残量はあります。
[バッテリーアイコン]	バッテリー残量が少なくなりました。バッテリーの充電や交換の準備をしてください。
❶ **電池残量がありません**	撮影できません。バッテリーを充電または交換してください。

記録可能コマ数

撮影できる残りのコマ数が表示されます。

- SD カードをカメラに入れていないときは、IN が表示され、画像を内蔵メモリー（約90 MB）に記録します。
- 記録可能コマ数は、内蔵メモリーまたはセットしているSDカードのメモリー残量と画質/画像サイズによって異なります（□77）。
- イラスト上の記録可能コマ数の数値は、実際とは異なります。

画面表示について

DISPボタンを押すと、液晶モニターに表示される画像情報や撮影情報の表示/非表示を切り換えできます（□15）。

電源のON/OFFについて

- 電源をONにすると、電源ランプ（緑色）が点灯し、液晶モニターが点灯します（液晶モニターが点灯すると、電源ランプは消灯します）。
- 電源をOFFにするには、電源スイッチを押します。液晶モニターも、電源ランプも消灯します。
- 再生モードで電源を ON にするには、▶（再生）ボタンを長押しします。このとき、レンズは繰り出しません。

節電機能について（オートパワーオフ）

カメラを操作しない状態が続くと、液晶モニターが消灯して待機状態になり、電源ランプが点滅します。待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。
待機中に液晶モニターを再点灯するには、以下の操作のいずれかを行います。

- 電源スイッチ、シャッターボタン、▶ボタン、または●（動画撮影）ボタンを押す。
- モードダイヤルを回す。

- 待機状態になるまでの時間は、セットアップメニュー（□108）の［**オートパワーオフ**］で変更できます。
- 初期設定では、撮影時または再生時は、約1分で待機状態になります。
- ACアダプター EH-62A（別売）使用時は、30分（固定）で待機状態になります。

表示言語と日時を設定する

ご購入後はじめて電源をONにすると、表示言語やカメラの内蔵時計の日時を設定する画面が自動的に表示されます。

1 マルチセレクターの▲または▼で表示言語を選び、Ⓚボタンを押す

マルチセレクター

2 ▲または▼で［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

3 ◀または▶で自宅のある地域（タイムゾーン）を選び、Ⓚボタンを押す

- 夏時間を設定するには→□27

4 ▲または▼で日付の表示順を選び、Ⓚボタンまたは▶を押す

5 ▲、▼、◀または▶で日時を合わせ、Ⓚボタンを押す

- 項目を選ぶ：▶または◀を押します（［**年**］、［**月**］、［**日**］、［**時**］、［**分**］、に切り換わります）。
  マルチセレクターを回しても変更できます。
- 項目の内容を合わせる：▲または▼を押します。
  コマンドダイヤルを回しても変更できます。
- 設定を確認する：［**分**］を選び、Ⓚボタンまたは▶を押します。

撮影と再生の基本ステップ

6　▲または▼で［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 設定が完了すると、レンズが繰り出し、撮影画面になります。

夏時間を設定する

夏時間（サマータイム）制のある地域で、その期間中に日時を設定するときは、手順3の地域設定画面でマルチセレクターの▲を押して夏時間の設定をオンにします。
設定をオンにすると、画面上部にマークが表示されます。
オフにするには、▼を押します。

言語や日時の設定をやり直すには

- セットアップメニュー（108）で［**言語 /Language**］または［**地域と日時**］を設定します。
- セットアップメニュー →［**地域と日時**］→［**タイムゾーン**］で、夏時間の設定をオンにすると時計が1時間早くなり、オフにすると1時間戻ります。訪問先（✈）のタイムゾーンを登録すると、自宅（🏠）との時差を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。
- 日時未設定のまま、設定の画面を終了すると、撮影画面でが点滅します。セットアップメニュー（108）の［**地域と日時**］で日時を設定してください。

時計用電池について

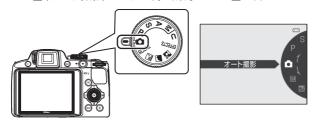
- カメラの時計は、カメラに入れるバッテリーとは別のバックアップ用電池で動いています。
- バックアップ用電池は、カメラにバッテリーを入れるか AC アダプター（別売）を接続すると、約10時間で充電され、設定した日時を数日間、記憶できます。
- バックアップ用電池が切れたときは、電源をONにすると、日時を設定する画面が表示されます。日時を再設定してください。→「表示言語と日時を設定する」手順2（26）

撮影日入りの画像をプリントするときは

- 撮影前に、カメラの日時を正しく設定してください。
- セットアップメニュー（108）で［**デート写し込み**］を設定すると、撮影時に、画像に日付を入れられます。
- ［**デート写し込み**］を設定しないで撮影した画像は、ソフトウェア「ViewNX 2」（91）を使うと、日付を入れてプリントできます。

ステップ2　撮影モードを選ぶ

モードダイヤルを回して、撮影モードを選ぶ

- ここでは、◘（オート撮影）モードを例に説明します。◘に合わせてください。

- ◘（オート撮影）モードの撮影画面になり、撮影モードアイコンが◘になります。

- 液晶モニターの表示内容について → 8

撮影モードの種類

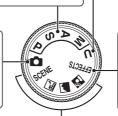
P、S、A、Mモード（□57）

シャッタースピードや絞り値などを自分で決めて、より本格的な撮影を楽しめます。
また、撮影状況や撮影意図に合わせて撮影メニュー（□60）の項目を設定できます。

U ユーザーセッティングモード（□63）

撮影でよく使う設定の組み合わせを登録できます。登録した設定は、モードダイヤルをUに合わせるだけで、すぐに呼び出して撮影できます。

（オート撮影）モード（□40）

細かい設定を気にせず、気軽に基本的な撮影ができます。

EFFECTS スペシャルエフェクトモード（□55）

画像に効果を付けて撮影できます。9種類の撮影効果から選べます。

シーンモード（□41）

撮影シーンを選ぶと、そのシーンに適した設定で撮影できます。
SCENE（シーン）：メニューで16種類のシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、そのシーンに合った設定で撮影ができます。
おまかせシーンモードにすると、構図を決めるだけでカメラが撮影シーンを自動で選ぶので、より簡単にシーンに適した撮影ができます。

- シーンを選ぶには、モードダイヤルをSCENEに合わせてMENUボタンを押し、マルチセレクターの▲▼でシーンを選んでⓀボタンを押します。

（夜景）：夜景の雰囲気を表現して撮影できます。
（風景）：自然の風景や街並みなどを、色鮮やかに撮影したいときに使います。
（逆光）：逆光状態でフラッシュを強制発光して人物が陰にならないように撮影したり、HDRの機能を使って明暗差の大きい風景を撮影したりできます。

フラッシュについて

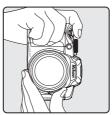
フラッシュを閉じているときは発光禁止に固定され、画面上部にが表示されます。暗いところや逆光などでフラッシュが必要なときは、フラッシュをポップアップしてください（□66）。

撮影モードで使える機能について

- マルチセレクターの▲（）、▼（）、◀（）または▶（）の機能を設定できます。→「マルチセレクターで設定できる機能」（□65）
- MENUボタンを押すと、選んだ撮影モードに応じたメニュー項目が表示されます。
  撮影モードに応じたメニュー項目は、「いろいろな撮影」（□39）をご覧ください。

ステップ3　カメラを構え、構図を決める

1　カメラをしっかりと構える

- レンズやフラッシュ、AF補助光、マイクなどに指や髪、ストラップなどがかからないようにご注意ください。

2　構図を決める

- 写したいもの（被写体）にカメラを向けます。

ISO感度表示について

撮影画面にISO（ISO感度表示、8）が表示されることがあります。ISOが表示されたときは、ISO感度が自動的に上がっています。

電子ビューファインダーについて

日差しの強い屋外など、明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、電子ビューファインダーを使って撮影してください（16）。

三脚の使用について

- 以下の場合などは、手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。
  - 暗い場所で撮影するとき、フラッシュモード（66）を発光禁止にして撮影するとき
  - 望遠側で撮影するとき
- 三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（108）の［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

ズームを使う

ズームレバーを回すと、光学ズームが作動します。

- 被写体を大きく写す：**T**（望遠）方向に回す。
- 広い範囲を写す：**W**（広角）方向に回す。
- ズームレバーをいっぱいまで回すとズーム動作が速くなり、途中まで回すとズーム動作がゆっくりになります（動画撮影中を除く）。
- ズームレバーを回すと液晶モニターの画面上部にズームの位置が表示されます。
- サイドズームレバー（□3）を**T**または**W**方向に操作しても、ズームの操作ができます。
  サイドズームレバーの機能は、セットアップメニュー（□108）の［**サイドズームレバー設定**］で変更できます。

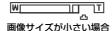
電子ズームについて

光学ズームを最も望遠側（光学ズームの最大倍率）にして、さらにズームレバーを**T**方向に回し続けると、電子ズームが作動します。
電子ズームは、光学ズームの最大倍率の約2倍まで拡大できます。

- 電子ズーム使用時は、AF エリアは表示されず、画面中央でピントが合います。

電子ズームと画質の劣化について

電子ズームは光学ズームとは異なり、画像をデジタル処理で拡大するため、使用する画像サイズ（□78）や電子ズームの倍率によって、画質が劣化します。
ズーム表示の凸マークは、静止画の撮影で画質の劣化が始まるズーム位置を示しています。このマークを越えてズーム倍率を上げると劣化が始まり、ズーム表示も黄色に変わります。
凸マークの位置は画像サイズが小さいほど右に移動しますので、設定した画像サイズで画質を劣化させずに静止画を撮影できるズーム位置を事前に確認できます。

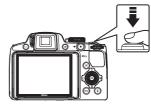
画像サイズが小さい場合

- セットアップメニュー（□108）の［**電子ズーム**］で、電子ズームが作動しない設定にできます。

関連ページ

- ズームメモリー→□62
- 起動ポジション設定→□62

ステップ4　ピントを合わせ、シャッターをきる

1 シャッターボタンを指先に少し抵抗を感じるところまで押し、そのまま止める（これを「半押し」といいます）

- 半押しすると、ピントと露出（シャッタースピードと絞り値の組み合わせ）が決まります。ピントと露出は、半押しを続けている間、固定されます。
- カメラが主要な被写体を検出すると、その被写体にピントが合います。ピントが合うと、AFエリア表示が緑色に点灯します（最大12カ所）。

シャッタースピード　絞り値

- カメラが主要な被写体を検出していないときは、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）。

- 電子ズーム使用時は、AF　エリアは表示されず、画面中央でピントが合います。ピントが合うとAF表示（📖8）が緑色に点灯します。
- 半押しして、AF　エリアまたはAF　表示が赤色に点滅したときは、ピントが合っていません。構図を変えて、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（これを「全押し」といいます）

- シャッターがきれ、画像が記録されます。
- シャッターボタンを押すときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がぶれる（手ブレする）ことがあります。ゆっくりと押し込んでください。

撮影後の記録についてのご注意

撮影後、「記録可能コマ数」または「記録可能時間」が点滅しているときは、画像または動画の記録中です。**バッテリー /SDカードカバーを開けたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。**撮影した画像や動画が記録されないことや、カメラやSDカードが壊れることがあります。

オートフォーカスが苦手な被写体

以下のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。また、AFエリアやAF表示が緑色に点灯しても、まれにピントが合っていないことがあります。

- 被写体が非常に暗い
- 画面内の輝度差が非常に大きい（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- 被写体にコントラストがない（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 同じパターンを繰り返す被写体（窓のブラインドや、同じ形状の窓が並んだビルなど）
- 動きの速い被写体

このような被写体を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、等距離にある別の被写体にピントを合わせて、フォーカスロック撮影（□86）をお試しください。
マニュアルフォーカスでピントを合わせることもできます（□72、⚯2）。

被写体との距離が近い場合

ピントが合わないときは、フォーカスモードの🌷（マクロAF）（□73）またはシーンモードの［**クローズアップ**］（□49）での撮影をお試しください。

AF補助光について

暗い場所などでは、シャッターボタンを半押ししたときにAF補助光（□109）が点灯することがあります。

シャッターチャンスを優先する撮影では

シャッターチャンスが重要な撮影では、半押しせずに、全押ししてもシャッターをきれます。

関連ページ

ピント合わせについて➞（□84）

ステップ5　画像を再生する

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 撮影モードから再生モードに切り換わり、最後に保存した画像を1コマ表示します。

2 マルチセレクターで前後の画像を表示する

- 前の画像を表示する：▲または◀
- 次の画像を表示する：▼または▶
- マルチセレクターを回しても画像を選べます。
- 内蔵メモリーに保存した画像を再生するときは、SDカードを取り出します。「画像の番号/全画像数」にINが表示されます。

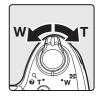
- 撮影に戻るには、もう一度 ▶ ボタンを押すか、シャッターボタンまたは●（動画撮影）ボタンを押します。

画像の再生について

- ボタンを押すと、液晶モニターと電子ビューファインダーのどちらで再生するか切り換えできます（16）。
- DISPボタンを押すと、液晶モニターに表示される画像情報や撮影情報の表示/非表示を切り換えできます（15）。
- 顔認識（85）またはペット検出（52）して撮影した画像は、1コマ表示で再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます。
- 画像の向き（縦横位置）は、再生メニュー（88）の［**画像回転**］で変更できます。
- 連写した画像の場合、一度の連写で撮影した複数の画像が1つのグループとなり、代表画像1コマのみを表示します（連写グループ表示→89）。代表画像の1コマ表示中にOKボタンを押すと、連写グループ内の画像を1コマずつ展開して表示します。代表画像のみの表示に戻すには、マルチセレクターの▲を押します。
- 前後の画像に切り換えた直後は、表示が粗いことがあります。

画像の表示方法を変える

再生モードでズームレバー（**W**（▦）/ **T**（Q））を操作すると、画像の表示方法を変更できます。

拡大表示

1 コマ表示

表示位置ガイド

拡大表示

- 拡大率を調節するには、ズームレバー（**W**（▦）/ **T**（Q））またはコマンドダイヤルを操作します。約10倍まで拡大できます。
- 表示位置を移動するには、マルチセレクターの▲▼◀▶を押します。
- 顔認識（□85）またはペット検出（□52）して撮影した画像は、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示します。複数の顔を認識したときは、▲▼◀▶で、別の顔に移動できます。顔以外の位置を拡大するには、いったん拡大率を変更してから▲▼◀▶を押します。
- MENUボタンを押すと、表示されている部分だけにトリミングし、別画像として保存できます（⊶22）。
- ⓚボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

サムネイル表示/カレンダー表示

1 コマ表示

W
(▦)
T
(Q)

サムネイル表示
（4コマ/9コマ/16コマ/72コマ）

W
(▦)
T
(Q)

カレンダー表示

- 複数の画像を同時に表示するので、目的の画像を探しやすくなります。
- 表示コマ数は、ズームレバー（**W**（▦）/**T**（Q））で変更できます。
- マルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶で画像を選びⓚボタンを押すと、選んだ画像を1コマ表示します。
- サムネイル表示を72コマにした後、ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと、「カレンダー表示」になります。
- カレンダー表示でマルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶で日付を選んでⓚボタンを押すと、その日に撮影した最初の画像に移動して表示します。

ステップ6　不要な画像を削除する

1 削除したい画像を表示し、🗑ボタンを押す

2 マルチセレクターの▲または▼で削除方法を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**表示画像**］：表示している 1 コマを削除します。連写グループの代表画像を選んでいるときは、再生中の連写グループの画像をすべて削除します。
- ［**削除画像選択**］：複数の画像を選んで削除します。→「削除画像選択画面の操作方法」（📖37）
- ［**全画像**］：すべての画像を削除します。
- 削除をやめるには、MENUボタンを押します。

3 ▲または▼で［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 削除した画像は、元に戻せません。
- 削除をやめるときは、▲または▼で［**いいえ**］を選び、Ⓚボタンを押します。

画像削除についてのご注意

- 削除した画像は元に戻せません。残しておきたい画像はパソコンなどに保存することをおすすめします。
- プロテクト設定（📖88）した画像は、削除されません。

連写した画像の削除について

- 連写した画像は、撮影した一連の画像が1つのグループ（連写グループ）となり、初期設定ではグループ内の1コマ目の画像（代表画像）のみを表示します（⚯13）。
- 代表画像のみの表示中に🗑ボタンを押すと、代表画像を含む同じ連写グループの画像すべてが削除の対象になります（⚯14）。
- 連写グループ内の画像を個別に削除するときは、🗑ボタンを押す前にⓀボタンを押して、1コマずつに展開表示してください。

撮影モードで画像を削除する

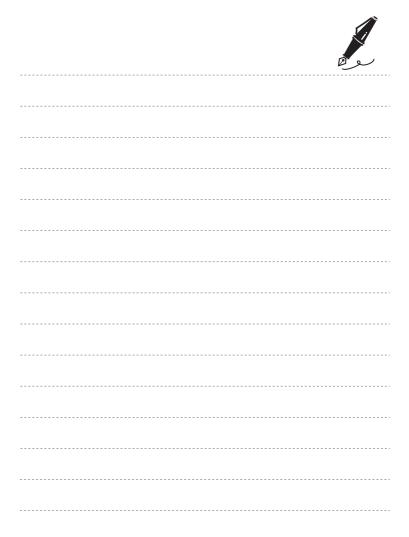
撮影モードで🗑ボタンを押すと、最後に保存した画像を削除できます。

削除画像選択画面の操作方法

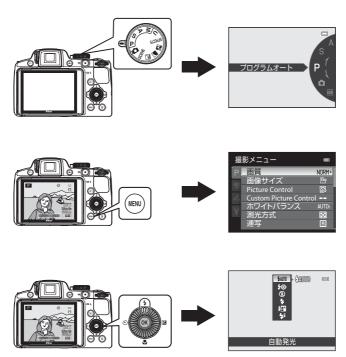
1 マルチセレクターの◀または▶で削除したい画像を選び、▲で✓を表示する

- 選択を解除するときは、▼を押して✓を非表示にします。
- ズームレバー（□31）を**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと一覧表示に切り換わります。

2 削除したい画像すべてに✓を表示し、Ⓚボタンを押して選択を決定する

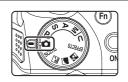
- 確認画面が表示されます。画面の表示に従って操作してください。

いろいろな撮影

この章では、各撮影モードの特徴や、撮影モードで使える機能などを説明しています。

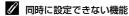
撮影状況や撮影意図に合わせて設定を変えると、撮影方法や画像の仕上がりを工夫できます。

（オート撮影）モード

細かい設定を気にせず、気軽に基本的な撮影ができます。

ピント合わせをするエリアは、構図や被写体によって、カメラが選びます。

- カメラが主要な被写体を検出すると、その被写体にピントが合います（ターゲットファインドAF）。
- カメラが主要な被写体を検出しないときは、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。
  →「ターゲットファインドAFについて」（□84）

（オート撮影）モードの設定を変える

- マルチセレクターで設定できる機能（□65）→ フラッシュモード（□66）、セルフタイマー（□69）/笑顔自動シャッター（□70）、フォーカスモード（□72）、露出補正（□74）
- MENUボタンで設定できる機能 → 画質と画像サイズを設定できます（□77）。

同時に設定できない機能

他の機能と組み合わせて使えない場合があります（□80）。

シーンモード（シーンに合わせて撮影する）

モードダイヤルやシーンメニューから、以下の撮影シーンを選ぶと、そのシーンに合った設定で撮影ができます。

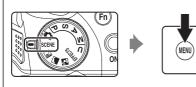
夜景（42）、風景（43）、逆光（44）

モードダイヤルを、またはに合わせて撮影します。

SCENE（シーン）

MENUボタンを押してシーンメニューを表示すると、以下の撮影シーンを選べます。

おまかせシーン（初期設定）（45）	クローズアップ（49）
ポートレート（46）	料理（50）
スポーツ（46）	ミュージアム（50）
夜景ポートレート（47）	打ち上げ花火（50）
パーティー（48）	モノクロコピー（50）
ビーチ（48）	パノラマ（51）
雪（48）	ペット（52）
夕焼け（48）	3D撮影（53）
トワイライト（48）	

各シーンの説明を見るには（ヘルプ表示）

シーンメニューでシーンの種類を選び、ズームレバー（4）を**T**（?）方向に回すと、そのシーンの説明（ヘルプ）を表示できます。元の画面に戻るには、もう一度ズームレバーを**T**（?）方向に回します。

関連ページ

メニュー表示中のコマンドダイヤル操作について→14

シーンモードの設定を変える

- マルチセレクターで設定できる機能（□65）→ シーンによって異なります。「初期設定一覧」をご覧ください（□75）。
- MENU ボタンで設定できる機能 → 画質と画像サイズを設定できます（□77）。

シーンモードの種類と特徴

- 三脚マークが記載されているシーンでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□108）の［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。
- フラッシュを使うシーンでは、フラッシュ（フラッシュポップアップ）ボタンを押してフラッシュをポップアップしてから撮影してください（□66）。

夜景

夜景の雰囲気を表現して撮影できます。
MENU ボタンを押すと、［**夜景**］から［**手持ち撮影**］または［**三脚撮影**］を選べます。

- ［**手持ち撮影**］（初期設定）：手持ちでも手ブレやノイズの少ない撮影ができます。
  - 撮影画面に手持ちアイコンが表示されます。
  - シャッターボタンを全押しすると連続撮影し、画像を重ね合わせて 1 コマ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。

- ［**三脚撮影**］：三脚などで固定して撮影するときに使います。
  - 撮影画面に三脚アイコンが表示されます。
  - ［**手ブレ補正**］（□108）は、セットアップメニューの設定にかかわらず、自動で［**OFF**］になります。
  - シャッターボタンを全押しすると、遅いシャッタースピードで 1 コマ撮影します。

- シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（□8）が緑色に点灯します。

風景

自然の風景や街並みなどを、色鮮やかに撮影したいときに使います。
MENUボタンを押すと、［**風景**］から［**連写NR撮影**］または［**通常撮影**］を選べます。

- ［**連写 NR 撮影**］：ノイズを抑えたシャープな風景を撮影できます。
  - 撮影画面に NR アイコンが表示されます。
  - シャッターボタンを全押しすると連写し、画像を重ね合わせて 1 コマ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。
- ［**通常撮影**］（初期設定）：輪郭やコントラストを強調した画像を記録します。
  - シャッターボタンを全押しすると 1 コマ撮影します。
- シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（□8）が緑色に点灯します。

逆光

逆光状態での撮影に使います。
MENU ボタンを押すと、［**HDR**］からHDR（ハイダイナミックレンジ）合成の設定ができます。

- ［**HDR**］が［**OFF**］のとき（初期設定）：人物が陰にならないように、フラッシュを発光します。
  - フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
  - ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
  - シャッターボタンを全押しすると、1 コマ撮影します。

- ［**HDR**］が［**レベル 1**］～［**レベル 3**］のとき：明暗差の大きい風景撮影に適しています。明暗差が小さいときは［**レベル 1**］が、明暗差が大きいときは［**レベル 3**］が適しています。
  - 撮影画面に HDR アイコンが表示されます。
  - ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
  - シャッターボタンを全押しすると連写し、以下の 2 コマを記録します。
    - HDR 合成していない画像
    - HDR 合成した画像（白とびや黒つぶれを抑えた画像）
  - 記録画像の 2 コマ目が HDR 合成した画像になります。記録可能コマ数が 1 コマの場合は、撮影時に D- ライティング（📖88）で暗い部分を明るく補正し、1 コマ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。
  - 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。レベルの設定を低くすることで調整できます。
  - 三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（📖108）の［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

SCENE ➔ おまかせシーン

構図を決めるだけでカメラが以下の撮影シーンを自動判別して選ぶので、簡単にシーンに適した撮影ができます。

[icon]/[icon]：ポートレート、[icon]：風景、[icon]/[icon]：夜景ポートレート、[icon]：夜景、[icon]：クローズアップ、[icon]/[icon]：逆光、[icon]：その他の撮影シーン

- シーンを自動判別すると、撮影画面の撮影モードアイコンが切り換わります。
- ピント合わせをするエリア（AF エリア）は、構図によってカメラが選びます。カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→ □85）。
- 撮影状況によっては、意図したシーンに切り換わらないことがあります。その場合は、[icon]（オート撮影）モード（□28）に切り換えるか、撮影する被写体にあったシーンモードを選んで撮影してください。
- 電子ズームは使えません。

おまかせシーンのシーン判別と撮影動作について

- 撮影モードアイコンが [icon] や [icon] 時は、1 ～ 2 人のアップに適した動作になります。[icon] や [icon] 時は、3 人以上の撮影や背景の面積が大きい構図に適した動作になります。
- [icon]/[icon]（夜景ポートレート）に切り換わったときは、［**夜景ポートレート**］（□47）の［**三脚撮影**］と同様に、フラッシュモードが赤目軽減固定になり、人物をフラッシュ撮影します（連写はしません）。
- [icon]（夜景）に切り換わったときは、[icon]（夜景）（□42）の［**手持ち撮影**］と同様に、連続で撮影して画像を重ね合わせ、1 コマ記録します。
- 撮影モードアイコンが [icon] 時は、人物以外の撮影に適した動作になります。[icon] 時は、人物撮影に適した顔認識撮影の動作になります。

SCENE ➔ 🙎 ポートレート

人物のポートレート撮影に使います。

- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について➞ 📖85）。
- 美肌機能で人物の顔の肌をなめらかにしてから画像を記録します（📖54）。
- 顔を認識しないときは、画面中央の被写体にピントを合わせます。
- 電子ズームは使えません。

SCENE ➔ 🏃 スポーツ

運動会などスポーツ写真を撮影するときに使います。動きのある被写体の一瞬の動きを連写（連続撮影）によって鮮明にとらえます。

- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
- 連写するには、シャッターボタンを全押しし続けます。約 7 コマ / 秒の速さで最大約 5 コマまで連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが 16M［**4608 × 3456**］のとき）。
- シャッターボタンを半押ししていないときもピント合わせを行います。ピント合わせの動作音が聞こえることがあります。
- 連写した画像のピント、露出および色合いは、1 コマ目と同じ条件に固定されます。
- 画質、画像サイズ、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。

SCENE ➔ 夜景ポートレート

夕景や夜景を背景にした人物撮影に使います。背景の雰囲気を活かしながら人物をフラッシュ撮影します。
シーンモードの［**夜景ポートレート**］を選ぶと表示される画面で、［**手持ち撮影**］または［**三脚撮影**］を選べます。

- ［**手持ち撮影**］：
  - 撮影画面にアイコンが表示されます。
  - 背景が暗いシーンでは、シャッターボタンを全押しすると連続撮影し、画像を重ね合わせて 1 コマ記録します。
  - 望遠側のズーム位置では、背景が暗くても連続撮影しないことがあります。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 連写している間、被写体が動くと画像がゆがんだり、重なったり、ぼやけることがあります。

- ［**三脚撮影**］（初期設定）：三脚などで固定して撮影するときに使います。
  - 撮影画面にアイコンが表示されます。
  - ［**手ブレ補正**］（□108）は、セットアップメニューの設定にかかわらず、自動で［**OFF**］になります。
  - シャッターボタンを全押しすると、遅いシャッタースピードで 1 コマ撮影します。
- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→□85）。
- 美肌機能で人物の顔の肌をなめらかにしてから画像を記録します（□54）。
- 顔を認識しないときは、画面中央の被写体にピントを合わせます。
- フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
- 電子ズームは使えません。

SCENE ➔ パーティー

パーティー会場などでの撮影に使います。キャンドルライトなどの背景を活かして、雰囲気のある画像に仕上げます。

- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
- 暗い場所では手ブレしやすいため、カメラをしっかり持ってください。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（108）の［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

SCENE ➔ ビーチ

晴天の海や砂浜、湖などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。

SCENE ➔ 雪

晴天の雪景色を明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。

SCENE ➔ 夕焼け

赤い夕焼けや朝焼けの撮影に使います。

- シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（8）が緑色に点灯します。

SCENE ➔ トワイライト

夜明け前や日没後のわずかな自然光の中での風景撮影に使います。

- シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（8）が緑色に点灯します。

SCENE ➔ クローズアップ

草花や昆虫、小さな被写体などの接写（近接撮影）に使います。
シーンモードの［**クローズアップ**］を選ぶと表示される画面で、［**連写NR撮影**］または［**通常撮影**］を選べます。

- ［**連写 NR 撮影**］：ノイズを抑えたシャープな撮影ができます。
  - 撮影画面に NR アイコンが表示されます。
  - シャッターボタンを全押しすると連写し、画像を重ね合わせて 1 コマ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 連写中に被写体が動いたり、手ブレが大きかったりすると、画像がゆがんだり、重なったり、ぼやけることがあります。
  - 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。

- ［**通常撮影**］（初期設定）：輪郭やコントラストを強調した画像を記録します。
  - シャッターボタンを全押しすると 1 コマ撮影します。

- フォーカスモード（📖72）が（マクロ AF）になり、ズームが自動的に最短距離で撮影可能な位置まで移動します。
- ピントを合わせるエリア（AF エリア）を移動できます。移動するには、OK ボタンを押し、マルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶ を押します。以下の設定をするときは、OK ボタンを押していったん AF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - フラッシュモード（［**通常撮影**］時）
  - セルフタイマー
  - 露出補正
- シャッターボタンを半押ししていないときもピント合わせを行います。ピント合わせの動作音が聞こえることがあります。

SCENE ➔ 🍴 料理

料理の撮影に使います。

- フォーカスモード（📖72）が 🌷（マクロ AF）になり、ズームが自動的に最短距離で撮影可能な位置まで移動します。
- 色合いをマルチセレクターの ▲▼ で調節できます。色合いの設定は、電源を OFF にしても記憶されます。
- ピントを合わせるエリア（AF エリア）を移動できます。移動するには、Ⓚ ボタンを押し、マルチセレクターを回すか、▲▼◀▶ を押します。以下の設定をするときは、Ⓚ ボタンを押していったん AF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - 色合い
  - セルフタイマー
  - 露出補正
- シャッターボタンを半押ししていないときもピント合わせを行います。ピント合わせの動作音が聞こえることがあります。

SCENE ➔ 🏛 ミュージアム

フラッシュ撮影が禁止されている美術館など、フラッシュを発光させたくない場所で使います。

- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
- シャッターボタンを全押しし続けると、最大 10 コマ連写し、最も鮮明に撮れている 1 コマだけをカメラが自動で選んで記録します（BSS（ベストショットセレクター）（📖61））。

SCENE ➔ 打ち上げ花火

遅いシャッタースピードで、打ち上げ花火を撮影します。

- ピントは、遠景に固定されます。
- シャッターボタンを半押しすると、常に AF 表示（📖8）が緑色に点灯します。

SCENE ➔ ❏ モノクロコピー

ホワイトボードや印刷物などの文字を、シャープに撮影したいときに使います。

- ピントは、画面中央のエリアで合わせます。
- 近くのものを撮影するときは、フォーカスモード（📖72）の 🌷（マクロ AF）を併用してください。

SCENE ➔ パノラマ

パノラマ写真の撮影に使います。
シーンモードの［**パノラマ**］を選ぶと表示される画面で、［**かんたんパノラマ**］または［**パノラマアシスト**］を選べます。

- ［**かんたんパノラマ**］（初期設定）：パノラマ写真をつくりたい方向にカメラを動かすだけで、カメラで再生可能なパノラマ写真を撮影できます。
  - 撮影する範囲を［**標準（180°）**］（初期設定）、または［**ワイド（360°）**］から選べます。
  - シャッターボタンを全押しして指を離し、水平方向にカメラをゆっくり動かします。設定した範囲を撮影し終えると自動で撮影が終了します。
  - ピントは、撮影開始時に画面中央のエリアで合わせます。
  - ズーム位置は広角側に固定されます。
  - かんたんパノラマで撮影した画像は、1 コマ再生時に ⓚ ボタンを押すと、画像の短辺を画面いっぱいに表示し、表示範囲を自動で移動（スクロール）します。
    →「かんたんパノラマの使い方（撮影と再生）」（⚯3）

- ［**パノラマアシスト**］：パノラマ写真用の画像を複数撮影し、パソコンでパノラマ写真に合成したいときに使います。
  - 画像をつなげる方向をマルチセレクターの ▲▼◀▶ で選び、ⓚ ボタンを押します。
  - 1 コマ目を撮影したら、画面の表示でつなぎ目を確認しながら必要なコマ数を撮影します。撮影を終了するには、ⓚ ボタンを押します。
  - 撮影した画像は、パソコンに取り込んで、ソフトウェア「Panorama Maker 6」（□92、⚯7）で合成してください。
    →「パノラマアシストの使い方」（⚯6）

✔ パノラマ写真をプリントするときのご注意

パノラマ写真をプリントする場合、プリンターの設定によっては、全景をプリントできないことがあります。また、プリンターによっては、プリントできないことがあります。
詳しくは、お使いのプリンターの説明書またはプリントサービス店などでご確認ください。

SCENE ➔ ペット

犬または猫の撮影に使います。

- シーンモードの[**ペット**]を選ぶと表示される画面で、[**単写**]または[**連写**]を選びます。
  - [**単写**]：1 コマずつ撮影します。
  - [**連写**]（初期設定）：[**ペット自動シャッター**]（初期設定）のときは、検出した顔にピントが合うと、3 コマ連写します（連写速度：画質[**NORMAL**]、画像サイズ[**4608 × 3456**]のとき約3コマ/秒）。ペット自動シャッターを使わないときは、シャッターボタンを全押ししている間、最大約 3 コマ / 秒で約 5 コマ連写できます（画質[**NORMAL**]、画像サイズ[**4608 × 3456**]のとき）。
- カメラが犬または猫の顔を検出し、その顔にピントを合わせます。初期設定では、ピントが合うと自動でシャッターをきります（ペット自動シャッター）。
- 最大 5 匹の顔を同時に検出します。顔を複数検出したときは、画面内で最も大きい顔でピントを合わせます。
- ペットを検出していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央の被写体にピントを合わせます。
- マルチセレクターの◀（）を押すと、自動シャッターの設定を変更できます。
  - [**ペット自動シャッター**]（初期設定）：検出した顔にピントが合うと自動でシャッターをきります。[**ペット自動シャッター**]設定時は、撮影画面に が表示されます。
  - [**OFF**]：シャッターボタンのみでシャッターをきります。
- 以下の場合は[**ペット自動シャッター**]が自動的に[**OFF**]になります。
  - 自動シャッターによる連写を 5 回繰り返したとき
  - 撮影中に内蔵メモリーまたは SD カードの残量がなくなったとき

  ペット自動シャッターで撮影を続けるときは、マルチセレクターの◀（）を押して、再設定してください。
- 電子ズームは使えません。
- ペットとの距離、ペットの動く速さ、顔の向きや明るさなど、撮影条件によっては、犬や猫を検出しないことや、犬や猫以外に枠が表示されることがあります。

ペット検出撮影した画像の再生について

- 再生すると、ペットの顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます（連写した画像を除く）。
- 1コマ表示でズームレバーを**T**（）方向に回すと、撮影時に検出したペットの顔を中心に拡大表示されます（35）（連写した画像を除く）。

いろいろな撮影

SCENE ➔ 3D 3D撮影

3D対応のテレビやモニターで、立体で表示可能な3D画像の撮影に使います。立体で表示するため、左目用と右目用の2コマを撮影します。
保存される画質は［NORMAL］、画像サイズは 16:9 2M［1920 × 1080］になります。

- シャッターボタンを押して 1 コマ目を撮影したら、画面のガイドに被写体が重なるようにカメラを右に水平移動します。2 コマ目は自動的にシャッターがきれます。
- ピントを合わせるエリア（AF エリア）を中央以外に移動できます。移動するには、1 コマ目の撮影前に OK ボタンを押し、マルチセレクターを回すか、▲▼◀▶ を押します。
  以下の設定をするときは、OK ボタンを押していったん AF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - フォーカスモード（AF（通常 AF）または 🌷（マクロ AF））
  - 露出補正
- 望遠側のズーム位置は､35mm 判換算で 135 mm 相当の撮影画角までに制限されます。
- 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。
- 3D 動画は撮影できません。
- 撮影した 2 コマは、左目用と右目用を含む 3D 画像（MPO ファイル）として保存されます。このとき、1 コマ目（左目用）の JPEG ファイルも同時に保存されます。→「3D 撮影の使い方」（⚯8）

☑ 3D撮影についてのご注意

被写体が動く、暗い、コントラストが低いなど、撮影条件によっては、2コマ目を撮影できないことや、撮影した画像を保存できないことがあります。

☑ 3D画像の再生方法

- カメラの液晶モニターでは 3D（立体）で再生できません。左目用の画像のみで再生されます。
- 3D（立体）で見るには、3D 対応のテレビまたはモニターが必要です。カメラを 3D 対応のHDMI ケーブルで接続すると（📖90）、3Dで再生できます。
- カメラをHDMI ケーブルで接続するときは、セットアップメニュー（📖108）→［**TV 出力設定**］を以下に設定してください。
  - ［**HDMI**］：［**オート**］（初期設定）または［**1080i**］
  - ［**HDMI 3D 出力**］：［**ON**］（初期設定）
- カメラをHDMI 接続して再生しているときは、3D以外の画像との表示の切り換えに時間がかかることがあります。3D（立体）で再生している画像は拡大表示できません
- テレビまたはモニターの設定は、お使いのテレビまたはモニターの説明書をご確認ください。

☑ 3D再生についてのご注意

3D画像を3D対応のテレビまたはモニターで長時間見続けると、眼の疲労や、気分が悪くなるなどの不快な症状が出ることがあります。お使いのテレビまたはモニターの説明書をよくご覧になり、適切に使用してください。

美肌機能について

以下の撮影モードではシャッターがきれると、人物の顔をカメラが検出し（最大3人）、画像処理で顔の肌をなめらかにしてから画像を記録します。

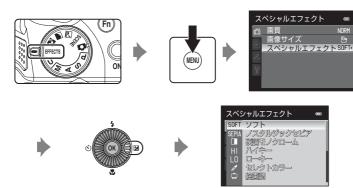
- シーンモードの［**おまかせシーン**］（□45）、［**ポートレート**］（□46）または［**夜景ポートレート**］（□47）

撮影後にも、記録した画像に美肌の編集ができます（□88）。

美肌機能についてのご注意

- 画像の記録に時間がかかることがあります。
- 撮影条件によっては、美肌の効果が表れないことや、顔以外の部分が画像処理されることがあります。

スペシャルエフェクトモード（効果を付けて撮影する）

画像に効果を付けて撮影できます。9種類の撮影効果のいずれかを選んで撮影します。
効果を選ぶには、MENUボタンを押してスペシャルエフェクトメニューを表示します。

• ピントは、画面中央のエリアで合わせます。

スペシャルエフェクトの種類と特徴

項目	内容
ソフト（初期設定）	やわらかな雰囲気にするために、画像全体を少しぼかします。
ノスタルジックセピア	セピア色でコントラストが低めの、昔の写真のような雰囲気にします。
硬調モノクローム	コントラストがはっきりした調子の白黒写真にします。
ハイキー	画像全体を明るいトーンで表現します。
ローキー	画像全体を暗いトーンで表現します。

項目	内容
セレクトカラー	画像の特定の色だけを残し、他の部分を白黒にします。 ・［**セレクトカラー**］を選んだときは、残したい色をマルチセレクターを回すか、▲▼を押してスライダーから選びます。以下の設定をするときは、Ⓚボタンを押していったん色を選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。 - フラッシュモード（□66） - セルフタイマー（□69） - フォーカスモード（□72） - 露出補正（□74） もう一度Ⓚボタンを押すと、再び色を選べる状態になります。 OK 色決定 1/250 F5.6 スライダー
絵画調	画像処理を行い、絵画のような雰囲気で撮影します。
高感度モノクロ	意図的に高感度で撮影して、モノトーン（白黒）で表現します。暗いところでの撮影に適しています。 ・撮影した画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。
シルエット	背景が明るい場面で、被写体がシルエットになるように表現します。

スペシャルエフェクトモードの設定について

［**動画設定**］（□99）がVGA120［**HS 120 fps (640×480)**］のときは、［**ソフト**］、［**ノスタルジックセピア**］または［**絵画調**］は選べません。

関連ページ

メニュー表示中のコマンドダイヤル操作について➞□14

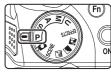
スペシャルエフェクトモードの設定を変える

- マルチセレクターで設定できる機能（□65）→　スペシャルエフェクトによって異なります。「初期設定一覧」をご覧ください（□75）。
- MENUボタンで設定できる機能 → 画質と画像サイズを設定できます（□77）。

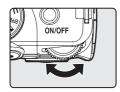
同時に設定できない機能

他の機能と組み合わせて使えない場合があります（□80）。

P、S、A、Mモード（露出を設定して撮影する）

撮影状況や撮影意図に合わせて、シャッタースピードや絞り値を自分で設定できるほか、撮影メニュー（□60）の項目を設定して、より本格的な撮影を楽しめます。

- ピント合わせをするエリアは、MENU ボタン→ **P**、**S**、**A**、**M**タブ→［**AFエリア選択**］の設定によって異なります。
- ［**AFエリア選択**］が［**オート**］（初期設定）のときは、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）。

シャッタースピードや絞り値を自分で調節して、画像が意図した明るさ（露出）で撮影されるようにすることを「露出を合わせる」といいます。
同じ露出でもシャッタースピードと絞り値の組み合わせによって撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合が変わります（□58）。

シャッタースピードや絞り値を設定するには、コマンドダイヤルやマルチセレクターを回します。

コマンドダイヤル

マルチセレクター

シャッタースピード　**絞り値**

露出モード		シャッタースピード（□83）	絞り値（□58）
P	**プログラムオート**（□59）	自動調節（コマンドダイヤルでプログラムシフト可能）	
S	**シャッター優先オート**（□59）	コマンドダイヤルで調節	自動調節
A	**絞り優先オート**（□59）	自動調節	マルチセレクターで調節
M	**マニュアル露出**（□59）	コマンドダイヤルで調節	マルチセレクターで調節

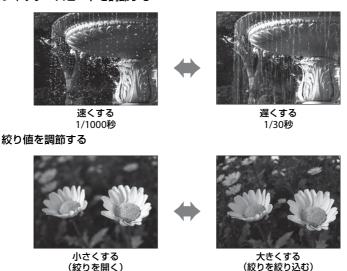
プログラムシフト、シャッタースピードまたは絞り値の設定方法は、セットアップメニュー（□108）の［**Av/Tv操作切り換え**］で変更できます。

シャッタースピードを調節する

速くする
1/1000秒

遅くする
1/30秒

絞り値を調節する

小さくする
（絞りを開く）
f/3

大きくする
（絞りを絞り込む）
f/8.3

絞りとズームについて

絞り値（F値）とはレンズの明るさを示す値です。レンズの絞り値は、数値が小さくなるほど明るくなり、大きくなるほど暗くなります。レンズの一番明るい絞り値を「開放絞り」といい、一番暗い絞り値を「最小絞り」といいます。
このカメラのズームレンズは、ズーム位置によって絞り値が変化します。広角側の開放絞りはf/3、望遠側の開放絞りはf/5.9です。

U（ユーザーセッティング）モードについて

モードダイヤルの**U**（ユーザーセッティング）モードでも、**P**（プログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）または**M**（マニュアル露出）で撮影できます。**U**には、撮影でよく使う設定の組み合わせ（ユーザーセッティング）を登録できます（□64）。

P（プログラムオート）（⊶10）

露出の設定をカメラにまかせて撮影します。

- 撮影中にコマンドダイヤルを回すと、露出値を変えずにシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中は、液晶モニター左上の**P**表示の横にプログラムシフトマーク（✱）が表示されます。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク（✱）が消えるまでコマンドダイヤルを回します。モードダイヤルを切り換えたり、電源をOFFにしても、プログラムシフトを解除できます。

S（シャッター優先オート）（⊶10）

動きの速い被写体を速いシャッタースピードで撮影したり、遅いシャッタースピードで動きを強調するときなどに使います。

- コマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを調節できます。

A（絞り優先オート）（⊶10）

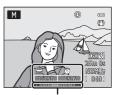
手前から奥まで鮮明に写したり、背景の描写をやわらげたいときなどに使います。

- マルチセレクターを回すと、絞り値を調節できます。

M（マニュアル露出）（⊶11）

撮影意図に合わせて、露出をコントロールしたいときに使います。

露出インジケーター

- 設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測定した適正露出値の差が液晶モニターの露出インジケーターに表示されます。露出インジケーターは、−2 EVから+2 EVの範囲で1/3 段ごとに表示されます。
- コマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを調節でき、マルチセレクターを回すと、絞り値を調節できます。

P、S、A、Mモードの設定を変える

- マルチセレクターで設定できる機能（□65）→ フラッシュモード（□66）、セルフタイマー（□69）/笑顔自動シャッター（□70）、フォーカスモード（□72）、露出補正（□74）
- MENUボタンで設定できる機能 → 撮影メニューの種類（下記）

撮影メニューの種類

P、**S**、**A**、**M**モードでは、以下の項目の設定が変更できます。

P、**S**、**A**、**M**モードにする ➔ MENUボタン ➔ **P**、**S**、**A**、**M**タブ（□13）

項目	内容	□
画質	記録する画質（画像の圧縮率）を設定します（□77）。初期設定は［**NORMAL**］です。この設定は、他の撮影モードにも適用されます。（撮影モード**U**、シーンモードの［**かんたんパノラマ**］、［**3D撮影**］を除く）。	77
画像サイズ※1	記録する画像サイズ（画像の大きさ）を設定します（□78）。初期設定は16M［**4608 × 3456**］です。この設定は、他の撮影モードにも適用されます。（撮影モード**U**、シーンモードの［**かんたんパノラマ**］、［**3D撮影**］を除く）。	78
Picture Control※1（COOLPIX**ピクチャーコントロール**）	撮影状況や好みに合わせて、記録する画像の画（え）作りを設定できます。初期設定は［**スタンダード**］です。	➡33
Custom Picture Control（COOLPIX**カスタムピクチャーコントロール**）	撮影状況や好みに合わせて、記録する画像の画（え）作りを設定できる「COOLPIXピクチャーコントロール」を元に調整したカスタム設定を登録できます。	➡37

項目	内容	📖
ホワイトバランス※1	画像の色合いを見た目に近づけたいときなどに設定します。［**オート（標準）**］（初期設定）でほとんどの状況に対応できますが、思い通りの色合いにならないときは、天候や光源に合わせて設定してください。 ・プリセットマニュアルのプリセット値は、撮影モード **P**、**S**、**A**、**M**、**U** で共通です。	⊶38
測光方式※1	被写体の明るさを測定する方式を選びます。測定した明るさで露出（シャッタースピードと絞り値の組み合わせ）が決まります。初期設定は［**マルチパターン**］です。	⊶40
連写※1	連続撮影の設定をします。 ・初期設定は［**単写**］（1 コマずつ撮影）です。 ・［**連写 H**］、［**連写 L**］、［**先撮り撮影**］または［**BSS**］（📖50）の設定時は、シャッターボタンを全押しし続けて連写します。 ・［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］または［**マルチ連写**］の設定時は、シャッターボタンを全押しすると、設定に応じたコマ数を一度に連写します。 ・［**インターバル撮影**］の設定時は、シャッターボタンを 1 回全押しすると、［**30 秒**］、［**1 分**］、［**5 分**］または［**10 分**］間隔で自動的に連続撮影します。	⊶41
ISO**感度設定**※1	ISO感度を高くするほど、より暗い被写体を撮影できます。また、同じ明るさの被写体でも、より速いシャッタースピードで撮影でき、手ブレや被写体ブレを軽減しやすくなります。［**オート**］（初期設定）では、カメラが自動でISO感度を設定します。 ・**M**（マニュアル露出）モードのときに［**オート**］、［**感度制限オート**］に設定すると、ISO 感度は ISO 100 に固定されます。	⊶45
AE**ブラケティング**	露出（明るさ）を自動的に変えながら連続撮影できます。初期設定は［**OFF**］です。	⊶46
AF**エリア選択**※1	AF（オートフォーカス）でピント合わせをするエリアの決め方を［**顔認識オート**］、［**オート**］（初期設定）、［**マニュアル**］、［**中央**］、［**ターゲット追尾**］または［**ターゲットファインドAF**］に設定します。	⊶47

P、S、A、M モード（露出を設定して撮影する）

項目	内容	📖
AFモード	シャッターボタンを半押ししたときのみピント合わせを行う［**シングルAF**］（初期設定）、または半押ししていないときもピント合わせを行う［**常時AF**］を選べます。ピント合わせの動作音が聞こえることがあります。	⚫51
調光補正	フラッシュの発光量を補正できます。フラッシュが明るすぎるときや暗すぎるときなどに使います。初期設定は［**0.0**］です。	⚫52
ノイズ低減フィルター	画像の記録時に通常行うノイズ低減機能の強さを設定します。初期設定は［**標準**］です。	⚫52
Active D-ライティング	ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減し、見た目のコントラストに近い画像で撮影します。初期設定は［**OFF**］です。	⚫53
User Setting 登録	現在の設定をモードダイヤル**U**（📖63）に登録します。	64
User Setting リセット	モードダイヤル**U**に登録した設定内容をリセットします。	64
ズームメモリー	［**ON**］時は、ズームレバーを操作すると、あらかじめ設定したズームレンズの焦点距離（35mm判換算の撮影画角）に段階的に切り換えできます。初期設定は［**OFF**］です。 • ［**ON**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、焦点距離を選ぶ画面が表示されます。Ⓚ ボタンを押してオン［✔］/ オフを切り換え、マルチセレクターの▶を押して確定します。	⚫54
起動ポジション設定※2	電源をONにしたとき、あらかじめ設定したズームレンズの焦点距離（35mm判換算の撮影画角）にズームポジションが移動します。初期設定は［**24 mm**］です。	⚫54

※1 セットアップメニュー（📖108）の［**Fnボタン設定**］でFn（ファンクション）ボタンの機能に割り当てると、撮影時にFnボタンを押しても、設定メニューを表示できます。

※2 **U**モード時は設定できません。

関連ページ

メニュー表示中のコマンドダイヤル操作について➞📖14

同時に設定できない機能

他の機能と組み合わせて使えない場合があります（📖80）。

いろいろな撮影

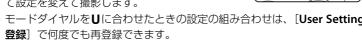
U（ユーザーセッティング）モード

撮影でよく使う設定の組み合わせ（ユーザーセッティング）を**U**に登録できます。**P**（プログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）または**M**（マニュアル露出）で撮影できます。

モードダイヤルを回して、**U** に合わせると、［**User Setting 登録**］で登録した設定になります。

→「**U**モードに設定を登録する」（🕮64）

- そのまま、構図を決めて撮影するか、必要に応じて設定を変えて撮影します。

- モードダイヤルを**U**に合わせたときの設定の組み合わせは、［**User Setting 登録**］で何度でも再登録できます。

Uには、以下の設定内容を登録できます。

基本設定

- 撮影モード**P**/**S**/**A**/**M**（🕮57）※1
- ズーム位置（🕮31）※3
- フォーカスモード（🕮72）※4
- モニター表示（🕮16）※2
- フラッシュモード（🕮66）
- 露出補正（🕮74）

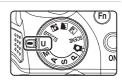
撮影メニュー

- 画質（🕮77）
- Picture Control（🕮60）
- 測光方式（🕮61）
- ISO感度設定（🕮61）
- AFエリア選択（🕮61）※6
- 調光補正（🕮62）
- Active D-ライティング（🕮62）
- 画像サイズ（🕮78）
- ホワイトバランス（🕮61）※5
- 連写（🕮61）
- AEブラケティング（🕮61）
- AFモード（🕮62）
- ノイズ低減フイルター（🕮62）
- ズームメモリー（🕮62）

※1 基準となる撮影モードを選びます。登録時のプログラムシフトの設定（**P**のとき）、シャッタースピード（**S**、**M**のとき）、絞り値（**A**、**M**のとき）も記憶します。
※2 液晶モニターと電子ビューファインダーのどちらで見るかを登録します。登録時に表示に使っている方を記憶します。
※3 登録時のズーム位置も記憶します。［**起動ポジション設定**］（🕮62）は設定できません。
※4 フォーカスモードが**MF**（マニュアルフォーカス）のときは、登録時のフォーカスの距離も記憶します。
※5 プリセットマニュアルのプリセット値は、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**、**U**で共通です。
※6 ［**AFエリア選択**］が［**マニュアル**］のときは、登録時のAFエリアの位置も記憶します。

Uモードに設定を登録する

1 登録したい露出モードにモードダイヤルを合わせる

- P、S、AまたはMに合わせてください。
- Uに合わせても登録できます（ご購入時は、撮影モードPの初期設定が登録されています）。

2 撮影時の設定を、よく使う組み合わせに変更する

- 登録内容は63ページをご覧ください。

3 MENUボタンを押す

- 撮影メニューが表示されます。

4 マルチセレクターで［**User Setting 登録**］を選んで、Ⓚボタンを押す

- ［**登録終了**］画面が表示され、現在の設定内容が登録されます。

時計用電池のご注意

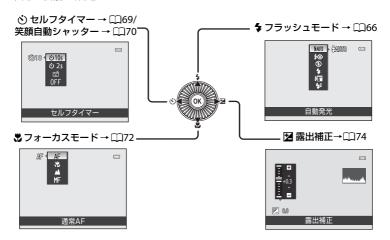
内蔵の時計用電池（📖27）が切れると、Uに登録した設定内容がリセットされますのでご注意ください。重要な設定は、必要に応じてメモしておくことをおすすめします。

User Settingのリセットについて

［**User Settingリセット**］を選ぶと、ユーザーセッティングに登録された設定内容は、以下のようにリセットされます。

- 撮影モード：P（プログラムオート）
- ズーム位置：最も広角側
- フラッシュモード：⚡AUTO（自動発光）
- フォーカスモード：AF（通常AF）
- 露出補正：0.0
- 撮影メニュー：それぞれの項目の初期設定と同じ

マルチセレクターで設定できる機能

撮影時にマルチセレクターの▲（⚡）、◀（⏲）、▼（🌷）、▶（☒）を押すと、下記の機能を設定できます。

設定できる機能の種類

設定できる機能は、撮影モードによって、以下のように異なります。

- 各撮影モードの初期設定は「初期設定一覧」（▯75）をご覧ください。

機能		📷	SCENE、▣、▲、▣	EFFECTS	P、S、A、M、U
⚡	フラッシュモード（▯66）	○	※1	※1	○
⏲	セルフタイマー（▯69）	○		○	○
	笑顔自動シャッター（▯70）	○		×	○
🌷	フォーカスモード（▯72）	○		○	○
☒	露出補正（▯74）	○		○	○※2

※1 シーンやスペシャルエフェクトによって異なります。→「初期設定一覧」（▯75）
※2 撮影モードが**M**モードの場合は、露出補正は使えません。

フラッシュモード（フラッシュを使う）

フラッシュをポップアップするとフラッシュ撮影ができます。フラッシュの発光モード（フラッシュモード）を撮影状況に合わせて設定できます。

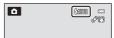
1 ⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押し、フラッシュをポップアップする

- フラッシュを閉じているときは⊕（発光禁止）に固定されます。

2 マルチセレクターの▲（⚡ フラッシュモード）を押す

3 マルチセレクターでモードを選び、Ⓞ ボタンを押す

- フラッシュモードの種類→□67
- Ⓞボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

- ⚡AUTO（自動発光）にするとモニター情報表示（□15）がONでも、⚡AUTOは数秒間で消えます。

4 構図を決めて撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、フラッシュランプでフラッシュの状態を確認できます。
  - 点灯：シャッターボタンを全押しすると、発光します。
  - 点滅：フラッシュの充電中です。撮影できません。
  - 消灯：発光しません。
- バッテリー残量が少なくなると、フラッシュの充電中は液晶モニターが消灯します。

いろいろな撮影

フラッシュの収納

フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で軽く押し下げて、閉じてください。

フラッシュの光が届く距離

フラッシュの光が充分に届く距離は、広角側で約0.5～8.0 m、望遠側で約1.5～4.5 mです（[**ISO感度設定**］が［**オート**］時）。

フラッシュモードの種類

AUTO	**自動発光**
	暗い場所などで、自動的にフラッシュを発光します。
	赤目軽減自動発光
	人物撮影に適しており、フラッシュで人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します（□68）。
	発光禁止
	フラッシュは発光しません。 ・暗い場所で撮影するときは、手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。
	強制発光
	被写体の明るさに関係なく、フラッシュを発光します。逆光で撮影するときなどに使います。
	スローシンクロ
	強制発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせて撮影します。夕景や夜景を背景にした人物撮影に適しています。フラッシュでメインの被写体を明るく照らすと同時に、遅いシャッタースピードで背景を写します。
	リアシンクロ
	シャッターが閉じる直前にフラッシュを強制発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したいときなどに適しています。

フラッシュモードの設定について

- 設定は、撮影モードによって異なります。
  →「設定できる機能の種類」（□65）
  →「初期設定一覧」（□75）
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）
- 以下の場合、変更したフラッシュモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。
  - 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**の場合
  - （オート撮影）モードで、（赤目軽減自動発光）にして撮影した場合

赤目軽減自動発光について

このカメラは、「アドバンスト赤目軽減方式」を採用しています。
画像の記録時に赤目現象を検出すると、赤目部分を画像補正して記録します。
撮影する際は、以下にご注意ください。

- 画像の記録にかかる時間は、通常よりも少し長くなります。
- 撮影状況によっては、望ましい結果を得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分を補正することがあります。この場合は、他のフラッシュモードにして撮影し直してください。

セルフタイマーを使う

記念撮影などで自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときは、セルフタイマーが便利です。
セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□108）の［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

1 マルチセレクターの◀（セルフタイマー）を押す

2 マルチセレクターで［**10s**］（または［**2s**］）を選び、ⓀボタンをPress押す

- ［**10s**］（10秒）：記念撮影などに適しています。
- ［**2s**］（2秒）：手ブレの軽減に適しています。
- 撮影モードがシーンモードの［**ペット**］のときは、（ペット自動シャッター）が表示されます（□52）。セルフタイマー［**10s**］、［**2s**］は使えません。
- 設定したセルフタイマーモードが表示されます。
- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 構図を決め、シャッターボタンを半押しする

- ピントと露出を合わせます。

4 シャッターボタンを全押しする

- セルフタイマーが作動し、シャッターがきれるまでの秒数が表示されます。作動中はセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約1秒前になると、点灯に変わります。
- シャッターがきれると、セルフタイマーは［**OFF**］になります。
- セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

笑顔自動シャッター（笑顔を撮影する）

カメラが人物の笑顔を検出すると、シャッターボタンを押さなくても自動でシャッターがきれます。

- 撮影モードが📷（オート撮影）、**P**、**S**、**A**、**M**、**U**、シーンモードの［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］のときに使えます。

1 マルチセレクターの◀（ セルフタイマー）を押す

- フラッシュモード、露出、撮影メニューなどを設定するときは、 を押す前に設定してください。

2 マルチセレクターで （笑顔自動シャッター）を選び、Ⓚボタンを押す

- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 構図を決め、シャッターボタンを押さずに笑顔を待つ

- カメラが人物の顔を認識すると、顔が黄色い二重枠のAFエリア表示で囲まれ、ピントが合うと二重枠が一瞬緑色になりピントが固定されます。
- 最大3 人の顔を認識します。複数の顔を認識したときは、最も画面の中央に近い顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれ、他の顔が一重枠で囲まれます。
- カメラが二重枠で囲まれた人物の笑顔を検出すると、自動的にシャッターがきれます。
- シャッターがきれるたびに、顔認識と笑顔検出による自動撮影を繰り返します。

4 撮影を終了する

- 笑顔検出による自動撮影を終了するには、手順1に戻って［**OFF**］を選びます。

笑顔自動シャッターについてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- 撮影条件などによっては、適切に顔の認識や笑顔の検出ができないことがあります。
- 「顔認識撮影した画像の再生について」→□85
- 撮影モードによっては、笑顔自動シャッターを使えません。
  →「設定できる機能の種類」（□65）
  →「初期設定一覧」（□75）
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

笑顔自動シャッター使用時の節電機能について

笑顔自動シャッター使用時は、カメラを操作しないまま以下の状態が続くと、オートパワーオフ（□109）が作動して、電源がOFFになります。

- カメラが顔を認識しない。
- カメラが顔を認識していても、笑顔を検出できない。

セルフタイマーランプの点滅について

笑顔自動シャッターでは、カメラが顔を認識すると点滅し、シャッターがきれた直後は速く点滅します。

手動でシャッターをきるには

シャッターボタンを押してもシャッターがきれます。顔認識していないときは、画面中央の被写体にピントが合います。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体 → □33

フォーカスモードを使う

撮影目的に合わせて、以下のフォーカスモードを選べます。

1 マルチセレクターの▼（フォーカスモード）を押す

2 マルチセレクターでフォーカスモードを選び、ボタンを押す

- フォーカスモードの種類→73
- ボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

- AF（通常AF）にするとモニター情報表示（15）がONでも、AFが数秒間で消えます。

フォーカスモードの種類

AF	**通常AF**
	被写体までの距離に応じて自動的にピントを合わせます。レンズから50 cm以上（最も望遠側の場合は1.5 m以上）離れた被写体を撮影するときに使います。
🌷	**マクロAF**
	花や虫など小さな被写体の近接撮影に使います。 被写体に近づいて撮影できる距離は、ズーム位置によって異なります。 🌷マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置では、レンズ前約10 cmまでの被写体にピント合わせができます。△マークより広角側のズーム位置では、レンズ前約1 cmまでの被写体にピント合わせができます。
▲	**遠景AF**
	窓越しの景色や風景、建物などを撮影するときに使います。 無限遠付近でピントを合わせます。 ・近くの被写体にはピントが合わないことがあります。 ・フラッシュモードは、🚫（発光禁止）になります。
MF	**マニュアルフォーカス**
	レンズ前約1 cm～無限遠（∞）の任意の被写体にピントを合わせられます（⚯2）。最短撮影距離は、ズーム位置によって異なります。 ・**P**、**S**、**A**、**M**、**U**、スペシャルエフェクトモード、シーンモードの［**スポーツ**］のときに使えます。

✔ フラッシュ撮影についてのご注意

🌷（マクロAF）やMF（マニュアルフォーカス）で撮影距離が50 cm未満の場合、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがあります。

🖉 フォーカスモードの設定について

- 設定は、撮影モードによって異なります。
  →「設定できる機能の種類」（🕮65）
  →「初期設定一覧」（🕮75）
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（🕮80）
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**の場合、変更したフォーカスモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

🖉 マクロAFについて

P、**S**、**A**、**M**、**U**モードの場合は、撮影メニュー（🕮60）→［**AFモード**］の［**常時AF**］と組み合わせると、シャッターボタンを半押ししなくても、ピント合わせを行います。
それ以外の撮影モードでは、マクロAFになると、自動的に［**常時AF**］になります。
オートフォーカスの動作音が聞こえることがあります。

露出補正（明るさを調整する）

露出補正を設定して撮影すると、画像全体の明るさを明るく、または暗く調整できます。

1 マルチセレクターの▶（露出補正）を押す

2 マルチセレクターの▲または▼で補正値を選ぶ

- 被写体を明るくしたいとき：補正値を「+」側に設定します。
- 被写体を暗くしたいとき：補正値を「－」側に設定します。

3 ㏍ボタンを押す

- ㏍ボタンを押さずに数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。
- ㏍ボタンを押さずにシャッターボタンを押しても、選択している補正値で撮影できます。
- ［**0.0**］以外に設定すると、液晶モニターに図マークと補正値が表示されます。

4 シャッターボタンを押して撮影する

- 露出補正を解除するときは、手順1に戻って補正値を［**0.0**］にします。

いろいろな撮影

露出補正の設定について

- **P**、**S**、**A**モードの場合、変更した露出補正の設定は、電源をOFFにしても記憶されます。
- 撮影モードが、シーンモードの［**打ち上げ花火**］（□50）または**M**（マニュアル露出）モード（□59）の場合、露出補正は使えません。

ヒストグラム表示について

ヒストグラムは、画像の明るさの分布を表すグラフです。フラッシュを使わない撮影で、露出を補正するときの目安になります。

- 横軸は輝度を示し、左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります。縦軸は画素数を示します。
- 露出補正を「＋」側にすれば山が右側に寄り、「－」側にすれば山が左側に寄ります。

初期設定一覧

各撮影モードの初期設定は以下のとおりです。

- シーンモードについては、次ページをご覧ください。

撮影モード	フラッシュモード※1（□66）	セルフタイマー（□69）	フォーカスモード（□72）	露出補正（□74）
（オート撮影）（□40）	AUTO	OFF	AF ※2	0.0
EFFECTS（スペシャルエフェクト）（□55）	※3	OFF	AF	0.0
P、**S**、**A**、**M**（□57）	AUTO	OFF	AF	0.0
U（ユーザーセッティング）（□63）	AUTO	OFF	AF	0.0

※1 フラッシュを閉じているときは（発光禁止）に固定されます。

※2 AF（通常AF）、（マクロAF）または（遠景AF）に変更できます。

※3 ［**高感度モノクロ**］と［**シルエット**］の場合は、（発光禁止）に固定されます。

- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**の場合、設定した内容は、電源をOFFにしても記憶されます（セルフタイマーを除く）。

同時に設定できない機能

他の機能と組み合わせて使えない場合があります（□80）。

マルチセレクターで設定できる機能

シーンモードの初期設定は以下のとおりです。

	フラッシュモード（□66）	セルフタイマー（□69）	フォーカスモード（□72）	露出補正（□74）
（□42）	※1	OFF	※1	0.0
（□43）	※1	OFF	※1	0.0
（□44）	/※2	OFF	AF※1	0.0
（□45）	AUTO※3	OFF	AF※1	0.0
（□46）		OFF※4	AF※1	0.0
（□46）	※1	OFF※1	AF※5	0.0
（□47）	※6	OFF※4	AF※1	0.0
（□48）	※7	OFF	AF※1	0.0
（□48）	AUTO	OFF	AF※8	0.0
（□48）	AUTO	OFF	AF※8	0.0
（□48）	※1	OFF	※1	0.0
（□48）	※1	OFF	※1	0.0
（□49）	※9	OFF	※1	0.0
（□50）	※1	OFF	※1	0.0
（□50）	※1	OFF	AF※8	0.0
（□50）	※1	OFF※1	※1	0.0※1
（□50）		OFF	AF※8	0.0
（□51）	※10	OFF※10	AF※11	0.0
（□52）	※1	※12	AF※8	0.0
3D（□53）	※1	OFF※1	AF※8	0.0

※1 変更できません。
※2 ［**HDR**］が［**OFF**］のときは（強制発光）に、［**HDR**］が［**OFF**］以外のときは（発光禁止）に固定されます。
※3 AUTO（自動発光）か（発光禁止）を選べます。AUTO（自動発光）では、自動判別したシーンに合わせて、カメラがフラッシュモードを設定します。
※4 セルフタイマーまたは笑顔自動シャッターを設定できます。
※5 AF（通常AF）またはMF（マニュアルフォーカス）に変更できます。
※6 変更できません。赤目軽減で強制発光します。
※7 赤目軽減スローシンクロに切り換わることがあります。
※8 AF（通常AF）または（マクロAF）に変更できます。
※9 ［**連写NR撮影**］のときは、（発光禁止）に固定されます。
※10［**かんたんパノラマ**］のときは、変更できません。
※11［**かんたんパノラマ**］のときは、変更できません。［**パノラマアシスト**］のときは、AF（通常AF）、（マクロAF）または（遠景AF）に変更できます。
※12セルフタイマーは使えません。ペット自動シャッター（□52）のON/OFFを設定できます。

画質と画像サイズを変える

記録時の画質（画像の圧縮率）や画像サイズ（画像の大きさ）を選べます。

画質の種類

撮影画面にする ➔ MENUボタン（□13）➔ 撮影メニュー ➔ 画質

画質を高くするほど、画像の細部の描写が保たれますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。

項目		内容
FINE	FINE	［**NORMAL**］よりも精細な画質になります。画像を拡大するときや、プリンターで細かく表現したいときなどに適しています。 圧縮率：約1/4
NORM	NORMAL **（初期設定）**	一般的な撮影に適した画質モードです。 圧縮率：約1/8
BASIC	BASIC	画質は［**NORMAL**］よりも低くなりますが、電子メールの添付やホームページ掲載に適しています。 圧縮率：約1/16

画質の設定について

- 画質の設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（□8～10）。
- メニュー表示中に［**画質**］を選んでコマンドダイヤルを回しても、画質を変更できます。
- 設定は、他の撮影モードにも適用されます（撮影モード**U**、シーンモードの［**かんたんパノラマ**］、［**3D撮影**］を除く）。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

関連ページ

- 記録可能コマ数→□79
- 記録データのファイル名とフォルダー名→⚮98

画像サイズの種類

撮影画面にする ➔ MENUボタン（□13）➔ 撮影メニュー ➔ 画像サイズ

記録する画像の大きさ（ピクセル数）を設定します。
画像サイズを大きくするほど、大きくプリントするのに適していますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。
サイズの小さい画像は、電子メールの添付やホームページ掲載に適しています。ただし、サイズが小さい画像を大きくプリントしようとすると、粒子の粗い画像になります。

項目※		内容
16M	4608×3456 **（初期設定）**	8M［**3264×2448**］、4M［**2272×1704**］よりも精細な画像になります。
8M	3264×2448	ファイルサイズと画像のバランスが良く、一般的な撮影に適した画像サイズです。
4M	2272×1704	
2M	1600×1200	16M［**4608×3456**］、8M［**3264×2448**］、4M［**2272×1704**］よりも画像サイズが小さいため、より多く撮影できます。
VGA	640×480	電子メールへの添付や画面の縦横比が4:3のテレビへの表示に適しています。
16:9 12M	4608×2592	ワイドテレビと同じ縦横比（16:9）の画像になります。
16:9 2M	1920×1080	
3:2	4608×3072	35mm判フィルムカメラで撮影したときと同じ縦横比（3:2）の画像になります。
1:1	3456×3456	正方形の画像になります。

※ 記録データの総画素数と長辺×短辺の画素数を表しています。
例：16M 4608×3456：約16メガピクセル＝4608×3456ピクセル

画像サイズの設定について

- 画像サイズの設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（□8～10）。
- メニュー表示中に［**画像サイズ**］を選んでコマンドダイヤルを回しても、画像サイズを変更できます。
- 設定は、他の撮影モードにも適用されます（撮影モード**U**、シーンモードの［**かんたんパノラマ**］、［**3D撮影**］を除く）。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

記録可能コマ数

それぞれの［**画像サイズ**］（□78）と［**画質**］（□77）の組み合わせで、内蔵メモリーや4 GBのSDカードに記録できるおおよそのコマ数は以下のとおりです。ただし、JPEG圧縮の性質上、画像の絵柄によって記録可能コマ数は大きく異なります。同じ容量のSDカードでも、カードの種類によって、記録可能コマ数が異なることがあります。

画像サイズ	画質	内蔵メモリー（約90 MB）	SDカード※1（4 GB）	プリント時のサイズ※2
16M 4608×3456（初期設定）	FINE NORMAL BASIC	約11コマ 約19コマ 約35コマ	約470コマ 約840コマ 約1480コマ	約39×29 cm
8M 3264×2448	FINE NORMAL BASIC	約22コマ 約39コマ 約68コマ	約930コマ 約1650コマ 約2870コマ	約28×21 cm
4M 2272×1704	FINE NORMAL BASIC	約44コマ 約79コマ 約135コマ	約1880コマ 約3350コマ 約5740コマ	約19×14 cm
2M 1600×1200	FINE NORMAL BASIC	約87コマ 約149コマ 約247コマ	約3650コマ 約6350コマ 約10000コマ	約13×10 cm
VGA 640×480	FINE NORMAL BASIC	約517コマ 約812コマ 約1137コマ	約20100コマ 約30100コマ 約40200コマ	約5×4 cm
16:9 12M 4608×2592	FINE NORMAL BASIC	約14コマ 約26コマ 約46コマ	約620コマ 約1120コマ 約1970コマ	約39×22 cm
16:9 2M 1920×1080	FINE NORMAL BASIC	約81コマ 約142コマ 約237コマ	約3440コマ 約6030コマ 約10000コマ	約16×9 cm
3:2 4608×3072	FINE NORMAL BASIC	約12コマ 約22コマ 約39コマ	約530コマ 約950コマ 約1670コマ	約39×26 cm
1:1 3456×3456	FINE NORMAL BASIC	約14コマ 約26コマ 約46コマ	約620コマ 約1120コマ 約1970コマ	約29×29 cm

※1 記録可能コマ数が10,000コマ以上の場合、画面には「9999」と表示されます。
※2 出力解像度を300 dpiに設定した場合のサイズです。
ピクセル数÷プリンター解像度（dpi）× 2.54 cm で計算しています。同じ画像サイズでも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意

画像サイズを「1:1」にして撮影した画像をプリントするときは、プリンターの設定を「フチあり」にしてください。
プリンターによっては、画像を1:1の縦横比でプリントできない場合があります。
詳しくは、お使いのプリンターの使用説明書またはプリントサービス店などでご確認ください。

同時に設定できない機能

撮影時の設定には、他の機能と組み合わせて使えない設定があります。

制限される機能	設定	内容
フラッシュモード	フォーカスモード（□72）	▲（遠景AF）にして撮影するときは、フラッシュは使えません。
	連写（□61）	［**連写H**］、［**連写L**］、［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］、［**BSS**］、［**マルチ連写**］にして撮影するときは、フラッシュは使えません。
	AEブラケティング（□61）	フラッシュは使えません。
セルフタイマー/笑顔自動シャッター	AFエリア選択（□61）	［**ターゲット追尾**］にして撮影するときは、セルフタイマー/笑顔自動シャッターは使えません。
フォーカスモード	AFエリア選択（□61）	［**ターゲット追尾**］時は、MF（マニュアルフォーカス）は設定できません。
画質	連写（□61）	［**先取り撮影**］、［**マルチ連写**］にして撮影するときは、［**画質**］は［**NORMAL**］に固定されます。
画像サイズ	連写（□61）	・［**マルチ連写**］にして撮影するときは、［**画像サイズ**］は 5M（2560 × 1920 ピクセル）に固定されます。 ・［**先取り撮影**］にして撮影するときは、［**画像サイズ**］は 3M（2048 × 1536 ピクセル）に固定されます。 ・［**高速連写 120 fps**］にして撮影するときは、［**画像サイズ**］は VGA（640 × 480 ピクセル）に、［**高速連写 60 fps**］にして撮影するときは、［**画像サイズ**］は 1M（1280 × 960 ピクセル）に固定されます。
ISO感度設定	連写（□61）	［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］、［**マルチ連写**］で撮影するときは、［**ISO感度設定**］は［**オート**］に固定されます。
	Active D-ライティング（□62）	・［**ISO 感度設定**］が［**オート**］のときに［**Active D- ライティング**］を［**OFF**］以外にすると、ISO 感度の上限が ISO 800 になります。 ・［**Active D- ライティング**］を［**OFF**］以外にして撮影するときは、［**ISO 感度設定**］の［**1600**］、［**3200**］、［**Hi 1**］は使えません。
ホワイトバランス	Picture Control（□60）	［**モノクローム**］にして撮影するときは、［**ホワイトバランス**］は［**オート（標準）**］に固定されます。

制限される機能	設定	内容
Picture Control	Active D-ライティング（□62）	［**Active D-ライティング**］を使って撮影するときは、「手動調整」の［**コントラスト**］を調整できません。
測光方式	Active D-ライティング（□62）	［**Active D-ライティング**］を［**OFF**］以外にすると、［**測光方式**］は［**マルチパターン**］にリセットされます。
連写/AEブラケティング	連写（□61）/AEブラケティング（□61）	連写と［**AEブラケティング**］は同時に使えません。 ［**連写**］の設定を［**単写**］以外にすると、［**AEブラケティング**］は［**OFF**］にリセットされます。［**AEブラケティング**］を［**OFF**］以外にすると、［**連写**］の設定は［**単写**］にリセットされます。
	セルフタイマー（□69）/笑顔自動シャッター（□70）	連写または［**AEブラケティング**］とセルフタイマー/笑顔自動シャッターは同時に使えません。
	Picture Control（□60）	［**モノクローム**］にして撮影するときは、［**AEブラケティング**］は使えません。
AFエリア選択	笑顔自動シャッター（□70）	［**AFエリア選択**］の設定にかかわらず、顔認識撮影になります。
	フォーカスモード（□72）	・［**ターゲット追尾**］以外に設定したときにフォーカスモードを ▲（遠景 AF）にすると、AF エリア選択の設定にかかわらず、遠景にピントが合います。 ・MF（マニュアルフォーカス）にすると、AF エリア選択を設定できません。
	Picture Control（□60）	［**ターゲットファインドAF**］時、［**モノクローム**］に設定すると、AFエリア選択は［**オート**］で動作します。
	ホワイトバランス（□61）	［**ターゲットファインドAF**］時、［**プリセットマニュアル**］、［**電球**］または［**蛍光灯**］の［**1**］に設定すると、AFエリア選択は［**オート**］で動作します。
AFモード	笑顔自動シャッター（□70）	笑顔自動シャッターで撮影するときは、変更できません。
	フォーカスモード（□72）	フォーカスモードが▲（遠景AF）のときは、［**シングルAF**］で動作します。
	AFエリア選択（□61）	［**AFエリア選択**］を［**顔認識オート**］にすると、［**シングルAF**］で動作します。
アクティブ D-ライティング	ISO感度設定（□61）	［**ISO感度設定**］が［**1600**］、［**3200**］、［**Hi 1**］のときは、［**Active D-ライティング**］は使えません。
デート写し込み	連写（□61）	［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］にして撮影するときは、日付を写し込めません。

同時に設定できない機能

制限される機能	設定	内容
操作音	連写（□61）	［**連写 H**］、［**連写 L**］、［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］、［**BSS**］または［**マルチ連写**］にして撮影するときは、シャッター音は鳴りません。
	AEブラケティング（□61）	シャッター音は鳴りません。
目つぶり検出設定	笑顔自動シャッター（□70）/連写（□61）/AEブラケティング（□61）	笑顔自動シャッターのとき、［**連写**］の設定を［**単写**］以外にしたとき、AEブラケティングのときは、目つぶり検出しません。
電子ズーム	笑顔自動シャッター（□70）	笑顔自動シャッターで撮影するときは、電子ズームは使えません。
	フォーカスモード（□72）	**MF**（マニュアルフォーカス）にすると、電子ズームは使えません。
	連写（□61）	［**マルチ連写**］にして撮影するときは、電子ズームは使えません。
	AFエリア選択（□61）	［**ターゲット追尾**］で撮影するときは、電子ズームは使えません。
	ズームメモリー（□62）	［**ズームメモリー**］を［**ON**］に.設定すると、電子ズームは使えません。

電子ズームについてのご注意

- 撮影モードによっては、電子ズームは使えません。
- 電子ズーム使用時は、AFエリア選択や測光方式などが制限されます（⊶82）。

シャッタースピードの制御範囲（P、S、A、Mモード時）

シャッタースピードの制御範囲は、絞り値やISO感度の設定によって異なります。さらに、以下の連写設定時は、制御範囲が変わります。

設定		制御範囲（秒）
ISO感度設定（□61）※1	オート※2、 感度制限オート※2	1/4000 ※3 ～ 1 秒（P、S、Aモード） 1/4000 ※3 ～ 8 秒（Mモード）
	ISO 100	1/4000 ※3 ～ 4 秒（P、S、Aモード） 1/4000 ※3 ～ 8 秒（Mモード）
	ISO 200、400	1/4000 ※3 ～ 4 秒
	ISO 800	1/4000 ※3 ～ 2 秒
	ISO 1600	1/4000 ※3 ～ 1 秒
	ISO 3200、Hi 1	1/4000 ※3 ～ 1/2 秒
連写（□61）	連写H、連写L、BSS	1/4000 ※3 ～ 1/30 秒
	先取り撮影、マルチ連写	1/4000 ～ 1/30 秒
	高速連写 120 fps	1/4000 ～ 1/125秒
	高速連写 60 fps	1/4000 ～ 1/60秒

※1 連写の設定によっては、ISO感度の設定が制限されます（□80）。
※2 Mモードのときは、ISO 100に固定されます。
※3 シャッタースピードの最速値は、絞り値によって異なり、絞り値が小さいほど遅くなります。f/3（開放絞り）時は最高速1/2000秒、f/8.3時は最高速1/4000秒になります。

ピント合わせについて

撮影モードやフォーカスモード（□72）によって、AFエリアやピント合わせできる撮影距離は異なります。

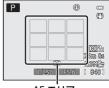
- **P**、**S**、**A**、**M**、**U** モードでは、撮影メニューの［**AF エリア選択**］（□61）でピント合わせをするエリアを設定できます。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□33）の撮影では、ピントが合わないことがあります。シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、フォーカスロック撮影（□86）、またはマニュアルフォーカス（⚭2）をお試しください。

ターゲットファインドAFについて

◘（オート撮影）モードや、**P**、**S**、**A**、**M**、**U**モードの［**AFエリア選択**］が［**ターゲットファインドAF**］のときは、シャッターボタンを半押しすると、以下の動作でピントを合わせます。

- カメラが主要な被写体を検出すると、その被写体にピントが合います。ピントが合うと、被写体に合った大きさのAFエリア表示が緑色に点灯します（最大12カ所）。
  カメラが人物の顔を検出したときは、その人物を優先してピントを合わせます。

AF エリア

- カメラが主要な被写体を検出していないときは、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）。

AF エリア

ターゲットファインドAFについてのご注意

- どの被写体を主要被写体とみなして検出するかは、撮影条件によって異なります。
- 以下のような場合、カメラが主要被写体を適切に検出できないことがあります。
  - 画面内の明るさが非常に暗い、または明るい
  - 主要被写体の色に特徴が少ない
  - 主要被写体が画面の周辺部にある
  - 主要被写体が同じパターンを繰り返す
- 以下のときは、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。
  - ［**ホワイトバランス**］を［**プリセットマニュアル**］、［**電球**］または［**蛍光灯**］の［**1**］に設定時
  - ［**Picture Control**］を［**モノクローム**］に設定時

顔認識撮影について

以下の撮影モードでは、人物の顔にカメラを向けると自動的に顔を認識して、顔にピントを合わせます。複数の顔を認識したときは、ピントを合わせる顔に二重枠のAFエリアが表示され、AFエリア以外の顔に一重枠が表示されます。

撮影モード	認識する顔の数	AFエリア（二重枠）
P、**S**、**A**、**M**、**U**モードで［**AFエリア選択**］（📖61）を［**顔認識オート**］に設定時	最大12人	カメラに最も近い顔
シーンモード（📖41）の［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］		
😊（笑顔自動シャッター）（📖70）	最大3人	画面中央に最も近い顔

- ［**顔認識オート**］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。
- ［**おまかせシーン**］では、自動判別した撮影シーンによってAFエリアが変わります。
- ［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央の被写体にピントを合わせます。
- 😊（笑顔自動シャッター）では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央の被写体にピントを合わせます。

顔認識機能についてのご注意

- 顔の向きなどの撮影条件によっては、顔を認識できないことがあります。また、以下のような場合は、顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている
- 複数の人物がいた場合、どの人物の顔を認識してピントを合わせるかは、顔の向きなどによっても異なります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（📖33）の撮影では、二重枠が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、「フォーカスロック撮影」（📖86）をお試しください。

顔認識撮影した画像の再生について

- 再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます（［**連写**］（📖61）または［**AEブラケティング**］（📖61）で撮影した画像を除く）。
- 1コマ表示でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示されます（📖35）（［**連写**］（📖61）または［**AEブラケティング**］（📖61）で撮影した画像を除く）。

フォーカスロック撮影

AF（オートフォーカス）エリアが画面中央でも、ピントを固定（フォーカスロック）する方法を使うと、構図を工夫して撮影できます。
ここでは、**P**、**S**、**A**、**M**、**U**モードで［**AFエリア選択**］（□61）を［**中央**］に設定した場合のフォーカスロックの操作方法を説明します。

1 ピントを合わせる被写体を画面中央に配置する

2 シャッターボタンを半押しする

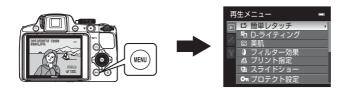
- ピントが合い、AF エリア表示が緑色に点灯します。
- 露出も固定されます。

3 半押ししたまま構図を変える

- 被写体との距離は変えないでください。

4 シャッターボタンを全押しして撮影する

いろいろな再生

この章では、再生時に使える機能について説明しています。

再生モードで使える機能（再生メニュー）

1コマ表示中またはサムネイル表示中にMENUボタンを押してメニュー画面を表示し、▶タブを選ぶと、以下のメニュー操作ができます（□13）。

項目	内容	□
簡単レタッチ ※1、2、3	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。	⊖17
D-ライティング ※1、3	逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を、明るく補正できます。	⊖17
美肌※1、2、3	撮影した画像から人物の顔を検出して、顔の肌をなめらかにします。	⊖18
フィルター効果 ※1、3	デジタルフィルターでいろいろな効果を付けます。効果の種類には、［**セレクトカラー**］、［**クロススクリーン**］、［**魚眼効果**］、［**ミニチュア効果**］、［**絵画調**］があります。	⊖19
プリント指定※4	SDカードに記録した画像をプリンターでプリントするときに、どの画像を何枚プリントするかを設定します。	⊖55
スライドショー	内蔵メモリー/SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。	⊖57
プロテクト設定	大切な画像や動画を誤って削除しないように、プロテクト（保護）します。	⊖58
画像回転※3、4	撮影後に、カメラなどで表示するときの画像の向き（縦横位置）を設定します。	⊖60
スモールピクチャー ※1、3	撮影した画像から、サイズの小さい画像を作成します。ホームページで使ったり、電子メールへ添付したりするのに便利です。	⊖20
音声メモ※3、5	撮影した画像に、カメラのマイクを使って音声によるメモを付けられます。音声メモの再生または削除もできます。	⊖61
画像コピー	内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。動画もコピーできます。	⊖62
黒フレーム※1、3	撮影した画像の周りに黒い枠を付けます。	⊖21

項目	内容	📖
連写グループ表示方法	連写した画像を1コマずつ表示するか、代表画像のみの表示にするかを設定します。	➡63
連写の代表画像選択	連写した一連の画像（連写グループ、➡13）の代表画像を変更します。 ・設定時はメニューを表示する前に、変更したい連写グループを選びます。	➡63

※1 選択中の画像を編集し、元画像とは異なるファイル名で保存します。
ただし、以下の画像は編集できません。
・縦横比16:9、3:2または1:1の画像（黒フレームを除く）
・［**かんたんパノラマ**］または［**3D撮影**］で撮影した画像
また、編集済みの画像は繰り返し編集できないなどの制限があります（➡15、➡16）。

※2 動画から切り出した画像は、編集できません。

※3 連写グループの画像は、代表画像だけを表示しているときは設定できません。メニューを表示する前に、Ⓚボタンを押して画像を1コマずつ表示すると設定できます。

※4［**3D撮影**］で撮影した画像は設定できません。

※5［**かんたんパノラマ**］で撮影した画像は、音声メモを付けられません。

各項目の詳細は、「詳細編　画像の編集（静止画）」（➡15）や「詳細編　再生メニュー」（➡55）をご覧ください。

テレビ、パソコン、プリンターとの接続

テレビやパソコン、プリンターに接続すると、撮影した画像や動画をいろいろな方法で楽しむことができます。

- 外部機器と接続するときは、カメラの電池残量が充分にあることを確認し、必ず、カメラの電源をOFFにしてから接続してください。また、接続方法や接続後の操作方法については、各機器の説明書も併せてお読みください。

端子カバーの開け方　　プラグをまっすぐに差し込む

テレビで鑑賞する

E23

撮影した画像や動画をテレビに映して鑑賞できます。
接続方法：付属のオーディオビデオケーブル（AVケーブル）EG-CP16の映像プラグと音声プラグ（ステレオ）をテレビの外部入力端子に接続します。または、市販のHDMIケーブル（Type C）を、テレビのHDMI入力端子に接続します。

パソコンで閲覧、管理する

91

パソコンに転送すると、静止画や動画の再生だけではなく、簡易編集や画像データの管理ができます。
接続方法：付属のUSBケーブル UC-E6をパソコンのUSB端子に接続します。

- パソコンと接続する前に付属の「ViewNX 2 Installer CD」を使って、ViewNX 2 をパソコンにインストールしてください。付属の「ViewNX 2 Installer CD」の使い方、パソコンへの簡単な転送手順については、93 ページをご覧ください。
- パソコンから電源を供給するタイプの他の USB 機器がパソコンに接続されているときは、接続する前にそれらの機器をパソコンから取り外してください。同時に接続すると動作に不具合が発生したり、パソコンからの供給電力が過大になり、カメラ、SD カードなどが壊れるおそれがあります。

パソコンを使わずにプリントする

E25

PictBridge対応プリンターと接続するとパソコンを使わずに画像をプリントできます。
接続方法：付属のUSBケーブル UC-E6をプリンターのUSB端子に接続します。

ViewNX 2を使う

ViewNX 2は、画像や動画の転送、閲覧、編集、共有、これら全てを可能とするオールインワンソフトです。
付属の「ViewNX 2 Installer CD」からインストールできます。

ViewNX 2をインストールする

- **インストールにはインターネットに接続できる環境が必要です。**

対応OS

Windows

- Windows 7 Home Premium/Professional/Enterprise/Ultimate（Service Pack 1）
- Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate（Service Pack 2）
- Windows XP Home Edition/Professional（Service Pack 3）

Macintosh

- Mac OS X（version10.5.8、10.6.8、10.7.2）

対応OSに関する最新情報、動作環境については、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

1 パソコンを起動し、付属の「ViewNX 2 Installer CD」をCD-ROMドライブに入れる

- Mac OS：［**ViewNX 2**］ウィンドウが表示されるので、ウィンドウ内の［**Welcome**］アイコンをダブルクリックします。

2 ［言語選択］ダイアログで言語を選択し、［Welcome］ウィンドウを開く

- ［**言語選択**］ダイアログのメニューに選択したい言語がない場合は、［**地域選択**］をクリックし、地域を選択してから言語を選択してください。
- ［**次へ**］をクリックすると、［**Welcome**］ウィンドウが開きます。

3 インストールを開始する

- インストールをする前に、［**Welcome**］ウィンドウの［**インストールガイド**］をクリックして、インストール方法のヘルプと動作環境を確認することをおすすめします。
- ［**Welcome**］ウィンドウの［**インストール（推奨）**］をクリックします。

4 ソフトウェアをダウンロードする

- ［**ソフトウェアのダウンロード**］画面が表示されたら、［**同意して、ダウンロード開始**］をクリックします。
- 画面の指示に従ってインストールを続けてください。

5 インストール終了画面が表示されたら、インストールを終了する

- Windows：［**はい**］をクリックします。
- Mac OS：［**OK**］をクリックします。

以下のソフトウェアがインストールされます。

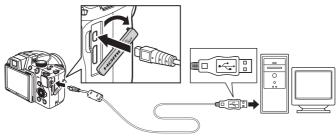
- ViewNX 2（以下の3つのモジュールで構成されています）
  - Nikon Transfer 2：画像をパソコンに取り込みます
  - ViewNX 2：取り込んだ画像の閲覧、編集、印刷ができます
  - Nikon Movie Editor：取り込んだ動画の簡易編集ができます
- Panorama Maker 6（シーンモードのパノラマアシストを使って撮影した画像をパノラマ写真に合成します）

6 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す

パソコンに画像を取り込む

1 画像の入ったSDカードを用意する

SD カード内の画像は、次の方法でパソコンに取り込めます。

- SD カードを入れたカメラの電源をOFF にしてから、付属のUSBケーブル UC-E6 でカメラとパソコンを接続します。カメラの電源が自動的にONになります。
  内蔵メモリー内の画像を取り込むには、カメラにSDカードを入れずにパソコンに接続します。

- カードスロットを装備したパソコンのときは、カードスロットに直接SD カードを差し込む。
- 市販のカードリーダーをパソコンに接続して、SD カードをセットする。

起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2 を選びます。

- **Windows 7 をお使いの場合**
  右の画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。
  1 ［**画像とビデオのインポート**］の［**プログラムの変更**］をクリックすると表示される画面で、［**画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2使用**］を選んで、［**OK**］をクリックする
  2 ［**画像ファイルを取り込む**］をダブルクリックする

SDカード内に大量の画像があると、Nikon Transfer 2の起動に時間がかかる場合があります。Nikon Transfer 2が起動するまでお待ちください。

USBケーブル接続についてのご注意

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

2 画像をパソコンに取り込む

- Nikon Transfer 2の［**オプション**］の［**転送元**］に、接続したカメラ名またはリムーバブルディスクのデバイス名が表示されていることを確認します（①）。
- ［**転送開始**］ボタンをクリックします（②）。

- 記録されているすべての画像がパソコンに取り込まれます（ViewNX 2 の初期設定）。

3 接続を解除する

- カメラを接続している場合は、カメラの電源をOFF にしてから、USB ケーブルを抜きます。
- カードリーダーやカードスロットをお使いの場合は、パソコン上でリムーバブルディスクの取り外しを行ってから、カードリーダーまたはSDカードを取り外してください。

画像を見る

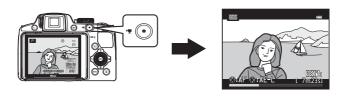
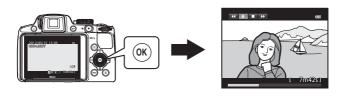
ViewNX 2 を起動する

- 画像の取り込みが終わると、ViewNX 2 が自動的に起動し、取り込んだ画像が表示されます。
- ViewNX 2 の詳しい使い方は、ViewNX 2 のヘルプを参照してください。

ViewNX 2 を手動で起動するには

- Windows：デスクトップの［**ViewNX 2**］のショートカットアイコンをダブルクリックします。
- Mac OS：Dock の［**ViewNX 2**］アイコンをクリックします。

動画を撮影、再生する

● （🎥 動画撮影）ボタンを押すだけで、動画を撮影できます。

再生モードでⓀボタンを押すと、動画を再生します。

動画を撮影する

●（'▼ 動画撮影）ボタンを押すだけで、すぐに動画を撮影できます。
色合いやホワイトバランスなどの静止画の設定は、動画にも引き継がれます。

1 電源をONにして、撮影画面を表示する

- 動画設定は、撮影する動画の種類を表します。初期設定は、1080P30［**HD 1080p★ (1920 ×1080)**］です（📖99）。
- 動画は、画角（写る範囲）が静止画に比べて狭くなります。**DISP**（表示切り換え）ボタンを押して動画枠を表示すると（📖15）、撮影前に動画の写る範囲を確認できます。
  ※イラスト上の記録可能時間の数値は、実際とは異なります。

2 ●（'▼ 動画撮影）ボタンを押して、動画の撮影を開始する

- 画面中央でピントが合います。動画の撮影中は、AFエリアは表示されません。
- 動画撮影中にマルチセレクターの ▶ を押すと、露出が固定されます。解除するには、もう一度▶を押します。

- ［**動画設定**］が1080P30［**HD 1080p★ (1920 × 1080)**］など縦横比16:9の動画設定で撮影する場合、撮影画面の縦横比が16:9に切り換わります（右の画面の範囲で記録されます）。
- 記録可能な残り時間の目安を液晶モニターで確認できます。内蔵メモリーへの記録中は、INが表示されます。
- 記録可能な残り時間が無くなると、撮影が自動的に終了します。

3 ●（'▼ 動画撮影）ボタンを押して撮影を終了する

✔ 撮影後の記録についてのご注意

撮影後、「記録可能コマ数」または「記録可能時間」が点滅しているときは、画像または動画の記録中です。**バッテリー /SDカードカバーを開けたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。**撮影した画像や動画が記録されないことや、カメラやSDカードが壊れることがあります。

動画撮影についてのご注意

- 動画をSDカードに記録するときは、SDスピードクラスがClass 6以上のSDカードをおすすめします（□23）。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- 電子ズームを使うと、画質は劣化します。電子ズームを使わずに動画撮影を開始したときは、ズームレバーを**T**方向に回し続けると、光学ズームの最大倍率でズームが止まります。いったんズームレバーから指をはなして、もう一度**T**方向に回すと電子ズームが作動します。電子ズームは、動画撮影を終了するとキャンセルされます。
- ズームレバーなどの操作音や、ズーム、オートフォーカス、手ブレ補正、明るさが変化したときの絞り制御などの動作音が録音されることがあります。
- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、以下のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画像に横帯が発生する
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体がゆがむ
  - カメラを左右に動かした場合、画面全体がゆがむ
  - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する

カメラの温度について

- 動画撮影などで長時間使ったり、周囲の温度が高い場所で使ったりすると、カメラの温度が高くなることがあります。
- 動画撮影中にカメラ内部が極端に高温になると、5秒後に撮影が自動終了します。自動終了までの残りの秒数（5s）が画面に表示されます。自動終了後、5秒後に電源もOFFになります。カメラ内部の温度が下がるまでしばらく放置してからお使いください。

動画撮影のピント合わせについて

- 動画メニューの［**AFモード**］（□99）がAF-S［**シングルAF**］（初期設定）の場合、●（動画撮影）ボタンで撮影を開始したときに、ピントは固定されます。動画撮影中にもう一度オートフォーカスでピントを合わせたいときは、マルチセレクターの◀を押します。
- フォーカスモード（□72）が、MF（マニュアルフォーカス）のときは、手動でピントを合わせます。動画撮影中も、マルチセレクターの▲（遠）▼（近）を押してピントを合わせられます。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□33）では、ピント合わせができないことがあります。このような被写体を撮影するときは、MF（マニュアルフォーカス）、または以下の方法をお試しください。
  1. 撮影前に動画メニューの［**AFモード**］をAF-S［**シングルAF**］（初期設定）にする。
  2. 等距離にある別の被写体を画面中央に配置して●（動画撮影）ボタンを押し、動画撮影を開始してから構図を変える。

動画の記録可能時間

動画設定（□99）	内蔵メモリー（約90 MB）	SDカード（4 GB）※2
HD 1080p★ (1920×1080)	約37秒※1	約25分
HD 1080p (1920×1080)	約57秒	約40分
HD 720p (1280×720)	約1分25秒	約1時間
iFrame 540 (960×540)	約33秒※1	約25分
VGA (640×480)	約4分11秒	約2時間50分

数値はおおよその目安です。同じ容量でもSDカードの種類や撮影した動画のビットレートによって記録可能時間は異なります。

※1 1回の撮影で記録可能な時間は25秒です。

※2 1回の撮影で記録可能な時間は、SDカードの残量が多いときでもファイルサイズ4 GBまで、または最長29分までです。撮影時の画面には、1回の撮影で記録可能な時間が表示されます。

動画撮影で使える機能

- 露出補正、撮影メニュー（□60）の［**ホワイトバランス**］の設定も撮影する動画に反映します。フォーカスモードが（マクロAF）のときは、より被写体に近づいて動画を撮影できます。動画の撮影を開始する前に設定を確認してください。
- セルフタイマー（□69）を使えます。セルフタイマーを設定し、●（動画撮影）ボタンを押すと、10秒または2秒後に動画撮影を開始します。
- フラッシュは発光しません。
- 動画の撮影を開始する前にMENUボタンを押して、（動画）タブに切り換えると動画メニューの設定ができます（□99）。

HS（ハイスピード）動画を撮影する

動画メニュー［**動画設定**］を［**HS 120 fps (640×480)**］、［**HS 60 fps (1280×720)**］、［**HS 15 fps (1920×1080)**］にすると、スローモーション動画や早送り動画を撮影できます（⊶66）。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→⊶98

動画撮影の設定を変える（動画メニュー）

以下の項目の設定が変更できます。

撮影画面にする ➔ MENUボタン ➔ 動画タブ（13）

項目	内容	
動画設定	撮影する動画の種類を選びます。通常速度の動画とスローモーション再生や早送り再生ができるHS（ハイスピード）動画があります。初期設定は［**HD 1080p★ (1920 × 1080)**］です。	E64
AFモード	通常速度の動画で撮影するときのオートフォーカスの方法を選びます。 動画撮影開始時のピントに固定する［**シングルAF**］（初期設定）、または動画撮影中もピント合わせを繰り返す［**常時AF**］を選べます。 ［**常時AF**］にすると、ピントを合わせる動作音が録音されることがあります。動作音が気になるときは、［**シングルAF**］での撮影をおすすめします。	E68

関連ページ

メニュー表示中のコマンドダイヤル操作について→14

動画を再生する

1 ▶（再生）ボタンを押し、再生モードにする

- マルチセレクターで動画を選びます。
- 動画設定（📖98）のアイコンが表示されている画像が動画です。

2 Ⓞボタンを押し、再生する

音量の調節

再生中にズームレバー **T**/**W**（📖2）を操作します。

動画再生中の操作

マルチセレクターを回すと早送り/巻き戻しできます。

画面上部には操作パネルが表示されます。
マルチセレクターの◀▶で操作パネルのアイコンを選び、Ⓞボタンを押すと以下の操作ができます。

機能	アイコン	内容	
巻き戻し	◀◀	Ⓞボタンを押している間、巻き戻します。	
早送り	▶▶	Ⓞボタンを押している間、早送りします。	
一時停止	❚❚	一時停止中に画面上部の操作パネルのアイコンで以下の操作ができます。	
		◀❚❚	1コマ戻ります。Ⓞボタンを押し続けると、連続してコマ戻しします。※
		❚❚▶	1コマ進みます。Ⓞボタンを押し続けると、連続してコマ送りします。※
		✂	動画の必要な部分だけを切り出して保存します（⚭31）。
		🖼	動画の 1 フレームを静止画として保存します（⚭32）。
		▶	再生を再開します。
再生終了	■	1コマ表示に戻ります。	

※ マルチセレクターを回してもコマ送り/コマ戻しできます。

動画を削除するには、1コマ表示（📖34）やサムネイル表示（📖35）で動画を選んで🗑ボタンを押します（📖36）。

✔ 動画再生についてのご注意

COOLPIX P510以外で撮影した動画は、再生できません。

GPSを使う

GPS（Global Positioning System）は、衛星軌道上のGPS衛星からの電波を利用して、地球上のどこにいるかを測るシステムです。
この章では、GPSを使って画像に位置情報を記録する機能について説明しています。

GPSの位置情報記録を開始する

カメラ内蔵のGPSを使うと、GPS衛星から電波を受信して、現在の時刻と位置を計算します。
位置を計算することを「測位」といいます。
測位した位置情報（緯度と経度）は、撮影する画像に記録できます。

位置情報の記録を開始するには、［**GPS設定**］の［**位置情報記録機能**］を設定します。

MENUボタンを押す ➔ （GPS設定）タブ（□14）➔ GPS設定

カメラの［**地域と日時**］（□108）は、GPS機能を使う前に、正しく設定してください。

1 マルチセレクターで［**位置情報記録機能**］を選び、ⓚボタンを押す

2 ［**ON**］を選び、ⓚボタンを押す

- GPS衛星から電波を受信し、測位が始まります。
- 初期設定は、［**OFF**］です。

3 MENUボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。
- GPS衛星からの電波の受信を開始するときは、空のひらけた屋外で操作してください。

✔ GPSについてのご注意

- はじめて測位したときや、測位できない状態が長時間経過したとき、バッテリーの交換をしたときは、測位情報を取得するまで数分かかります。
- ［**位置情報記録機能**］が［**ON**］時、［**ログ取得**］（📖105）でログを取得している時間内は、カメラの電源をOFFにしていても、GPS機能が働きます。
- GPS衛星の位置は常に変化しています。お使いになる場所や時間などによっては、測位に時間がかかったり、測位できないこともあります。GPSを使うときは、できるだけ空のひらけた場所でお使いください。GPSアンテナ部（📖2）を空に向けると受信しやすくなります。
- 航空機内や病院で電源をOFFにする必要があるときは、［**位置情報記録機能**］の設定も［**OFF**］にしてください。
- 以下のような電波を遮断、反射してしまう場所では、測位できなかったり、測位した位置が実際にいた場所と異なることがあります。
  - 建物の中や地下
  - 高層ビルの間
  - 高架の下
  - トンネルの中
  - 高圧電線などの近く
  - 密集した樹木の間
  - 水中
- 1.5 GHz帯を利用する携帯電話などを本機の近くで使うと、測位しにくくなることがあります。
- 測位しながら本機を持ち運ぶときは、金属製のカバンなどに入れないでください。金属製のものでおおうと測位できません。
- GPS衛星からの電波の誤差が大きい場合、最大で数百メートルの誤差を生じることがあります。
- 測位するときは、周りの状況や足もとにご注意ください。
- カメラでの再生時に表示する撮影日、撮影時刻には、撮影時のカメラの内蔵時計の日時が記録されます。画像に記録した位置情報の取得時刻は、カメラでは表示できません。
- 連写で撮影した画像には、1コマ目に撮影した位置情報が記録されます。
- 動画に位置情報は記録できません。
- このカメラのGPS機能の測地系は、世界測地系（WGS 84 : World Geodetic System1984）です。

位置情報を記録した画像の取り扱いについてのご注意

位置情報を記録した静止画から、個人を特定できることがあります。位置情報を記録した静止画やGPSログファイルの、他人への譲渡やインターネットなど複数の人が閲覧できる環境への掲載にはご注意ください。「●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意」（□v）も必ずお読みください。

GPSを海外旅行などでお使いになる場合のご注意

- GPS機能付きカメラを旅行などで外国に持ち込む前に、使用規制の有無を旅行代理店や大使館などでお確かめください。
  たとえば、中国では、政府の許可なしに位置情報ログの収集はできません。
  ［**GPS設定**］の［**位置記録機能**］を［**OFF**］に設定してください。
- 中国および中国の周辺国の国境付近では、GPSが正常に機能しない場合があります。

GPS受信状態表示について

GPS受信状態は、撮影画面で確認できます。

- ：4つ以上の衛星から受信して測位しています。画像に位置情報が記録されます。
- ：3つの衛星から受信して測位しています。画像に位置情報が記録されます。
- ：衛星から受信していますが、測位できていません。画像に位置情報は記録されません。
- ：衛星から受信ができず、測位できません。画像に位置情報は記録されません。

GPS受信状態

位置情報を記録した画像について

- 位置情報を記録した画像は、再生時にが表示されます（□10）。
- 位置情報を記録した画像はパソコンに転送後、ViewNX 2を使って位置情報を地図上で確認できます（□91）。
- 画像ファイルに記録されているGPS情報は、取得した位置情報の精度および測地系の違いなどによって、実際の撮影地点と異なる場合があります。

GPSの設定を変える（GPS設定メニュー）

GPS設定メニューでは、以下の項目の設定が変更できます。

MENUボタンを押す ➔ 🛰（GPS設定）タブ（📖14）

項目	内容	📖
GPS設定	［**位置情報記録機能**］：［**ON**］にすると、GPS衛星から電波を受信し、測位が始まります（📖102）。初期設定は［**OFF**］です。 ［**日時合わせ**］：GPS衛星からの電波を使って、カメラの内蔵時計の日時を設定します（GPS設定メニュー［**GPS設定**］の［**位置情報記録機能**］が［**ON**］のときのみ）。 ［**A-GPSファイル更新**］：SDカードを使ってA-GPS（アシストGPS）ファイルを更新します。最新のA-GPSファイルを使うと、位置情報を測位するまでの時間を短くできます。	➡69
ログ取得	［**ログ取得開始**］で設定した時間が経過するまで、［**ログ取得間隔**］で設定した間隔で測位した位置情報を記録します（GPS設定メニュー［**GPS設定**］→［**位置情報記録機能**］の［**ON**］時）。 • 取得したログデータは、［**ログ取得終了**］を選び、SDカードに保存します。	➡71
ログデータ表示	［**ログ取得**］→［**ログ取得終了**］でSDカードに保存したログデータの確認や削除ができます。 • ログを選んで ⓀボタンをOKボタンを押すと、移動した軌跡を表示します。 • ログを削除するには、ログを選んで 🗑 ボタンを押します。	➡73

✎ ログ取得中に撮影した画像の位置情報を表示する

SDカードにログデータを保存した後、取得中に撮影した画像を再生モードで1コマ表示し、Fnボタンを押すと、画像の撮影地点（緯度、経度、ログの軌跡中の位置）を表示できます。

カメラに関する基本設定

この章では、セットアップメニューで設定できる項目の種類を説明しています。

- メニュー画面の基本操作については、「メニューを使う（MENUボタン）」（13）をご覧ください。
- 設定できる項目のより詳しい説明は、「詳細編　セットアップメニュー」（74）をご覧ください。

セットアップメニュー

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップ）タブ（📖13）

メニュー画面で🔧タブを選ぶと、以下の項目をセットアップメニューで設定できます。

項目	内容	📖
オープニング画面	［**COOLPIX**］を選ぶと、電源ON時に、オープニング画面（COOLPIXロゴ）を表示してから、撮影/再生画面を表示します。［**撮影した画像**］を選ぶと、オープニング画面として撮影した画像を表示します。初期設定は［**なし**］です。	➡74
地域と日時	内蔵時計の日時を設定します。［**タイムゾーン**］では、ご使用の地域や夏時間（サマータイム）を設定します。また、訪問先（✈）のタイムゾーンを登録すると、自宅（🏠）との時差を自動計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。	➡75
モニター設定	撮影後の画像表示や画面の明るさ、液晶モニターに格子線またはヒストグラムを表示するかを設定します。	➡78
デート写し込み	撮影時に画像に撮影日時を写し込んで記録します。初期設定は［**OFF**］です。 • 以下の場合は日時を写し込めません。 - シーンモードが［**かんたんパノラマ**］、［**パノラマアシスト**］または［**3D 撮影**］のとき - ［**連写**］（📖61）の設定が［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］または［**高速連写 60 fps**］のとき - 動画撮影のとき	➡79
手ブレ補正	撮影時に手ブレの影響を軽減します。初期設定は［**ON**］です。 • 三脚などでカメラを固定するときは、補正機能の誤動作を防ぐため［**OFF**］にしてください。	➡80

項目	内容	📖
モーション検知	撮影時にカメラが被写体の動きや手ブレを検知すると、ブレを軽減するためにISO感度を上げてシャッタースピードを速くします。初期設定は［**AUTO**］です。 撮影画面の表示は、ブレを検知してシャッタースピードが速くなると緑色に変わります。 • 撮影モードなどの設定によっては、検知しません。その場合は撮影画面には表示されません。	81
AF補助光	［**AUTO**］（初期設定）時は、暗い場所などでオートフォーカスによるピント合わせを補助するAF補助光（📖33）が点灯します。 • AF補助光が届く距離は、広角側で約4.0 m、望遠側で約2.1 mです。 • AF補助光の設定にかかわらず、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しません。	82
電子ズーム	［**ON**］（初期設定）時は、光学ズームが最も望遠側にある状態でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、電子ズームが作動します（📖31）。 • 撮影モードなどの設定によっては、電子ズームは使えません。	82
サイドズームレバー設定	撮影時にサイドズームレバーを操作したときの動作を設定します。［**ズームレバー**］（初期設定）時は、ズーム操作ができます。	83
操作音	操作時に電子音を鳴らすかどうかを設定します。初期設定では電子音が鳴ります。 • 撮影モードなどの設定によっては、操作音は鳴りません。	84
オートパワーオフ	節電のために液晶モニターが消灯するまでの時間を設定します。初期設定は［**1分**］です。	84
メモリーの初期化/カードの初期化（フォーマット）	SDカードを入れていないときは内蔵メモリーを、SDカードを入れているときはSDカードを初期化（フォーマット）します。 • **初期化すると内蔵メモリーまたはSDカード内のデータはすべて削除され、元に戻せません。**必要なデータは初期化する前にパソコンなどに保存してください。	85
言語/Language	メニュー画面などに表示する言語を選びます。	85

セットアップメニュー

項目	内容	📖
TV出力設定	テレビと接続するときの設定をします。 ・オーディオビデオケーブルでテレビと接続しても画像がテレビに映らないときは、テレビの方式に合わせて、［**ビデオ出力**］を［**NTSC**］または［**PAL**］に設定します。 ・HDMI の設定ができます。	E86
Fnボタン設定	撮影時によく使う撮影メニューを、Fn（ファンクション）ボタンに割り当てできます。初期設定は［**連写**］です。	E87
パソコン接続充電	［**AUTO**］（初期設定）時は、パソコンと接続すると、パソコンからの電力供給状態に応じて、カメラ内のバッテリーを充電します。 ・パソコンで充電する場合、本体充電 AC アダプター EH-69P 使用時に比べて、充電に時間がかかることがあります。また、画像を転送しながら充電すると、充電に時間がかかります。	E88
Av/Tv操作切り換え	プログラムシフト、シャッタースピードまたは絞り値の設定方法を切り換えます。 ［**切り換えない**］（初期設定）を選ぶと、コマンドダイヤルでプログラムシフトまたはシャッタースピードを、マルチセレクターで絞り値を設定します。 ［**操作を切り換える**］を選ぶと、マルチセレクターでプログラムシフトまたはシャッタースピードを、コマンドダイヤルで絞り値を設定します。 ・撮影モードが **P**、**S**、**A**、**M**、**U** のときのみ有効です。	E90
連番リセット	［**はい**］を選ぶと、ファイル番号の連番をリセットします。リセットすると新しい記録フォルダーが作られ、次に撮影する画像の連番は、「0001」から始まります。	E90
目つぶり検出設定	笑顔自動シャッター以外で顔認識撮影（📖85）した直後、被写体の人物が目を閉じている可能性をカメラが検出すると［**目つぶり確認**］画面が表示され、撮影した画像を確認できます。初期設定は［**OFF**］です。	E91

項目	内容	📖
サムネイルバー	[**ON**] 時に再生モードの1コマ表示 (📖34) でマルチセレクターを速く回すと、画面下部に前後の画像のサムネイルを表示します。初期設定は [**OFF**] です。	➡92
Eye-Fi**送信機能**	市販のEye-Fiカードによるパソコンへの画像送信機能を有効にするかどうか設定します。初期設定は [**無効**] です。	➡93
インジケーターの＋/ー方向	撮影モードが**M**のときに表示される露出インジケーターの＋/ー表示の方向を設定します。	➡94
設定クリアー	カメラを初期設定にリセットします。 • [**地域と日時**]、[**言語 /Language**] など、一部の設定やモードダイヤル**U**に登録したユーザーセッティングの内容はリセットされません。	➡94
バージョン情報	カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。	➡97

関連ページ

メニュー表示中のコマンドダイヤル操作について➞📖14

詳細編

詳細編では、機能の詳細や使い方のヒントなどを記載しています。

撮影

再生

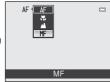
メニュー

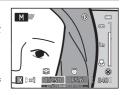
資料

マニュアルフォーカスの使い方

撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**、**U**、スペシャルエフェクトモード、シーンモードの［**スポーツ**］のときに使えます。

1 マルチセレクターの▼（🌷フォーカスモード）を押す

- マルチセレクターで MF（マニュアルフォーカス）を選び、OKボタンを押します。
- 画面上部にMFが表示され、画像中央部が拡大表示されます。

2 ピントを合わせる

- 液晶モニターを見ながら、マルチセレクターを使ってピントを合わせます。
- ▲を押すと、遠くの被写体にピントが合います。
- ▼を押すと、近くの被写体にピントが合います。
- シャッターボタンを半押しすると、構図を確認できます。そのまま全押ししても撮影できます。

3 OKボタンを押す

- 設定したピントに固定され、固定したピントで続けて撮影できます。
- 設定したピントを変更するときは、もう一度OKボタンを押して手順2の画面を表示します。
- オートフォーカスに戻すときは、手順 1 に戻って MF以外を選びます。

MF（マニュアルフォーカス）について

- 手順2で画面右のゲージに表示される数字は、ゲージを中央付近にしたときにピントが合う距離（m）の目安です。実際にピントが合う範囲は、絞り値やズーム位置によって異なります。ピントが合っているかどうかは、画面内の被写体で確認してください。
- シャッターボタンを半押しすると、およその被写界深度（被写体の前後のピントの合う範囲）を確認できます。
- セットアップメニューの［**サイドズームレバー設定**］（🔗83）を［**MFレバー**］にすると、手順2で▲▼のかわりにサイドズームレバーでもピント合わせができます。
- 電子ズームは使えません。

かんたんパノラマの使い方（撮影と再生）

かんたんパノラマの撮影方法

モードダイヤルをSCENEに合わせる ➔ MENUボタン ➔ パノラマ

1 ［かんたんパノラマ］を選び、ボタンを押す

2 撮影する範囲を［**標準 (180°)**］または［**ワイド (360°)**］から選び、ボタンを押す

- カメラを横位置で構えたときの画像サイズ（ヨコ × タテ）は、以下の通りです。
  - ［**標準 (180°)**］：
    水平に移動時 3200 × 560、
    垂直に移動時 1024 × 3200
  - ［**ワイド (360°)**］：
    水平に移動時 6400 × 560、
    垂直に移動時 1024 × 6400
- カメラを縦位置で構えたときの画像サイズは、移動方向とタテとヨコの組み合わせが入れ替わります。

3 一番端の被写体に構図を合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

- ズーム位置は、広角側に固定されます。
- 画面に格子のガイドが表示されます。
- 画面中央でピントを合わせます。
- 露出補正（74）が設定できます。
- 主要被写体にピントや露出が合わないときは、フォーカスロック撮影（86）をお試しください。

4 シャッターボタンを全押しし、シャッターボタンから指を離す

- カメラを動かす方向を示す▷マークが表示されます。

5 カメラを4方向のいずれかに、まっすぐ、ゆっくりと動かし、撮影を開始する

- カメラが動いている方向を検出すると、撮影が始まります。
- 現在の撮影地点を示すガイドが表示されます。
- 撮影地点を示すガイドが端まで到達すると、撮影が終了します。

カメラの動かし方の例

- 撮影者は動かずに、カメラを水平方向、または垂直方向に円弧を描くように、ガイドの端から端まで動かします。
- ガイドが端まで到達しないまま、撮影開始から約15 秒（STD［**標準（180°）**］時）、または約30秒（WIDE［**ワイド（360°）**］時）が経過すると撮影は終了します。

かんたんパノラマ撮影時のご注意

- 保存される画像の範囲は、撮影時に画面で見える範囲よりも狭くなります。
- 動かす速度が速すぎるときや、ブレが大きいとき、または壁や暗闇など被写体に変化が少ないときなどはエラーになります。
- パノラマ範囲の半分に到達する前に撮影が止まると、パノラマ画像は保存されません。
- パノラマ範囲の半分以上を撮影していて、終端に到達する前に撮影が終了したときは、撮影されなかった範囲がグレーの表示で記録されます。

かんたんパノラマの再生方法（スクロール再生）

再生モードにして（📖34）、かんたんパノラマで撮影した画像を1コマ表示し、Ⓚボタンを押すと、画像の短辺を画面いっぱいに表示し、表示範囲を自動で移動（スクロール）します。

- STD または WIDE が表示されている画像がかんたんパノラマで撮影した画像です。

- 撮影したときと同じ方向で、スクロールします。
- マルチセレクターを回すと、早送り/早戻しができます。

再生中は、画面上部に操作パネルが表示されます。マルチセレクターの◀ ▶で操作パネルのアイコンを選び、Ⓚボタンを押すと以下の操作ができます。

<table>
<tr><th>機能</th><th>アイコン</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>巻き戻し</td><td>◀◀</td><td colspan="2">Ⓚボタンを押している間、スクロールを早戻しします。</td></tr>
<tr><td>早送り</td><td>▶▶</td><td colspan="2">Ⓚボタンを押している間、スクロールを早送りします。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">一時停止</td><td rowspan="4">❚❚</td><td colspan="2">一時停止中に画面上部の操作パネルのアイコンで以下の操作ができます。</td></tr>
<tr><td>◀❚❚</td><td>Ⓚボタンを押している間、巻き戻しします。※</td></tr>
<tr><td>❚❚▶</td><td>Ⓚボタンを押している間、スクロールします。※</td></tr>
<tr><td>▶</td><td>自動スクロールを再開します。</td></tr>
<tr><td>再生終了</td><td>■</td><td colspan="2">1コマ表示に戻ります。</td></tr>
</table>

※ マルチセレクターを回してもスクロールします。

詳細編

✔ かんたんパノラマ画像の再生についてのご注意

COOLPIX P510のかんたんパノラマ撮影以外で記録したパノラマ画像は、スクロール再生や拡大表示ができないことがあります。

パノラマアシストの使い方

三脚を使うと、構図を合わせやすくなります。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニューの[**手ブレ補正**](🔗80)を[**OFF**]にしてください。

モードダイヤルをSCENEに合わせる ➔ MENUボタン ➔ パノラマ

1 [パノラマアシスト] を選び、Ⓚボタンを押す

- パノラマ方向(画像をつなげる方向)を示す▷マークが表示されます。

2 マルチセレクターでパノラマ方向を選び、Ⓚ ボタンを押す

- 右方向につなげるときは▷、左方向は◁、上方向は△、下方向は▽を選びます。
- 選んだ方向に黄色い▷▷マークが移動し、Ⓚボタンを押すと方向を決定します。決定した方向の▷(白色)が表示されます。

- フラッシュモード(□66)、セルフタイマー(□69)、フォーカスモード(□72)、露出補正(□74)を設定したいときは、ここで設定してください。
- もう一度Ⓚボタンを押すと、パノラマ方向を選び直せます。

3 一番端の被写体に構図を合わせ、1コマ目を撮影する

- 画面中央でピントを合わせます。
- 撮影した画像が、画面の約 1/3 の部分に半透明で表示されます。

4 2コマ目以降を撮影する

- 次の被写体の 1/3 が前の絵柄に重なるように構図を合わせて、シャッターボタンを押してください。
- この手順を繰り返して、必要な画像を撮影してください。

5 必要な画像を撮影し終わったら、Ⓚボタンを押す

- 手順2の状態に戻ります。

パノラマアシストについてのご注意

- フラッシュモード、セルフタイマー、フォーカスモード、露出補正は、1コマ目のシャッターをきる前に設定してください。1コマ目を撮影した後は変更できません。1コマ目を撮影した後は、［**画質**］（□77）、［**画像サイズ**］（□78）の変更やズーム操作、画像の削除もできません。
- 撮影中にオートパワーオフ（⚯84）による待機状態になると撮影が終了します。オートパワーオフの時間を長めに設定しておくことをおすすめします。

AE/AF-L表示について

パノラマアシストモードでは、パノラマ写真を構成するすべての画像を、1コマ目と同じ露出、ホワイトバランスおよびピントで撮影します。
1コマ目を撮影すると、露出、ホワイトバランスとピントをロック（固定）したことを示すAE/AF-Lが画面に表示されます。

パノラマ写真に合成するには（Panorama Maker 6）

撮影した画像をパソコンに転送して（□93）、Panorama Maker 6でパノラマ写真に合成します。

- Panorama Maker 6は、付属の「ViewNX 2 Installer CD」でインストールできます（□91）。
- Panorama Maker 6をインストールしたら、次のように起動します。
  Windows：［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ArcSoft Panorama Maker 6**］→［**Panorama Maker 6**］の順にクリックします。
  Mac OS X：［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Panorama Maker 6**］をダブルクリックします。
- Panorama Maker 6の使い方は、Panorama Maker 6の操作画面やヘルプをご覧ください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→⚯98

3D撮影の使い方

3D対応のテレビまたはモニターで立体的に表示するため、左目用と右目用の2コマを撮影します。

モードダイヤルをSCENEに合わせる ➔ MENUボタン ➔ 3D 3D撮影

1 構図を決める

- ピントを合わせるエリア（AFエリア）を中央以外に移動できます。移動するには、1コマ目の撮影前にOKボタンを押し、マルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶を押します。
  以下の設定をするときは、OKボタンを押していったんAFエリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - フォーカスモード（AF（通常AF）または🌷（マクロAF））
  - 露出補正

2 シャッターボタンを押し、1コマ目のシャッターをきる

- ピントと露出およびホワイトバランスは、1 コマ目の撮影で固定され、画面にAE/AF-Lが表示されます。

3 半透明のガイド表示に被写体を重ね合わせるように、カメラを右に水平移動する

- 撮影をキャンセルするには、OKボタンを押します。

4 自動で2コマ目のシャッターがきれるのを待つ

- カメラが被写体の重なりを検知すると、2コマ目が自動的に撮影されます。
- 約10秒以内に被写体の重なりを検知できない場合は、撮影はキャンセルされます。

3D撮影について

- 動く被写体は3D 撮影に適していません。止まった被写体を撮影することをおすすめします。
- カメラと被写体との距離が離れているほど、立体感が出にくくなります。
- 被写体が暗いときや、2コマ目の撮影時に画像の重ね合わせが充分でない場合は、立体感が出にくいことがあります。
- 望遠側で撮影するときは、手ブレにご注意ください。
- 望遠側のズーム位置は、35mm判換算で135 mm 相当の撮影画角までに制限されます。
- 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。
- 暗い場所で撮影すると、画像にノイズが現れることがあります。
- 2コマ目の撮影で、ガイドに被写体を重ね合わせても自動撮影が作動せず、撮影がキャンセルされる場合は、シャッターボタンによる手動撮影をお試しください。

3D画像再生についてのご注意

- カメラの液晶モニターでは3D（立体）で再生できません。
  →「3D画像の再生方法」（□53）
- 3D画像を3D対応のテレビまたはモニターで長時間見続けると、眼の疲労や、気分が悪くなるなどの不快な症状が出ることがあります。お使いのテレビまたはモニターの説明書をよくご覧になり、適切に使用してください。

P、S、A、Mモード

P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）

1 モードダイヤルを**P**、**S**、または**A**に合わせる

2 コマンドダイヤルまたはマルチセレクターを回して、露出を設定する

- **P**モードの場合、コマンドダイヤルを回すと、プログラムシフト（□59）を設定できます。
- **S**モードの場合、コマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを最大1/4000～4秒の範囲で設定できます。
- **A**モードの場合、マルチセレクターを回すと、絞り値をf/3 ～ 8.3（広角側）、f/5.9 ～ 8.3（望遠側）の範囲で設定できます。

3 構図を決めて撮影する

- 初期設定では、9 つあるAF エリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（⚭47）。

撮影時のご注意

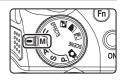
- 露出を設定したあとにズーム操作をすると、露出の組み合わせや絞り値が変化することがあります。
- 被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、適切な露出が得られない場合があります。このときにシャッターボタンを半押しすると、シャッタースピード表示や絞り値表示が点滅します。設定したシャッタースピード、または絞り値を変えてください。また、ISO感度（⚭45）などの設定を変更すると適切な露出が得られることがあります。

シャッタースピードについて

シャッタースピードの制御範囲は、絞り値やISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（□83）。

M（マニュアル露出）

シャッタースピードも絞り値も撮影者が設定できます。
- シャッタースピードを最大1/4000～8秒の範囲で設定できます。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを設定する

- 露出インジケーターについて→□59

露出インジケーター

3 マルチセレクターを回して、絞り値を設定する

- 必要に応じて、手順2～3を繰り返してシャッタースピードと絞り値を調整します。

4 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9 つあるAF エリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（⚯47）。

撮影時のご注意

露出を設定したあとにズーム操作をすると、絞り値が変化することがあります。

ISO感度についてのご注意

［**ISO感度設定**］（⚯45）を［**オート**］（初期設定）または［**感度制限オート**］に設定していると、ISO感度はISO 100に固定されます。

シャッタースピードについて

シャッタースピードの制御範囲は、絞り値やISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（📖83）。

連写した画像の再生と削除（連写グループ）

以下の設定で連続撮影した画像は、撮影ごとに「連写グループ」として保存されます。

- 撮影メニュー［**連写**］（⚭41）の［**連写 H**］、［**連写 L**］、［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］
- シーンモードの［**スポーツ**］（□46）、［**ペット**］（□52）の［**連写**］

連写グループの再生方法

再生モードの1コマ表示やサムネイル表示（□35）では、連写グループの1コマ目の画像が代表画像として表示されます。

連写グループ表示

代表画像の1コマ表示中にⓄボタンを押すと、連写グループ内の画像を1コマずつ展開して表示します。代表画像のみの表示に戻すには、マルチセレクターの▲を押します。

連写グループ内の画像を1コマずつ展開して表示しているときは、以下の操作ができます。

- 画像を選ぶ：マルチセレクターを回すか、◀ ▶を押します。
- 拡大表示する：ズームレバーを**T**（Q）方向に回します（□35）。

☑ 連写グループについてのご注意

COOLPIX P510以外で連写した画像は、連写グループとして表示できません。

✎ 連写グループの表示方法について

再生メニューの［**連写グループ表示方法**］（⚭63）で、すべての連写グループの表示方法を代表画像のみにするか、1コマずつ展開して表示にするかを設定できます。
［**連写グループ表示方法**］が［**1枚ずつ**］のときは、連写グループの画像を選ぶと、画面に⧉アイコンが表示されます。

詳細編

連写グループの代表画像を変更する

代表画像は、再生メニューの［**連写の代表画像選択**］（E63）で変更できます。

連写グループで使える再生メニュー

連写グループの画像表示中にMENUボタンを押すと、以下のメニュー操作ができます。

- 簡単レタッチ※1 →E17
- 美肌※1 →E18
- プリント指定※2 →E55
- プロテクト設定※2 →E58
- スモールピクチャー※1 →E20
- 画像コピー※2 →E62
- 連写グループ表示方法 →E63
- D-ライティング※1 →E17
- フィルター効果※1 →E19
- スライドショー →E57
- 画像回転※1 →E60
- 音声メモ※1 →E61
- 黒フレーム※1 →E21
- 連写の代表画像選択 →E63

※1 1コマずつに展開して表示してから、MENUボタンを押してください。画像ごとに設定できます。

※2 代表画像のみを表示中にMENUボタンを押すと、同じ連写グループの画像をまとめて同じ設定にできます。1コマずつ展開して表示してからMENUボタンを押すと、画像ごとに設定できます。

連写グループの画像を削除する

再生メニューで［**連写グループ表示方法**］（E63）を［**代表画像のみ**］にしていた場合、🗑ボタンを押して削除方法を選ぶと、以下の画像が削除の対象になります。

- 代表画像のみで、まとめて表示している場合：
  - ［**表示画像**］：連写グループを選択していたときは、同じ連写グループの画像をすべて削除します。
  - ［**削除画像選択**］：削除画像の選択画面（□37）で代表画像を選ぶと、同じ連写グループの画像をすべて削除します。
  - ［**全画像**］：表示中の連写グループを含む、すべての画像を削除します。
- 🗑ボタンを押す前に、代表画像を選びⓀボタンを押して、同じ連写グループ内の画像を1コマずつ展開している場合：削除方法の項目が以下に変わります。
  - ［**表示画像削除**］：表示している1コマを削除します。
  - ［**削除画像選択**］：削除画像の選択画面（□37）で、同じ連写グループの画像を複数選択して削除します。
  - ［**表示グループ削除**］：表示している1コマを含む、同じ連写グループの画像をすべて削除します。

画像の編集（静止画）

画像編集の種類

このカメラでは以下の機能を使って画像を簡単に編集できます。編集した画像は元画像とは別に、異なるファイル名で保存されます（E98）。

編集の種類	用途
簡単レタッチ（E17）	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。
D-ライティング（E17）	逆光やフラッシュの光量不足で暗くなった部分を明るく補正します。
美肌（E18）	人物の顔の肌をなめらかにします。
フィルター効果（E19）	デジタルフィルターでいろいろな効果を付けます。効果の種類には、［**セレクトカラー**］、［**クロススクリーン**］、［**魚眼効果**］、［**ミニチュア効果**］、［**絵画調**］があります。
スモールピクチャー（E20）	サイズの小さい画像を作成します。電子メールに添付して送信するときなどに使います。
黒フレーム（E21）	画像の周りに黒い枠を付けます。画像に境界線を付けたいときなどに使います。
トリミング（E22）	画像の一部を切り抜きます。被写体をクローズアップしたいときや構図に手を加えたいときなどに使います。

画像編集についてのご注意

- 以下の画像は編集できません
  - 縦横比16:9、3:2または1:1の画像（黒フレームを除く）
  - ［**かんたんパノラマ**］または［**3D撮影**］で撮影した画像
  - COOLPIX P510以外で撮影した画像
- 画像から人物の顔を検出できないときは、美肌の編集はできません（E18）。
- COOLPIX P510以外のデジタルカメラでは、このカメラで編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。
- 代表画像のみで表示している連写グループ（E13）は、以下のいずれかの操作をしてから、編集してください。
  - Ⓚボタンを押して1コマずつに展開してから、グループ内の画像を選ぶ
  - ［**連写グループ表示方法**］（E63）を［**1枚ずつ**］に設定し、1 コマずつに展開してから、画像を選ぶ

画像編集の制限

編集で作成した画像に別の編集を追加するときには、以下の制限があります。

編集に使った機能	追加できる編集機能
簡単レタッチ D-ライティング	美肌、フィルター効果、スモールピクチャー、黒フレームまたはトリミングができます。 簡単レタッチとD-ライティングを組み合わせることはできません。
美肌	簡単レタッチ、D-ライティング、フィルター効果、スモールピクチャー、黒フレームまたはトリミングができます。
フィルター効果	簡単レタッチ、D-ライティング、美肌、スモールピクチャー、黒フレームまたはトリミングができます。
スモールピクチャー	追加編集できません。
黒フレーム	スモールピクチャーができます。
トリミング	黒フレームができます。

- 編集で作成した画像に同じ種類の編集を繰り返すことはできません。
- スモールピクチャーと別の編集機能を組み合わせるときは、スモールピクチャーは最後に編集してください。
- 撮影時に美肌機能を使って撮影した画像にも、美肌の編集ができます。
- 動画から切り出した画像は、簡単レタッチ、または美肌の編集ができません。

元画像と編集画像の関係について

- 編集で作成した画像は、元画像を削除しても削除されません。また、編集で作成した画像を削除しても、元画像は削除されません。
- 編集で作成した画像の撮影日時は、元の画像と同じです。
- ［**プリント指定**］（E55）や［**プロテクト設定**］（E58）した画像を編集しても、これらの設定内容は編集で作成した画像に反映されません。

簡単レタッチ（コントラストと鮮やかさを高める）

画像を選ぶ（34）➔ MENUボタン （13）➔ 簡単レタッチ

マルチセレクターの▲▼を押して効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- 左側に表示される画像は補正前、右側は補正後の見本です。
- 中止するときは、◀ を押します。

- 簡単レタッチで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

D-ライティング（画像の暗い部分を明るく補正する）

画像を選ぶ（34）➔ MENUボタン（13）➔ D-ライティング

マルチセレクターの▲▼を押して効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- 左側に表示される画像は補正前、右側は補正後の見本です。
- 中止するときは、◀ を押します。

- D-ライティングで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→98

美肌（肌をなめらかにする）

画像を選ぶ（34）➔ MENUボタン（13）➔ 美肌

1 マルチセレクターの▲▼を押して効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- 確認画面になり、美肌編集した顔が拡大表示されます。
- 中止するときは、◀を押します。

2 効果を確認する

- 最も画面の中央に近い順に、最大12人の肌を編集します。
- 美肌編集した顔が複数あるときは、マルチセレクターの◀ ▶を押すと顔の切り換えができます。
- 効果の度合いを変えたいときは、MENUボタンを押して、手順1に戻ります。
- OKボタンを押すと、美肌編集した画像が作成されます。
- 美肌編集で作成した画像は、再生画面でが表示されます。

詳細編

美肌についてのご注意

- 顔の向きや明るさなど、画像によっては、適切に顔を検出できないことや望ましい効果が得られないことがあります。
- 画像から人物の顔を検出できないときは、警告メッセージが表示され、再生メニューに戻ります。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→98

フィルター効果（デジタルフィルター）

画像を選ぶ（34）➔ MENUボタン（13）➔ フィルター効果

項目	内容
セレクトカラー	画像の特定の色だけを残し、他の部分を白黒にします。
クロススクリーン	太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光の筋を伸ばします。夜景などを撮影した画像が適しています。
魚眼効果	魚眼レンズで撮影したような画像にします。マクロで撮影した画像が適しています。
ミニチュア効果	ミニチュア（模型）を接写したように加工します。高いところから見下ろして撮影した画像で、主要な被写体が画面中央付近に写った画像が適しています。
絵画調	絵画のような雰囲気に加工します。

1 マルチセレクターの ▲▼ を押してフィルター効果の種類を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**クロススクリーン**］、［**魚眼効果**］、［**ミニチュア効果**］、［**絵画調**］を選んだ場合→手順3

2 効果を調節して、Ⓚボタンを押す

- ［**セレクトカラー**］の場合：▲▼ で残したい色合いを選びます。

詳細編

3 効果を確認し、🆗ボタンを押す

- 編集した画像が作成されます。
- 中止するときは、◀を押します。
- フィルター効果で作成した画像は、再生画面でが表示されます。

スモールピクチャー（画像サイズを小さくする）

画像を選ぶ（□34）➔ MENUボタン （□13）➔ スモールピクチャー

1 マルチセレクターの ▲▼ を押してスモールピクチャーのサイズを選び、🆗ボタンを押す

- サイズは［**640 × 480**］、［**320 × 240**］または［**160×120**］から選べます。

2 ［はい］を選び、🆗ボタンを押す

- スモールピクチャーが作成されます。
- 画質は［**BASIC**］（圧縮率約 1/16）として保存されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、🆗 ボタンを押します。

- スモールピクチャーで作成した画像は、黒の枠で囲まれて表示されます。

詳細編

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→🔍98

🄱🄺 黒フレーム（画像の周りに黒い枠を付ける）

画像を選ぶ（📖34）➔ MENUボタン （📖13）➔ 🄱🄺黒フレーム

1 マルチセレクターの ▲▼ を押して枠の太さを選び、Ⓚボタンを押す

- 枠の太さは、［**細**］、［**中**］、［**太**］から選べます。

2 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 黒い枠を付けた画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、Ⓚ ボタンを押します。
- 黒フレームで作成した画像は、再生画面で🄱🄺が表示されます。

黒フレームについてのご注意

- 黒い枠は画像の上に重ねられるため、黒い枠の太さに応じて画像が削られます。
- 黒い枠を付けた画像をフチなしでプリントすると、黒い枠がプリントされないことがあります。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→🔗98

詳細編

✂ トリミング（画像の一部を切り抜く）

拡大表示（📖35）中にMENU：✂マークが表示されている画像は、液晶モニターに表示している部分だけにトリミング（切り抜き）できます。トリミングした画像は、元画像とは別に保存されます。

1 トリミングしたい画像を拡大表示する（📖35）

2 切り抜きたい部分だけが表示されるように調節する

- ズームレバーをT（Q）またはW（▦）方向に回して拡大率を調節します。
- マルチセレクターの▲▼◀▶を押して表示範囲を移動します。

3 MENUボタンを押す

4 マルチセレクターで［はい］を選び、OKボタンを押す

- トリミング画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、OKボタンを押します。

画像サイズについて

切り抜く範囲が狭くなるほど、トリミングで作成した画像の画像サイズ（ピクセル数）は小さくなります。トリミングして画像サイズが 320×240 または 160×120 になった画像は、再生時に黒の枠で囲まれ、画面左側にスモールピクチャーの アイコンが表示されます。

縦位置の画像を縦位置のままトリミングするには

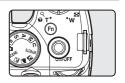
［**画像回転**］（🔗60）で画像を横位置に回転してからトリミングし、もう一度回転して縦位置に戻します。縦位置画像は、左右の黒い帯が見えなくなるまで画像を拡大するとトリミングできますが、画像は横位置になります。

関連ページ

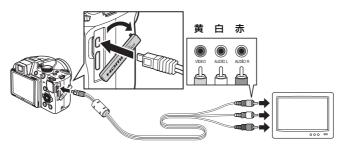
記録データのファイル名とフォルダー名→🔗98

テレビとの接続（テレビ画面での再生）

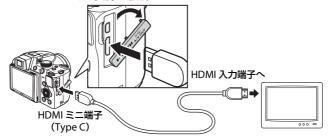
カメラをテレビに接続すると、撮影した画像をテレビ画面で再生できます。HDMI端子が付いたテレビをお持ちの場合は、市販のHDMIケーブルで接続して再生できます。

1 カメラの電源をOFFにする

2 カメラとテレビを接続する

付属のオーディオビデオケーブル（AVケーブル）で接続する場合

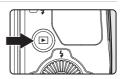
- AVケーブルの黄色のプラグをテレビの映像入力端子に、赤色と白色のプラグを音声入力端子に接続してください。

市販のHDMIケーブルで接続する場合

- テレビのHDMI入力端子に接続してください。

詳細編

3 テレビの入力をビデオ入力（外部入力）に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

4 カメラの▶ボタンを長押しして電源をONにする

- カメラは再生モードになり、撮影した画像がテレビに表示されます。
- テレビとの接続中は、カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

HDMI接続についてのご注意

HDMIケーブルは付属していません。市販のものをご用意ください。カメラのHDMI出力端子は、HDMIミニ端子（Type C）です。HDMIケーブルご購入時は、ケーブルの片方がHDMIミニ端子のものをお選びください。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルは、プラグの挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。プラグを引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- カメラのHDMIミニ端子とUSB/オーディオビデオ出力端子に、同時にケーブルを接続しないでください。

画像がテレビに映らないときは

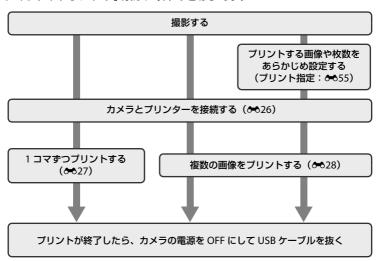
セットアップメニューの［**TV出力設定**］（E86）がお使いのテレビに合っているか確認してください。

テレビのリモコンを使う（HDMI 機器制御）

HDMI-CEC規格対応テレビのリモコンで、再生中の操作ができます。
カメラのマルチセレクターやズームレバーのかわりに、画像の選択や動画の再生/停止、1コマ表示と4コマのサムネイル表示の切り換えなどができます。

- カメラのセットアップメニュー［**TV出力設定**］の［**HDMI 機器制御**］（E86）を［**ON**］（初期設定）にし、HDMIケーブルで接続してください。
- リモコンは、テレビに向けて操作してください。
- お使いのテレビがHDMI-CEC規格に対応しているかどうかは、テレビの使用説明書などでご確認ください。

プリンターとの接続（ダイレクトプリント）

PictBridge（🔆18）対応プリンターをお使いの場合は、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接つないでプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントの手順は、以下のとおりです。

✔ 電源についてのご注意

- プリンターと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のAC アダプター EH-62A（🔗100）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）から、このカメラへ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

画像のプリント方法について

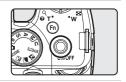
SDカードに記録した画像は、パソコンに転送したり、カメラをプリンターに接続してプリントする他に以下の方法でプリントできます。

- カードスロットが付いたDPOF対応プリンターでプリントする。
- プリントサービス店にプリントを依頼する。

これらの方法でプリントするときは、プリントする画像やプリント枚数などを、再生メニューの［**プリント指定**］を使って、あらかじめSDカードに設定できます（🔗55）。

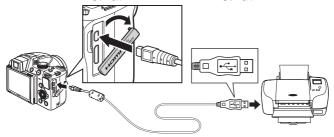
詳細編

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFFにする

2 プリンターの電源をONにする

- プリンターの設定を確認してください。

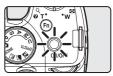
3 付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続する

- プラグの挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。プラグを引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

4 カメラの電源が自動的にONになる

- 正しく接続されると、カメラの液晶モニターに［**PictBridge**］画面（①）が表示された後、［**プリント画像選択**］画面（②）が表示されます。

①

PictBridge

②

✔ PictBridge画面が表示されないときは

カメラの電源をいったんOFFにしてUSBケーブルを外してください。カメラのセットアップメニューの［**パソコン接続充電**］（E88）を［**OFF**］に設定してから、接続をやり直してください。

1コマずつプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（⚭26）、以下の手順でプリントしてください。

1 マルチセレクターでプリントする画像を選び、Ⓚボタンを押す

- ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に、**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に切り換わります。

2 ［**プリント枚数設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

3 プリント枚数（9枚まで）を設定し、Ⓚボタンを押す

4 ［**用紙設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

関連ページ

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意→□79

5 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

6 ［プリント実行］を選び、Ⓚボタンを押す

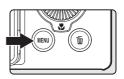
7 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順1の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

複数の画像をプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（E26）、以下の手順でプリントしてください。

1 ［プリント画像選択］画面が表示されたら、MENUボタンを押す

2 マルチセレクターで［用紙設定］を選び、Ⓚボタンを押す

- プリントメニューを終了したいときは、MENUボタンを押します。

3 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

4 ［**プリント選択**］、［**全画像プリント**］または［**DPOFプリント**］を選んで、Ⓚボタンを押す

プリント選択

プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定できます。

- マルチセレクターの ◀▶ を押して画像を選び、▲▼ を押してプリント枚数を設定します。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を 0 にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと 1 コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したら Ⓚ ボタンを押します。
- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

詳細編

全画像プリント

SDカードまたは内蔵メモリー内のすべての画像を1枚ずつプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、[**プリント実行**] を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- [**キャンセル**] を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

DPOFプリント

[**プリント指定**]（⚙55）であらかじめ指定しておいた画像をプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、[**プリント実行**] を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- [**キャンセル**] を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。
- [**画像の確認**] を選んで Ⓚ ボタンを押すと、どの画像をプリント指定したか確認できます。もう一度 Ⓚ ボタンを押すと、画像のプリントが始まります。

5 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

用紙設定について

用紙設定画面では、[**プリンターの設定**] 以外に、[**L サイズ**]、[**2L サイズ**]、[**はがき**]、[**100×150 mm**]、[**4×6 in.**]、[**8×10 in.**]、[**Letter**]、[**A3 サイズ**]、[**A4 サイズ**] のうち、プリンターが対応している用紙サイズを表示します。

動画の編集

動画の必要な部分だけを切り出す

撮影した動画の必要な部分だけを切り出し、別ファイルとして保存します。

1 編集する動画を再生して、切り出したい先頭で一時停止する（□100）

2 マルチセレクターの◀▶で操作パネルの✂を選び、Ⓚボタンを押す

- 動画編集画面が表示されます。

3 ▲▼を押して編集操作パネルの✂（始点の設定）を選ぶ

- マルチセレクターを回すか、◀ ▶を押して、始点の位置を調整します。
- 編集を中止するには、▲▼で⮌（戻る）を選び、Ⓚボタンを押します。

4 ▲▼を押して✂（終点の設定）を選ぶ

- マルチセレクターを回すか、◀ ▶を押して、右端にある終点を必要な部分の終了位置まで移動します。
- ▶（プレビュー）を選び、Ⓚボタンを押すと、保存する前に指定した範囲の動画を再生して確認できます。プレビュー再生中は、ズームレバー**T**/**W**で音量を調節できます。マルチセレクターを回すと早送り/巻き戻しできます。プレビュー再生を停止するときは、もう一度Ⓚボタンを押します。

5 設定が完了したら、▲▼を押して🗋（保存）を選び、Ⓚボタンを押す

6 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 編集した動画が保存されます。
- 保存しないときは［**いいえ**］を選びます。

動画編集についてのご注意

- 編集中に電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。バッテリー残量表示が▭のときは、動画編集の操作はできません。
- 編集で作成した動画から、もう一度動画を切り出すことはできません。他の範囲を切り出すときは、元の動画を選んで編集してください。
- 秒単位で動画を切り出すため、設定した始点/終点のフレームと、実際の切り出し範囲は、多少ずれることがあります。再生時間が2秒未満になる動画の切り出しはできません。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→ⓔ98

動画の1フレームを静止画として保存する

撮影した動画の1画面を静止画として切り出して保存できます。

- 動画の再生を一時停止して、切り出したい画面を表示します（□100）。
- マルチセレクターの◀▶で操作パネルの▣を選んで⊛ボタンを押します。

- 確認画面が表示されたら、［**はい**］を選んで⊛ボタンを押して保存します。保存をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。
- 保存される静止画の画質は［**NORMAL**］です。画像サイズは元の動画の種類（画像サイズ）（ⓔ64）によって異なります。
  例えば、1080/30p［**HD 1080p★ (1920×1080)**］で撮影した動画から保存した静止画は、16:9 2M（1920×1080ピクセル）になります。

撮影メニュー（P、S、A、M モード）

画質と画像サイズ

画質と画像サイズを設定するには、「画質と画像サイズを変える」（📖77）をご覧ください。

Picture Control（COOLPIXピクチャーコントロール）

モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**に合わせる ➔ MENUボタン ➔**P**、**S**、**A**、**M**タブ（📖13）➔ Picture Control

撮影状況や好みに合わせて、記録する画像の画（え）作りを設定できます。輪郭強調の度合い、コントラスト、色の濃さ（彩度）を細かく調整することもできます。

COOLPIX ピクチャーコントロールの種類

項目		内容
SD	**スタンダード（初期設定）**	鮮やかでバランスのとれた標準的な画像になります。ほとんどの撮影状況に適しています。
NL	**ニュートラル**	素材性を重視した自然な画像になります。撮影後に画像を加工したいときに適しています。
VI	**ビビッド**	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。青、赤、緑など、原色の色を強調したいときに適しています。
MC	**モノクローム**	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
C1	**カスタム 1**※	COOLPIXカスタムピクチャーコントロールで［**カスタム1**］に登録した設定にします。
C2	**カスタム 2**※	COOLPIXカスタムピクチャーコントロールで［**カスタム2**］に登録した設定にします。

※［**Custom Picture Control**］（➡37）でカスタマイズした設定を登録したときのみ表示されます。

［**スタンダード**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（📖8）。

詳細編

✔ COOLPIXピクチャーコントロールについてのご注意

- COOLPIX P510のCOOLPIXピクチャーコントロール機能は、他のカメラ、Capture NX、Capture NX 2およびViewNX 2のピクチャーコントロール機能と相互利用はできません。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（📖80）

COOLPIX ピクチャーコントロールのカスタマイズ：クイック調整と手動調整

COOLPIXピクチャーコントロールは、輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）などの画（え）作りの要素をバランス良くまとめて調整できる「クイック調整」と、要素ひとつひとつを細かく調整できる「手動調整」でカスタマイズできます。

1 マルチセレクターでCOOLPIXピクチャーコントロールの種類を選び、Ⓚボタンを押す

2 ▲▼を押して調整する項目（⊶35）を選び、◀▶を押して値を設定する

- Ⓚボタンを押すと、値が設定されます。
- 調整した COOLPIX ピクチャーコントロールの項目名の末尾にアスタリスク（＊）が表示されます。
- ［**リセット**］を選んでⓀボタンを押すと、調整値は初期設定に戻ります。

COOLPIXピクチャーコントロールのグリッド表示

上記手順1の画面でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、コントラスト（CONTRAST）と色の濃さ（SATURATION：彩度）がグリッド（方眼）で表示されます。縦軸はコントラストの強弱を、横軸は色の濃さを示します。もう一度**T**（Q）方向に回すと、元の画面に戻ります。

グリッド表示では、現在の設定値と初期設定値が表示され、他のCOOLPIXピクチャーコントロールとの関係がわかります。

- マルチセレクターを回すと、他の COOLPIX ピクチャーコントロールに切り換えられます。
- Ⓚボタンを押すと調整画面（上記の手順2）が表示されます。
- ［**モノクローム**］の場合、グリッド表示はコントラストのみ表示されます。
- 手動調整の［**コントラスト**］または［**色の濃さ (彩度)**］を調整中でもグリッド表示に切り換わります。

クイック調整と手動調整の種類

項目	内容
クイック調整※1	輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。[**−2**]～[**＋2**]まで5段階の調整ができます。 －側にするとそれぞれのCOOLPIXピクチャーコントロールの特徴を抑えた画像になり、＋側にするとそれぞれのCOOLPIXピクチャーコントロールの特徴を強調した画像になります。 初期設定は［**0**］です。
輪郭強調	画像の輪郭の強調度合い（シャープネス）を設定します。自動で調整する［**A**］（オート）と、［**0**］（輪郭強調しない）～［**6**］まで7段階の調整ができます。 数字が大きいほどくっきりとした画像になり、小さいほどソフトな画像になります。 初期設定は［**スタンダード**］または［**モノクローム**］のとき[**3**]、[**ニュートラル**]のとき[**2**]、[**ビビッド**]のとき[**4**]です。
コントラスト	画像のコントラストを設定します。自動で調整する[**A**]（オート）と、［**−3**］～［**＋3**］まで7段階の調整ができます。 －側にすると軟調な画像になり、＋側にすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは－側が、かすんだ遠景の撮影などには＋側が適しています。 初期設定は［**0**］です。
色の濃さ (彩度)※2	画像の色の鮮やかさを設定します。自動で調整する[**A**]（オート）と、［**−3**］～［**＋3**］まで7段階の調整ができます。 －側にすると鮮やかさが抑えられ、＋側にするとより鮮やかになります。 初期設定は［**0**］です。
フィルター効果※3	白黒写真用カラーフィルターを通して撮影したときのような効果が得られます。フィルター効果は［**OFF**］（初期設定）、[**Y**]（黄色）、[**O**]（オレンジ）、[**R**]（赤）、[**G**]（緑）から選べます。 ［**Y**］、［**O**］、［**R**］： コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。［**Y**］→［**O**］→［**R**］の順にコントラストが強くなります。 ［**G**］： 肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

詳細編

項目	内容
調色※3	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色は［**B&W**］（白黒）（初期設定）、［**Sepia**］（セピア調）、［**Cyanotype**］（青写真）から選べます。 ［**Sepia**］または［**Cyanotype**］を選んでロータリーマルチセレクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を7段階から選べます。◀▶を押して選んでください。

※1［**ニュートラル**］、［**モノクローム**］、［**カスタム 1**］または［**カスタム 2**］の場合は、クイック調整できません。
手動調整した後にクイック調整をすると、手動調整で設定した値は無効になります。
※2［**モノクローム**］の場合は、表示されません。
※3［**モノクローム**］のときのみ表示されます。

［輪郭強調］についてのご注意

［**輪郭強調**］の効果は、撮影時の画面では確認できません。画像を再生して確認してください。

［コントラスト］についてのご注意

［**Active D-ライティング**］（E53）が［**OFF**］以外のときは、［**コントラスト**］にが表示され、調整はできません。

［コントラスト］、［色の濃さ (彩度)］の［A］（オート）についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- ［**コントラスト**］または［**色の濃さ (彩度)**］に［**A**］（オート）が設定されたCOOLPIXピクチャーコントロールは、グリッド表示のときに設定値が緑色で表示されます。

［カスタム 1］、［カスタム 2］で調整できる項目について

［**カスタム 1**］または［**カスタム 2**］を選んだ場合は、元になったCOOLPIXピクチャーコントロールの項目が調整できます。

Custom Picture Control（COOLPIXカスタムピクチャーコントロール）

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENU ボタン ➔ P、S、A、Mタブ（📖13）➔ Custom Picture Control

「COOLPIXピクチャーコントロール」を調整（カスタマイズ）した画作り設定を2つまで登録できます。登録した設定は「COOLPIXピクチャーコントロール」の［**カスタム1**］、［**カスタム2**］として呼び出せます。

COOLPIXカスタムピクチャーコントロールを登録する

1 マルチセレクターで［**編集と登録**］を選び、OKボタンを押す

2 元にするCOOLPIXピクチャーコントロール（E34）を選び、OKボタンを押す

3 ▲▼を押して調整する項目を選び、◀▶を押して値を設定する（E34）

- 項目の内容はCOOLPIXピクチャーコントロールの調整と同じです。
- OKボタンを押して、登録先の選択画面を表示します。
- ［**リセット**］を選んでOKボタンを押すと、調整値は初期設定に戻ります。

4 登録先を選び、OKボタンを押す

- COOLPIX カスタムピクチャーコントロールが登録されます。
- 登録すると、［**Picture Control**］および［**Custom Picture Control**］の選択画面で［**カスタム 1**］または［**カスタム 2**］を選べるようになります。

詳細編

COOLPIXカスタムピクチャーコントロールを削除するには

「COOLPIXカスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順1で［**登録削除**］を選んで、登録を削除します。

ホワイトバランス（色合いの調整）

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（□13）➔ ホワイトバランス

人間の目には、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。人間の目に白く見える色を、デジタルカメラで白く撮影するには、光源の色に合わせて調整が必要です。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。
初期設定の［**オート（標準）**］でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせて設定を変更してください。

項目	内容
AUTO1 **オート（標準）（初期設定）**	カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、初期設定のままで撮影できます。［**オート（電球色を残す）**］を選ぶと、電球色の光源下で撮影した際に暖かみのある画像の仕上がりになります。フラッシュ使用時は、フラッシュ発光の条件に応じて、適したホワイトバランスに調整されます。
AUTO2 **オート（電球色を残す）**	
PRE **プリセットマニュアル**	特殊な照明の下などでの撮影に適しています。詳しくは「プリセットマニュアルの使い方」（⚭39）をご覧ください。
晴天※	晴天の屋外での撮影に適しています。
電球※	白熱電球の下での撮影に適しています。
蛍光灯（1～3）	蛍光灯の下での撮影に適しています。［**1**］（白色蛍光灯）、［**2**］（昼白色蛍光灯）、［**3**］（昼光色蛍光灯）のいずれかを選べます。
曇天※	曇り空の屋外での撮影に適しています。
フラッシュ※	フラッシュを使う撮影に適しています。

※7段階の微調整ができます。「＋」方向で青み、「－」方向で赤みが増します。

［**オート（標準）**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

ホワイトバランスについてのご注意

- ［**オート（標準）**］、［**オート（電球色を残す）**］、［**フラッシュ**］以外のホワイトバランスを選んだときは、フラッシュを（発光禁止）に設定してください（□66）。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

プリセットマニュアルの使い方

特殊な照明下（赤みがかった照明など）で撮影した画像を、普通の照明下で撮影したように見せたいときなどに使います。
以下の手順で、撮影する照明下のホワイトバランス値を測定して、撮影します。

1 白またはグレーの被写体を用意し、撮影する照明下に置く

2 撮影メニューを表示し（□60）、マルチセレクターで［**ホワイトバランス**］のPRE［**プリセットマニュアル**］を選び、Ⓚボタンを押す

- レンズが測定用のズーム位置になります。

3 ［**新規設定**］を選ぶ

- 前回測定したホワイトバランス値を使いたいときは、［**前回の設定**］を選んでⓀボタンを押します。再測定せずに、ホワイトバランスが前回の値に設定されます。

4 測定窓に、用意した白またはグレーの被写体を収める

測定窓

5 Ⓚボタンを押して、ホワイトバランス値を測定する

- シャッターがきれて、ホワイトバランスのプリセット値が新たに設定されます（画像は記録されません）。

✔ プリセットマニュアルについてのご注意

フラッシュ発光時のホワイトバランス値は測定できません。フラッシュ撮影時は、［**ホワイトバランス**］を［**オート（標準）**］、［**オート（電球色を残す）**］または［**フラッシュ**］に設定してください。

測光方式

モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**に合わせる ➔ MENUボタン ➔ **P**、**S**、**A**、**M**タブ（□13）
➔ 測光方式

露出を合わせるため、被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。
カメラが 測光する方式を設定します。

項目	内容
マルチパターン（初期設定）	画面の広い領域を測光します。 さまざまな撮影状況で適正な露出が得られます。通常の撮影では、マルチパターン測光をおすすめします。
中央部重点	画面に表示されている中央部重点測光範囲に重点を置いて測光します。ポートレート撮影など、重点的に画面中央部に露出を合わせたいときなどに使います。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（□86）をお使いください。
スポット	画面中央部に表示されているスポット測光範囲で測光します。被写体と背景の明るさが著しく異なるときなどに使います。被写体がスポット測光範囲に入るように撮影してください。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（□86）をお使いください。

測光方式についてのご注意

- 電子ズーム作動中は、［**測光方式**］は［**中央部重点**］または［**スポット**］になります。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

測光方式表示について

［**測光方式**］を［**中央部重点**］または［**スポット**］に設定すると、測光範囲のガイド（□8）が表示されます（電子ズーム使用時を除く）。

連写

モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**に合わせる ➔ MENUボタン ➔ **P**、**S**、**A**、**M**タブ（□13）➔ 連写

連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）などを設定できます。

項目	内容
S **単写（初期設定）**	1コマずつ撮影します。
連写 H	シャッターボタンを全押しし続けると、約7コマ/秒の速さで連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが16M［**4608×3456**］のとき）。シャッターボタンから指をはなすか、5コマ連写すると、撮影を終了します。
連写 L	シャッターボタンを全押しし続けると、連写速度約1コマ/秒で、約30コマ連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが16M［**4608×3456**］のとき）。
先取り撮影	先取り撮影を使うと、シャッターボタンを全押しする直前の画像も記録し、シャッターチャンスを逃しにくくなります。シャッターボタンの半押しで先取りを開始し、そのまま全押しを続けると連写します（⚫⚫43）。 • 連写速度：最大 15 コマ / 秒 • 連続撮影コマ数：最大 20 コマ（先取り撮影の最大 5 コマを含む）シャッターボタンから指をはなすか、最大コマ数連写すると、撮影を終了します。 記録される画質は［**NORMAL**］、画像サイズは3M（2048×1536ピクセル）に固定されます。
120 **高速連写** 120 fps	シャッターボタンを1回全押しすると、約1/125秒以上の高速シャッタースピードで60コマ連写します。 記録される画像サイズはVGA（640×480 ピクセル）に固定されます。
60 **高速連写** 60 fps	シャッターボタンを1回全押しすると、約1/60秒以上の高速シャッタースピードで60コマ連写します。 記録される画像サイズは1M（1280×960ピクセル）に固定されます。
BSS BSS **（ベストショットセレクター）**	暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときや、望遠側で撮影するときなど、手ブレしやすい状況で撮影する場合に設定します。 シャッターボタンを全押しし続けると、最大10コマ連写し、最も鮮明に撮れている1コマだけをカメラが自動で選んで記録します。

撮影メニュー（P、S、A、M モード）

項目	内容
マルチ連写	シャッターボタンを1回全押しすると約30コマ/秒の速さで16コマの連続写真を撮影し、1コマの画像として記録します。 ・記録される画質は［**NORMAL**］、画像サイズは（2560 × 1920 ピクセル）に固定されます。 ・電子ズームは使えません。
インターバル撮影	あらかじめ設定した撮影間隔（インターバル）で、静止画を自動的に連続撮影します（43）。

［**単写**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（8）。

連写についてのご注意

- ピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。
- 画質や画像サイズ、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。
- ［**ISO感度設定**］（45）が［**3200**］または［**Hi 1**］のときは、連写速度が遅くなります。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（80）

BSSについてのご注意

［**BSS**］は静止している被写体の撮影に効果的です。動いている被写体の撮影や、構図を変えながらの撮影では、望ましい結果が得られない場合があります。

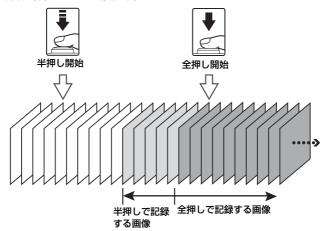
マルチ連写についてのご注意

蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの高速で明滅する照明下では、画像に横帯が発生したり、明るさや色合いにばらつきが発生したりすることがあります。

高速連写についてのご注意

- 撮影後の画像の記録に時間がかかります。記録が終了するまでの時間は、撮影コマ数、SDカードへの書き込み速度などによって異なります。
- ISO感度が上がって、撮影した画像がざらつくことがあります。
- 晴天下では適正な露出が得られない（露出オーバーになる）ことがあります。
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの高速で明滅する照明下では、画像に横帯が発生したり、明るさや色合いにばらつきが発生したりすることがあります。

先取り撮影について

［**先取り撮影**］を設定しているときに、シャッターボタンを0.5秒以上半押しすると撮影を開始し、全押しする直前の画像も連続撮影コマ数の一部として記録できます。先取り撮影できるコマ数は、5コマまでです。
先取り撮影の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。シャッターボタンの半押し中は、先取り撮影アイコンが緑色に変わります。

- 記録可能コマ数が6コマ未満のときは、先取り撮影部分の画像は記録されません。撮影前に記録可能コマ数が6コマ以上残っていることをご確認ください。

インターバル撮影を使った撮影方法

モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**に合わせる ➔ MENUボタン ➔ **P**、**S**、**A**、**M**タブ（□13）➔ 連写

撮影間隔は、［**30 秒**］、［**1 分**］、［**5 分**］または［**10 分**］に設定できます。

1 マルチセレクターで［**連写**］設定の［**インターバル撮影**］を選び、Ⓞボタンを押す

詳細編

2 撮影間隔を選び、Ⓚボタンを押す

- インターバル撮影できる最大コマ数は、撮影間隔によって異なります。
  - [**30 秒**]：600コマ
  - [**1 分**]：300コマ
  - [**5 分**]：60コマ
  - [**10 分**]：30コマ

3 MENUボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

4 シャッターボタンを全押しして、1コマ目の撮影を開始する

- 撮影の合間は、液晶モニターが消灯し、電源ランプが点滅します。
- 次のコマの撮影直前になると、自動的に液晶モニターが再点灯します。

5 もう一度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

- 内蔵メモリー /SDカードの残量がなくなったとき、または撮影コマ数が上限に達すると、撮影が自動的に終了します。

インターバル撮影についてのご注意

- 途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62A（⚫100）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。
- インターバル撮影中は、モードダイヤルを回さないでください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→⚫98

ISO感度設定

モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**に合わせる ➔MENUボタン ➔ **P**、**S**、**A**、**M**タブ（□13）
➔ ISO感度設定

ISO感度を高くすると、より少ない光量で撮影できます。
ISO感度を高くするほど、より暗い被写体を撮影できます。また、同じ明るさの被写体でも、より速いシャッタースピードで撮影でき、手ブレや被写体の動きによるブレを軽減しやすくなります。
- ISO 感度を高くすると、暗い被写体の撮影やフラッシュを使わない撮影、望遠側での撮影などに効果的ですが、撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

ISO感度の種類

項目	内容
ISO感度設定	• ［**オート**］（初期設定）：明るい場所では ISO 100 になり、暗い場所では自動的に ISO 1600 まで ISO 感度が高くなります。 • ［**感度制限オート**］：カメラが自動的に ISO 感度を変更するときの範囲を［**ISO 100-400**］（初期設定）、［**ISO 100-800**］から選べます。選んだ範囲の上限値以上に ISO 感度は上がりません。ISO 感度の上限値を設定することで、画像のざらつきを抑える効果があります。 • ［**100**］、［**200**］、［**400**］、［**800**］、［**1600**］、［**3200**］、［**Hi 1**］（ISO 6400 相当）： ISO 感度を選んだ値に固定します。
低速限界設定	撮影モードが**P**または**A**のときに［**ISO感度設定**］を［**オート**］、［**感度制限オート**］に設定した場合、ISO感度の自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/125～1秒）を設定します。初期設定は［**OFF**］です。ここで設定したシャッタースピードでは露出不足となる場合、適正露出を得るためにISO感度を自動的に高くします。ISO 感度が上がっても露出不足となる場合は、シャッタースピードが遅くなります。

ISO感度の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。
- ［**オート**］に設定した場合、ISO 100で撮影できるときは何も表示されず、ISO感度が自動的に上がったときにISOマークが表示されます（□30）。
- ［**感度制限オート**］に設定したときはマークとISO感度の上限値が表示されます。

ISO感度設定についてのご注意

- **M**（マニュアル露出）モードのときに［**オート**］、［**感度制限オート**］に設定すると、ISO感度はISO 100に固定されます。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

詳細編

AEブラケティング

モードダイヤルをP、S、Aに合わせる ➔ MENU ボタン ➔ P、S、Aタブ（□13）
➔ AEブラケティング

露出（明るさ）を自動的に変えながら連続撮影できます。画像の明るさの調整が難しい場合の撮影に効果的です。

項目	内容
±0.3	0、－0.3、＋0.3の順で自動的に露出を変えながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。
±0.7	0、－0.7、＋0.7 の順で自動的に露出を変えながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。
±1.0	0、－1.0、＋1.0 の順で自動的に露出を変えながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。
OFF（**初期設定**）	AEブラケティングを行いません。

AEブラケティングの設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

AEブラケティングについてのご注意

- **M**（マニュアル露出）モードの場合、［**AEブラケティング**］は使えません。
- 露出補正（□74）と［**AEブラケティング**］の［±**0.3**］、［±**0.7**］、［±**1.0**］のいずれかを同時に設定すると、補正量を加算します。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

AFエリア選択

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔P、S、A、Mタブ（□13）
➔ AFエリア選択

オートフォーカスでピント合わせをするエリアの決め方を設定します。

項目	内容
顔認識オート	カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→□85）。 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。 人物以外の撮影や顔を認識できない構図では、AFエリア選択が［**オート**］になり、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。 AFエリア
オート（初期設定）	9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。 シャッターボタンを半押しするまで、AFエリアは表示されません。 半押しすると、ピントが合ったAFエリアが画面に表示されます（最大9カ所）。 AFエリア

詳細編

項目	内容
マニュアル	画面内の99カ所から、ピントを合わせたいエリアを自分で選びます。比較的動きの少ない被写体が画面中央にない場合に適しています。 マルチセレクターを回すか、▲▼◀▶を押して、画面に表示されているAFエリアを、ピントを合わせたい位置に動かしてから撮影します。 AFエリア 選択可能エリア • 以下の設定をするときは、Ⓚ ボタンを押していったんAF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。 - フラッシュモード、フォーカスモード、セルフタイマーまたは露出補正 もう一度Ⓚボタンを押すと、再びAF エリアを選べる状態になります。
中央	画面中央の被写体にピントが合います。 AF エリアが画面中央に常に表示されます。 1/250 F5.6 840 AFエリア
ターゲット追尾	ピントを合わせたい被写体を登録するとターゲット追尾が始まり、AFエリアが被写体を追いかけて移動します。→「ターゲット追尾の使い方」（E50）。 終了

詳細編

項目		内容
[icon]	ターゲットファインドAF	カメラが主要な被写体を検出すると、その被写体にピントが合います。 ➞「ターゲットファインドAFについて」（□84） AF エリア

AFエリア選択についてのご注意

- 電子ズーム使用時は、［**AFエリア選択**］の設定にかかわらず、画面中央でピント合わせを行います。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□33）の撮影では、ピントが合わないことがあります。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。➞「同時に設定できない機能」（□80）
- ターゲットファインドAF など、カメラまかせでは、ピントを合わせたい被写体にピントが合わないときは、［**AFエリア選択**］を［**マニュアル**］または［**中央**］に切り換え、AFエリア表示を被写体に合わせてください。フォーカスロック撮影（□86）もお試しください。

ターゲット追尾の使い方

モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**に合わせる ➔ MENUボタン ➔ **P**、**S**、**A**、**M**タブ（□13）➔ AFエリア選択

動きのある被写体の撮影をするときに使います。ピントを合わせたい被写体を登録するとターゲット追尾が始まり、AFエリアが被写体を追いかけて移動します。

1 マルチセレクターで ⊕［ターゲット追尾］を選び、Ⓚボタンを押す

- 設定したらMENUボタンを押して、撮影画面に戻ります。

2 被写体を画面の中央の枠に合わせて、Ⓚ ボタンを押す

- 被写体が登録されます。
- 枠が赤色で表示されたときは、被写体にピントを合わせられません。構図を変えて、もう一度被写体を登録してください。
- 被写体が登録されると、黄色いAFエリア表示で囲まれ、ターゲット追尾が始まります。
- 登録を解除したいときは、Ⓚボタンを押します。
- カメラが被写体を見失って AF エリア表示が消えたときは、もう一度被写体を登録してください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを半押しして、AFエリアでピントが合うと、AFエリア表示が緑色になり、ピントが固定されます。
- AF エリアが表示されていない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央の被写体にピントが合います。

ターゲット追尾についてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- ズーム位置、フラッシュモード、フォーカスモードまたはメニューは、被写体を登録する前に設定してください。被写体を登録した後に設定を変更すると、被写体の登録が解除されます。
- 被写体の動きが速いときや手ブレが大きいとき、類似した被写体がある場合など、撮影条件によっては、被写体をターゲットに登録できないことや追尾できないこと、または別の被写体を追尾することがあります。被写体の大きさや明るさなどによっても、適切にターゲット追尾できないことがあります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□33）の撮影では、AFエリア表示が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、［**AFエリア選択**］を［**マニュアル**］、または［**中央**］に切り換え、等距離にある別の被写体でピントを合わせるフォーカスロック撮影（□86）をお試しください。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

AFモード（オートフォーカスモード）

モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**に合わせる ➔ MENUボタン ➔ **P**、**S**、**A**、**M**タブ（□13）➔ AFモード

ピントの合わせ方を設定します。

項目	内容
AF-S **シングルAF（初期設定）**	シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせます。
AF-F **常時AF**	シャッターボタンを半押しするまで、常にピント合わせを繰り返します。動きのある被写体の撮影に適しています。常にピントを合わせる動作音がします。

AFモードについてのご注意

他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

動画のAFモードについて

動画撮影時のAFモードは、動画メニューの［**AFモード**］（⊖68）で設定します。

調光補正

モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**に合わせる ➔ MENUボタン ➔ **P**、**S**、**A**、**M**タブ（□13）➔ 調光補正

フラッシュの発光量を補正できます。
フラッシュが明るすぎるときや暗すぎるときなどに使います。

項目	内容
+0.3～+2.0	0.3～2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が多くなります。構図の中心となる被写体をより明るく照らすように発光量を多くします。
0.0（**初期設定**）	調光補正を行いません。
－0.3～－2.0	－0.3～－2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が少なくなります。被写体に光が強く当たりすぎないよう発光量を少なくします。

［**0.0**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

ノイズ低減フィルター

モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**に合わせる ➔ MENUボタン ➔ **P**、**S**、**A**、**M**タブ（□13）➔ ノイズ低減フィルター

画像の記録時に通常行うノイズ低減機能の強さを設定します。

項目	内容
NR+ **強め**	ノイズ低減を標準よりも強めに行います。
NR **標準（初期設定）**	ノイズ低減を標準の強さで行います。
NR- **弱め**	ノイズ低減を標準よりも弱めに行います。

ノイズ低減フィルターの設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。

Active D-ライティング（アクティブD-ライティング）

モードダイヤルをP、S、A、Mに合わせる ➔ MENUボタン ➔ P、S、A、Mタブ（□13）
➔ Active D-ライティング

撮影の前にあらかじめ「アクティブ D-ライティング」を設定しておくと、ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。撮影した画像は、見た目のコントラストに近い仕上がりになります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するときに効果的です。

項目		内容
HI	**強め**	撮影時に処理するアクティブD-ライティングの効果の度合いを設定します。
NORM	**標準**	
LO	**弱め**	
OFF	**OFF（初期設定）**	アクティブD-ライティング処理をしません。

［**OFF**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（□8）。

アクティブ D-ライティングについてのご注意

- アクティブ D-ライティングで撮影すると、記録に時間がかかります。
- アクティブ D-ライティングを［**OFF**］にして撮影する場合よりも、露出をアンダー側に制御し、階調が適切な明るさになるように、ハイライト部やシャドー部および中間調を調整して記録します。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

［Active D-ライティング］と［D-ライティング］の違い

［**Active D-ライティング**］は、撮影前に階調が適切に調整できるようにアンダー側に露出を制御して撮影します。一方、再生メニューの［**D-ライティング**］（➡17）は、撮影した画像に対して階調を適切に再調整します。

User Setting 登録/User Settingリセット

User Setting 登録/User Settingリセットについては、「**U**モードに設定を登録する」（□64）をご覧ください。

ズームメモリー

モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**に合わせる ➔ MENUボタン ➔**P**、**S**、**A**、**M**タブ（□13）➔ ズームメモリー

項目	内容
ON	ズームレバーを操作すると、あらかじめ設定したズームレンズの焦点距離（35mm判換算の撮影画角）に段階的に切り換えできます。［**24 mm**］、［**28 mm**］、［**35 mm**］、［**50 mm**］、［**85 mm**］、［**105 mm**］、［**135 mm**］、［**200 mm**］、［**300 mm**］、［**400 mm**］、［**500 mm**］、［**600 mm**］、［**800 mm**］、［**1000 mm**］を設定できます。 • 焦点距離をマルチセレクターで選び、OKボタンを押してチェックボックスのオン［✔］/オフを設定します。 • 焦点距離の設定は、複数選べます。 • 初期設定は、すべてのチェックボックスがオン［✔］になっています。 • 設定を終了するには、マルチセレクターの▶を押します。 • ［**起動ポジション設定**］で設定された焦点距離は自動的にオン［✔］になります。
OFF（初期設定）	ズームレバーを操作しても、焦点距離ごとに切り換えできません。

ズーム操作についてのご注意

- 最初に切り換わる焦点距離は、操作する前と一番近い焦点距離です。他の焦点距離に切り換えるには、いったんズームレバーをはなしてから操作してください。
- 電子ズームを使うときは、［**ズームメモリー**］を［**OFF**］に設定してください。

起動ポジション設定

モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**に合わせる ➔ MENUボタン ➔**P**、**S**、**A**、**M**タブ（□13）➔ 起動ポジション設定

電源をONにしたとき、あらかじめ設定したズームレンズの焦点距離（35mm判換算の撮影画角）にズームポジションが移動します。
［**24 mm**］（初期設定）、［**28 mm**］、［**35 mm**］、［**50 mm**］、［**85 mm**］、［**105 mm**］または［**135 mm**］に設定できます。

再生メニュー

画像編集機能［**簡単レタッチ**］、［**D-ライティング**］、［**美肌**］、［**フィルター効果**］、［**スモールピクチャー**］、［**黒フレーム**］については、「画像の編集（静止画）」（➡15）をご覧ください。

🖨 プリント指定（プリントする画像や枚数の設定）

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENUボタン（📖13）➔ 🖨プリント指定

SDカードに記録した画像を以下の方法でプリントする場合、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめSDカードに設定できます。

- カードスロットが付いたDPOF対応（🔧18）のプリンターでプリントする。
- DPOF対応のプリントサービス店にプリントを依頼する。
- カメラを PictBridge 対応（🔧18）のプリンターに接続してプリントする（➡25）（カメラからSDカードを取り外すと、内蔵メモリーに記録した画像にもプリント指定できます）。

1 マルチセレクターで［**複数画像選択**］を選び、Ⓚボタンを押す

2 プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定する

- マルチセレクターを回すか、◀▶を押して画像を選び、▲▼を押してプリント枚数を設定します。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを **T**（🔍）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したらⓀボタンを押します。

3 日付と撮影情報を画像に入れてプリントするかどうかを設定する

- ［**日付**］を選んで㊍ボタンを押すと、すべての画像に撮影日を印字します。
- ［**撮影情報**］を選んで㊍ボタンを押すと、すべての画像に撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- ［**選択終了**］を選んで㊍ボタンを押し、設定を有効にします。

プリント指定を行った画像は、再生時の画面で🖶が表示されます。

✔ 日付と撮影情報を入れてプリントするときのご注意

プリント指定で設定した［**日付**］と［**撮影情報**］は、「日付」や「撮影情報」が印字可能なDPOF対応プリンター（☆18）で印字できます。

- 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続して「DPOFプリント」（⊶30）するときは、「撮影情報」は印字できません。
- プリント指定を行った後、再び［**プリント指定**］を表示すると、［**日付**］と［**撮影情報**］の設定はリセットされますのでご注意ください。
- プリントされる日付は、撮影時点でカメラに設定されている日時です。撮影後にセットアップメニューの［**地域と日時**］を変更してもプリントされる日付には反映されません。

プリント指定をすべて取り消すには

プリント指定の手順1（⊶55）で［**プリント指定取消**］を選んで㊍ボタンを押すと、すべての画像に対するプリント指定を取り消しできます。

［デート写し込み］について

セットアップメニューの［**デート写し込み**］（⊶79）を使うと、撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。デート写し込みした画像は、［**プリント指定**］で日付の印字を設定しても、デート写し込みした日付のみがプリントに表示されます。

関連ページ

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意→□79

スライドショー

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENUボタン（13）➔ スライドショー

内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

1 マルチセレクターで［**開始**］を選び、OK ボタンを押す

- 画像の表示時間を変更するには、［**開始**］を選ぶ前に［**インターバル設定**］を選んでOKボタンを押し、画像の表示時間を選びます。
- 繰り返し再生するには、［**開始**］を選ぶ前に［**エンドレス**］を選んでOKボタンを押し、チェックボックスをオン［✔］にします。

2 スライドショーが始まる

- 再生中にマルチセレクターの ▶ を押すと次の画像、◀を押すと前の画像を表示します（ボタンを押し続けると早送り/早戻しになります）。
- 途中で終了または一時停止したいときは、OKボタンを押します。

3 終了または再開する

- 最終コマの再生終了後や一時停止中は、右の画面になります。■を選び、OKボタンを押すと手順1に戻ります。▶を選ぶとスライドショーを再開します。

スライドショーについてのご注意

- 動画（100）は1フレーム目だけを表示します。
- 連写グループ（13）の表示方法が［**代表画像のみ**］の場合は、代表画像だけを表示します。
- かんたんパノラマで撮影した画像は、スライドショーでは1コマ表示になります。スクロール再生はできません。
- スライドショーを連続再生できる時間は、［**エンドレス**］に設定している場合も含め、最大約30分です（84）。

詳細編

プロテクト設定

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENUボタン（13）➔ プロテクト設定

大切な画像を誤って削除しないように、画像にプロテクト（保護）を設定できます。
画像選択の画面で、画像を選んでプロテクトの設定または解除をします。→「画像選択画面の操作方法」（59）
ただし、内蔵メモリー/SDカードを初期化（フォーマット、85）すると、プロテクト設定した画像も削除されますので、ご注意ください。
プロテクト設定した画像は、カメラでの再生時にマーク（10）が表示されます。

画像選択画面の操作方法

以下のメニューでは、画像選択画面が表示されます。
1画像のみ選べるメニュー項目と、複数の画像を選べるメニュー項目があります。

1画像だけ選べる機能	複数の画像を選べる機能
・**再生メニュー**： 画像回転（⚮60）、 連写の代表画像選択（⚮63） ・**セットアップメニュー**： オープニング画面の［**撮影した画像**］（⚮74）	・**再生メニュー**： プリント指定の［**複数画像選択**］（⚮55）、 プロテクト設定（⚮58）、 画像コピーの［**選択画像コピー**］（⚮62） ・画像削除の［**削除画像選択**］（📖36）

以下の手順で画像を選びます。

1 マルチセレクターを回すか、◀ ▶を押して、画像を選ぶ

- ズームレバーを **T**（🔍）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 1画像だけ選べる機能の場合→手順3へ

2 ▲▼を押してON/OFF（またはプリント枚数）を設定する

- ONにすると、選択画像に✓が表示されます。複数の画像に設定したいときは、手順1と2を繰り返します。

3 Ⓚボタンを押して画像選択を決定する

- ［**選択画像コピー**］などでは、確認画面になります。画面の表示に従って操作してください。

画像回転

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENUボタン（13）➔ 画像回転

撮影後に、カメラなどで表示するときの画像の向き（縦横位置）を設定します。静止画を時計方向に90度、または反時計方向に90度回転できます。
撮影時に縦位置で記録された画像は、時計回り/反時計回りのどちらか一方向に180度まで回転できます。
画像選択の画面で回転する画像を選ぶと（E59）、画像回転の画面が表示されます。マルチセレクターを回すか、◀または▶を押すと90度回転します。

反時計方向に90度回転

時計方向に90度回転

OKボタンを押すと、表示している方向で決定し、画像に縦横位置情報が記録されます。

詳細編

画像回転についてのご注意

- COOLPIX P510以外で撮影した画像は、回転できません。
- 3D 撮影で撮影した画像は、回転できません。
- 連写グループの画像を代表画像のみの表示にしているときは、画像回転はできません。1コマずつ展開して表示してから設定してください（E13、E63）。

音声メモ

▶ボタンを押す（再生モード）➔ 画像を選ぶ ➔ MENUボタン（□13）➔ 音声メモ

撮影した画像に、カメラのマイクを使って音声によるメモが付けられます。

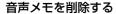
- 音声メモが付いていない画像では録音画面になり、音声メモが付いた画像（1コマ表示で♪が表示されている画像）では音声メモの再生画面になります。

音声メモを録音する

- OK ボタンを押している間、約 20 秒まで音声メモを録音できます。
- 録音中はカメラのマイクに触れないようご注意ください。
- 録音中は REC と ♪ が点滅します。
- 録音が終了すると、音声メモ再生画面になります。

音声メモを再生する

音声メモを録音した画像には、1コマ表示で♪が表示されます。

- 再生するには、OK ボタンを押します。もう一度押すと、再生が止まります。
- 再生中は、ズームレバー **T/W** で音量を調節できます。
- 再生前または再生終了後にマルチセレクターの◀を押すと、再生メニューに戻ります。MENU ボタンを押すと、再生メニューを終了します。

音声メモを削除する

音声メモの再生画面で🗑ボタンを押します。マルチセレクターの▲▼を押して［**はい**］を選び、OKボタンを押すと、音声メモだけを削除します。

✔ 音声メモについてのご注意

- 音声メモが付いた画像を削除すると、その画像に付けた音声メモも削除されます。
- すでに音声メモが録音されている画像には、音声メモを録音できません。録音内容を変更するときは、いったん音声メモだけを削除してから、もう一度音声メモを録音してください。
- COOLPIX P510以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。
- ［**プロテクト設定**］（⚭58）された画像の音声メモは削除できません。
- かんたんパノラマで撮影した画像は、音声メモを付けられません。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名 → ⚭98

画像コピー（内蔵メモリーとSDカード間のコピー）

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENUボタン（□13）➔ 画像コピー

内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。

1 マルチセレクターでコピーする方向を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**カメラ→カード**］：内蔵メモリーからSDカードへコピーします。
- ［**カード→カメラ**］：SDカードから内蔵メモリーへコピーします。

2 コピーの方法を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**選択画像コピー**］：画像選択の画面（E59）で、画像を選んでコピーします。代表画像のみで表示している連写グループ（E13）を選ぶと、表示中の連写グループの画像をすべてコピーします。
- ［**全画像コピー**］：すべての画像をコピーします。連写グループの画像を選んだときは、表示されません。
- ［**表示グループコピー**］：再生メニューを表示する前に、連写グループの画像を選んでいると、表示されます。再生中の連写グループの画像をすべてコピーします。

画像コピーについてのご注意

- コピーできるファイルの形式は、JPEG、MOV、WAV、MPO です。これ以外の形式のファイルはコピーできません。
- 画像に付けた［**音声メモ**］（E61）や、［**プロテクト設定**］（E58）の設定も、画像と同時にコピーします。
- 他社製のカメラで撮影した画像やパソコンで加工した画像のコピーは動作を保証していません。
- ［**プリント指定**］（E55）の設定内容は、コピーされません。
- ［**連写グループ表示方法**］（E63）を［**代表画像のみ**］に設定し、連写グループの画像を選んでⓀボタンを押して、1コマずつ展開して表示しているとき（E13）は、［**カード→カメラ**］方向のみ画像コピーできます。

［撮影画像がありません］のメッセージについて

SDカードに画像が記録されていないときに再生モードに切り換えると、［**撮影画像がありません**］と表示されます。MENUボタンを押して再生メニューの［**画像コピー**］を選ぶと、内蔵メモリー内の画像をSDカードにコピーできます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名 → E98

連写グループ表示方法

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU ボタン（□13）➔ 連写グループ表示方法

連写した一連の画像（連写グループ、E13）を再生モードの1コマ表示（□34）またはサムネイル表示（□35）で表示する方法を設定します。
設定内容は、すべての連写グループに反映され、電源をOFFにしても記憶されます。

項目	内容
1枚ずつ	連写した画像を、1コマずつに展開して表示します。
代表画像のみ（初期設定）	1コマずつに展開した連写グループを、代表画像のみの表示に戻します。

連写の代表画像選択

▶ボタンを押す（再生モード）➔ 設定したい連写グループを選ぶ ➔ MENU ボタン（□13）➔ 連写の代表画像選択

［**連写グループ表示方法**］を［**代表画像のみ**］にしたときに、再生モードの1コマ表示（□34）やサムネイル表示（□35）で表示する代表画像を、連写グループごとに変更します。

- 設定するときはMENUボタンを押す前に、1コマ表示またはサムネイル表示で、設定したい連写グループを選びます。
- 代表画像の選択画面が表示されたら、画像を選びます。→「画像選択画面の操作方法」（E59）

動画設定

撮影画面にする ➔ MENU ボタン ➔ 動画アイコン（動画）タブ（□13） ➔ 動画設定

撮影する動画の種類を選びます。
動画には、通常速度の動画と、スローモーション再生や早送り再生ができるHS（ハイスピード）動画（⊶66）があります。
画像サイズが大きく、ビットレートが大きいほど高画質になりますが、ファイルサイズは大きくなります。

通常速度の動画

項目	内容
HD 1080p★ (1920×1080) **（初期設定）**	縦横比16:9の動画を記録します。 ・ ビットレート：約 18.8 Mbps ・ 撮影フレーム数：約 30 フレーム / 秒
HD 1080p (1920×1080)	縦横比16:9の動画を記録します。 ・ ビットレート：約 12.6 Mbps ・ 撮影フレーム数：約 30 フレーム / 秒
HD 720p (1280×720)	縦横比16:9の動画を記録します。 ・ ビットレート：約 8.4 Mbps ・ 撮影フレーム数：約 30 フレーム / 秒
iFrame 540 (960×540)	縦横比16:9 の動画を記録します。 Apple Inc.がサポートするフォーマットのひとつです。 ・ ビットレート：約 20.8 Mbps ・ 撮影フレーム数：約 30 フレーム / 秒 内蔵メモリーで撮影するときは、絵柄によっては撮影が途中で終了することがあります。大切な撮影ではSDカード（Class 6以上）の使用をおすすめします。
VGA (640×480)	縦横比4:3の動画を記録します。 ・ ビットレート：約 2.9 Mbps ・ 撮影フレーム数：約 30 フレーム / 秒

詳細編

関連ページ

動画の記録可能時間 → □98

HS動画

スローモーション動画または早送り動画を撮影する（HS動画）→66

項目	内容
HS 120 fps (640×480)	縦横比4:3で1/4の速度のスローモーション動画を撮影します。 • 最長撮影時間：7 分 15 秒（再生時間：29 分） • ビットレート：約 2.8 Mbps • 撮影フレーム数：約 120 フレーム / 秒
HS 60 fps (1280×720)	縦横比16:9 で1/2 の速度のスローモーション動画を撮影します。 • 最長撮影時間：14 分 30 秒※（再生時間：29 分） • ビットレート：約 8.3 Mbps • 撮影フレーム数：約 60 フレーム / 秒
HS 15 fps (1920×1080)	縦横比16:9で2倍の速度の早送り動画を撮影します。 • 最長撮影時間：29 分（再生時間：14 分 30 秒） • ビットレート：約 18.6 Mbps • 撮影フレーム数：約 15 フレーム / 秒

※ 内蔵メモリーを使って記録する場合は、1回の撮影で記録可能な時間は30秒です。

• ビットレートとは、1 秒間あたりの動画のデータ量です。撮影する被写体により、ビットレートが自動的に変わる「VBR 記録方式」を採用しています。動きの多い被写体を記録した場合は、ファイルサイズが大きくなります。

HS動画撮影とスペシャルエフェクトモードの効果設定についてのご注意

［**動画設定**］の［**HS 120 fps (640×480)**］は、撮影モードがスペシャルエフェクトモードの［**ソフト**］、［**ノスタルジックセピア**］または［**絵画調**］のときは選べません。スペシャルエフェクトモードの設定を［**ソフト**］、［**ノスタルジックセピア**］または［**絵画調**］にしたまま、他の撮影モードで［**HS 120 fps (640×480)**］に設定しても、モードダイヤルをEFFECTSにすると、［**HS 60 fps (1280×720)**］に変更されます。

詳細編

スローモーション動画または早送り動画を撮影する（HS動画）

撮影画面にする ➔ MENU ボタン ➔ 🎞（動画）タブ（📖13）➔ 動画設定

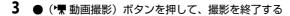
HS（ハイスピード）動画を撮影できます。HS動画で撮影した動画は、通常再生の1/4または1/2の速度のスローモーションや2倍の早送りで再生されます。

1 マルチセレクターでHS動画（🔗65）を選び、Ⓚボタンを押す

- 設定したらMENUボタンを押して、撮影画面に戻ります。

2 ●（🎞 動画撮影）ボタンを押して、撮影を開始する

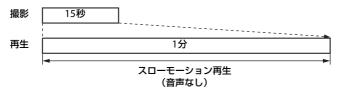
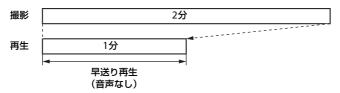
- 液晶モニターが一度消灯した後、HS動画の撮影が始まります。
- 画面中央でピントが合います。動画の撮影中は、AFエリアは表示されません。
- 720/60 [**HS 60 fps (1280×720)**] または 1080/15 [**HS 15 fps (1920×1080)**] で撮影する場合、撮影画面の縦横比が16:9に切り換わります。
- 記録可能時間の表示は、HS動画の最長撮影時間になります。

3 ●（🎞 動画撮影）ボタンを押して、撮影を終了する

HS動画についてのご注意

- 音声は記録されません。
- ズーム位置、ピント、露出、ホワイトバランスは、●（動画撮影）ボタンで撮影を開始したときに固定されます。

HS動画について

撮影した動画は、約30フレーム/秒で再生されます。
動画メニュー［**動画設定**］（64）を［**HS 120 fps (640×480)**］または［**HS 60 fps (1280×720)**］に設定すると、スローモーション再生が可能な動画を撮影できます。［**HS 15 fps (1920×1080)**］に設定すると、2倍の早送り再生が可能な動画を撮影できます。

［HS 120 fps (640×480)］の速度で撮影した部分：
撮影時に最長7分15秒間をハイスピードで記録し、4倍の時間をかけてスローモーションで再生されます。

［HS 15 fps (1920×1080)］の速度で撮影した部分：
撮影時に最長29分間を早送り再生用に記録します。再生すると2倍の速さの早送りになります。

AFモード

撮影画面にする ➔ MENUボタン ➔ 🎥（動画）タブ（📖13）➔ AFモード

通常速度の動画（➡64）を撮影するときのピントの合わせ方を選びます。

項目	内容
AF-S シングルAF（初期設定）	●（🎥 動画撮影）ボタンで撮影を開始したときのピントに固定します。撮影中に被写体との距離があまり変化しない撮影に適しています。
AF-F 常時AF	動画撮影中、ピント合わせを繰り返します。 撮影中に被写体との距離が変化する撮影に適しています。ピントを合わせる動作音が録音されることがあります。動作音が気になるときは、[**シングルAF**]での撮影をおすすめします。

詳細編

GPS設定メニュー

GPS設定

MENUボタンを押す ➔ 🛰（GPS設定）タブ（📖13）➔ GPS設定

項目	内容
位置情報記録機能	［**ON**］にすると、GPS衛星から電波を受信し、測位が始まります（📖102）。 ・初期設定は［**OFF**］です。
日時合わせ	GPS衛星からの電波を使って、カメラの内蔵時計の日時を設定します（GPS設定メニュー［**GPS設定**］の［**位置情報記録機能**］が［**ON**］のときのみ）。測位状態を確認してから、日時合わせをしてください。
A-GPSファイル更新	SDカードを使ってA-GPS（アシストGPS）ファイルを更新します。最新のA-GPSファイルを使うと、位置情報を測位するまでの時間を短くできます。 ・A-GPS ファイルの更新方法 → 🔗70

✔ 日時合わせについてのご注意

- ［**日時合わせ**］は、セットアップメニューの［**地域と日時**］（📖26、🔗75）で設定したタイムゾーンに合わせて日時を設定します。［**日時合わせ**］をする前にタイムゾーンの設定をご確認ください。
- ［**日時合わせ**］で設定した日時は、電波時計ほどには正確ではありません。［**日時合わせ**］で時刻が合わないときは、セットアップメニューの［**地域と日時**］で設定してください。

A-GPSファイルの更新方法

下記のホームページから最新のA-GPSファイルをダウンロードして、更新してください。
http://nikonimglib.com/agps2/index.html

- COOLPIX P510用のA-GPSファイルは、上記ホームページ以外では、入手できません。
- A-GPS ファイルを更新するときは、［**位置情報記録機能**］を［**OFF**］にしてください。［**ON**］に設定されていると、更新できません。

1 ホームページから最新のA-GPSファイルをパソコンにダウンロードする

2 ダウンロードしたファイルをカードリーダーなどを使って、SD カードの「NCFL」フォルダーにコピーする

- 「NCFL」フォルダーはSDカードの直下にあります。SDカード内に「NCFL」フォルダーがない場合は、フォルダーを新規作成してください。

3 ファイルをコピーしたSDカードをカメラに入れる

4 カメラの電源を入れる

5 MENUボタンを押してGPS設定メニューを表示し、マルチセレクターで［**GPS設定**］を選ぶ

6 ［**A-GPSファイル更新**］を選び、ファイルを更新する

- ファイルの更新終了まで、約2分かかります。

詳細編

A-GPSファイル更新についてのご注意

- A-GPSファイルは、ご購入後はじめての測位では無効です。2回目の測位から有効になります。
- A-GPS ファイルの有効期限は、更新画面で確認できます。有効期限が切れている場合は、有効期限がグレーで表示されます。
- A-GPSファイルの有効期限が切れている場合は、位置情報の測位は早くなりません。A-GPSファイルはGPSを使う前に更新することをおすすめします。

ログ取得（移動情報のログを記録する）

MENUボタンを押す ➔ (GPS設定) タブ (13) ➔ ログ取得

ログ取得を開始すると、設定した時間が経過するまで、[**ログ取得間隔**] で設定した間隔で測位した位置情報を記録します。
- ログデータは、取得しただけでは使えません。[**ログ取得終了**] を選んで、SDカードに保存します。

1 マルチセレクターで [**ログ取得開始**] を選び、ⓚボタンを押す

- [**ログ取得開始**] を選ぶ前に [**ログ取得間隔**] を選んでⓚボタンを押すと、ログ取得の間隔を選べます。初期設定は [**15秒**] です。

2 ログ取得する時間を選び、ⓚボタンを押す

- ログの取得が始まります。
- ログデータは、設定した時間が過ぎるまで [**ログ取得間隔**] で設定した時間毎に記録されます。
- ログ取得中は、画面にLOGが表示されます。

3 ログの取得が終わったら、マルチセレクターでGPS設定メニュー [**ログ取得**] → [**ログ取得終了**] を選び、ⓚボタンを押す

4　［**ログ保存**］を選び、ⓚボタンを押す

- SDカードにログデータを保存します。

ログ取得についてのご注意

- 日時が設定されていない場合は、ログ取得はできません。
- ログ取得時間内に電源が切れないよう、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。バッテリー残量がなくなると、ログ取得が終了します。
- ログ取得時間内でも、以下の操作をすると、ログ取得が終了します。
  - USBケーブルを接続する
  - バッテリー /SDカードカバーを開閉する
  - ［**GPS設定**］→［**位置情報記録機能**］を［**OFF**］にする（［**設定クリアー**］を含む）
  - 内蔵時計の設定（地域や日時）を変更する
- カメラの電源をOFFにしていても、ログ取得時間が残っている場合は、設定した時間が過ぎるまでログ取得します。
- ログデータは一時的にカメラに記録されます。カメラにログデータが残っていると、新しくログ取得ができません。ログ取得後は、SDカードにログデータを保存してください。
- 記録できるログデータの数は、1日に36件までです。
- 1枚のSDカードに保存できるログデータは、最大で100件までです。

ログデータを消去するには

- カメラに一時的に記録されたログデータを消去するには、手順4で［**ログ消去**］を選びます。
- SDカードに保存されたログデータを削除するには、［**ログデータ表示**］（➡73）で🗑ボタンを押します。

詳細編

ログデータ表示

MENUボタンを押す ➔ (GPS設定)タブ(13) ➔ ログデータ表示

[**ログ取得**](71)でSDカードに保存したログデータを確認または削除します。

1 マルチセレクターで表示したいログデータを選び、OKボタンを押す

2 移動した軌跡を確認する

- ボタンを押すと、表示しているログデータを消去できます。

ログデータを削除するには

手順1でボタンを押し、以下のどちらかを選びます。

- [**選択したログデータ**]:選んでいるログデータを削除します。
- [**すべてのログデータ**]:SD カードに記録されているログデータをすべて削除します。

ログ取得中に撮影した画像について

画像の1コマ表示中にFnボタンを押すと、移動した軌跡と画像を撮影した地点の緯度/経度を確認できます。もう一度Fnボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

- 画像とログデータが同じSDカードに保存されていない場合は、軌跡を表示できません。

ログデータについて

NMEAフォーマットに準拠しています。ただし、すべてのソフトウェアやカメラでの表示を保証するものではありません。

セットアップメニュー

オープニング画面

MENUボタンを押す ➔ Ƴタブ（□13）➔ オープニング画面

カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。

項目	内容
なし（初期設定）	オープニング画面を表示しないで、撮影または再生画面を表示します。
COOLPIX	オープニング画面を表示してから、撮影または再生画面を表示します。
撮影した画像	撮影した画像をオープニング画面として表示します。画像選択の画面が表示されたら画像を選び（➡59）、Ⓚボタンを押して登録します。 • 登録した画像はカメラに記憶されるため、元画像を削除しても、オープニング画面に残ります。 • 以下の画像は、登録できません。 - [**画像サイズ**]（□78）を 16:9 12M [**4608 × 2592**]、16:9 2M [**1920 × 1080**]、3:2 [**4608 × 3072**] または 1:1 [**3456 × 3456**] にして撮影した画像 - スモールピクチャー（➡20）やトリミング（➡22）で作成した画像サイズ 320 × 240 以下の画像 - かんたんパノラマで撮影した画像 - 3D 撮影で撮影した画像

詳細編

地域と日時

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（📖13）➔ 地域と日時

項目	内容
日時の設定	内蔵時計の日付と時刻を設定します。 表示される設定画面で、マルチセレクターを使って設定します。 ・項目を選ぶ：▶ または ◀ を押します（[**年**]、[**月**]、[**日**]、[**時**]、[**分**]に切り換わります）。 マルチセレクターを回しても変更できます。 ・項目の内容を合わせる：▲ または ▼ を押します。コマンドダイヤルを回しても変更できます。 ・設定を完了する：[**分**] を選び、Ⓚ ボタンまたは ▶ を押します。 日時の設定 年 月 日 2012 05 15 15 : 10 変更
日付の表示順	日付の表示順を、[**年/月/日**]、[**月/日/年**]、[**日/月/年**] から選べます。
タイムゾーン	自宅（🏠）のタイムゾーン（地域）や夏時間（サマータイム）を設定します。 また、訪問先（✈）のタイムゾーンを登録すると、自宅（🏠）との時差（🔗77）を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。海外旅行などに便利です。

時差のある地域で使うには

1 マルチセレクターで［**タイムゾーン**］を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**タイムゾーン**］画面が表示されます。

2 ✈［**訪問先**］を選び、Ⓚボタンを押す

- 訪問先の時計に切り換わります。

3 ▶を押す

- 地域の設定画面が表示されます。

4 ◀または▶を押して訪問先の地域（タイムゾーン）を選ぶ

- 自宅と訪問先の時差が表示されます。
- 夏時間（サマータイム）が現在実施されている地域で使うときは、▲を押して夏時間の設定をオンにします。設定をオンにすると、画面上部に☼マークが表示され、時計が1時間進みます。オフにするときは、▼を押します。
- Ⓚボタンを押して、訪問先を決定します。
- 訪問先の時計に設定しているときは、撮影時の画面に✈マークが表示されます。

⌂（自宅）の設定について

- 自宅のタイムゾーンに戻すには、手順2で⌂［**自宅**］を選び、Ⓚボタンを押してください。
- 自宅のタイムゾーンを変更するには、手順2で⌂［**自宅**］を選び、✈［**訪問先**］と同様の手順でタイムゾーンを変更してください。

タイムゾーンについて

時差とタイムゾーンの関係は以下の表をご覧ください。
この表にない時差は、正しい時刻を［**地域と日時**］で合わせてください。

時差 +/–	タイムゾーン	時差 +/–	タイムゾーン
–20	Midway, Samoa（ミッドウェー、サモア）	–8	Madrid, Paris, Berlin（マドリード、パリ、ベルリン）
–19	Hawaii, Tahiti（ハワイ、タヒチ）	–7	Athens, Helsinki, Ankara（アテネ、ヘルシンキ、アンカラ）
–18	Alaska, Anchorage（アラスカ、アンカレッジ）	–6	Moscow, Nairobi, Riyadh, Kuwait, Manama（モスクワ、ナイロビ、リヤド、クウェート、マナマ）
–17	PST (PDT): Los Angeles, Seattle, Vancouver（ロサンゼルス、シアトル、バンクーバー）	–5	Abu Dhabi, Dubai（アブダビ、ドバイ）
–16	MST (MDT): Denver, Phoenix（デンバー、フェニックス）	–4	Islamabad, Karachi（イスラマバード、カラチ）
–15	CST (CDT): Chicago, Houston, Mexico City（シカゴ、ヒューストン、メキシコシティー）	–3.5	New Delhi（ニューデリー）
–14	EST (EDT): New York, Toronto, Lima（ニューヨーク、トロント、リマ）	–3	Colombo, Dhaka（コロンボ、ダッカ）
–13.5	Caracas（カラカス）	–2	Bangkok, Jakarta（バンコク、ジャカルタ）
–13	Manaus（マナウス）	–1	Beijing, Hong Kong, Singapore（北京、香港、シンガポール）
–12	Buenos Aires, Sao Paulo（ブエノスアイレス、サンパウロ）	±0	Tokyo, Seoul（東京、ソウル）
–11	Fernando de Noronha（フェルナンド・デ・ノローニャ）	+1	Sydney, Guam（シドニー、グアム）
–10	Azores（アゾレス）	+2	New Caledonia（ニューカレドニア）
–9	London, Casablanca（ロンドン、カサブランカ）	+3	Auckland, Fiji（オークランド、フィジー）

モニター設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（□13）➔ モニター設定

項目	内容
撮影後の画像表示	［**ON**］（初期設定）：撮影直後に、撮影した画像を表示してから撮影画面に戻ります。 ［**OFF**］：撮影直後に、撮影した画像を表示しません。
画面の明るさ	画面の明るさを5段階で調節できます。初期設定は［**3**］です。
格子線表示	［**ON**］：構図を決めるための格子状のガイドを表示します。 ［**OFF**］（初期設定）：格子線を表示しません。
ヒストグラム表示	［**ON**］：露出補正の設定時以外でも撮影時にヒストグラムを表示します（□9、74）。 ［**OFF**］（初期設定）：ヒストグラムを表示しません。

格子線表示についてのご注意

下記のときは格子線が表示されません。

- ターゲット追尾中（被写体登録後）
- 動画撮影中
- MF（マニュアルフォーカス）の中央拡大表示中

ヒストグラム表示についてのご注意

下記のときはヒストグラムが表示されません。

- 動画撮影中
- MF（マニュアルフォーカス）の中央拡大表示中
- フラッシュモード、セルフタイマー、フォーカスモードの設定メニュー表示中
- 顔認識の枠（□85）が表示されたとき
- ［**AFエリア選択**］のターゲット追尾中

デート写し込み（日付を画像に入れる）

MENUボタンを押す ➔ タブ（13）➔ デート写し込み

撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字（56）に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。

項目	内容
DATE 年・月・日	画像に日付を写し込みます。
年・月・日・時刻	画像に日付と時刻を写し込みます。
OFF OFF（初期設定）	日付、時刻のどちらも写し込みません。

［**OFF**］以外のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（8）。

デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込むことはできません。
- 以下の場合は日時を写し込めません。
  - シーンモードが［**かんたんパノラマ**］、［**パノラマアシスト**］または［**3D 撮影**］のとき
  - ［**連写**］（41）の設定が［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］または［**高速連写 60 fps**］のとき
  - 動画撮影のとき
- ［**画像サイズ**］（78）が VGA［**640×480**］の画像にデート写し込みを行うと、写し込んだ日付が読みづらいことがあります。画像サイズは 2M［**1600×1200**］以上に設定してください。
- 年月日の並びは、［**地域と日時**］（26、75）での設定と同じになります。

「デート写し込み」と「プリント指定」について

日付や撮影情報の印刷が可能なDPOF対応のプリンターでプリントするときは、［**デート写し込み**］で日時を写し込んでいない画像でも、［**プリント指定**］（55）で撮影日時や撮影情報をプリントするように設定できます。

手ブレ補正

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（📖13）➔ 手ブレ補正

項目	内容
ON（初期設定）	望遠側での撮影やスローシャッターでの撮影時に起こりがちな手ブレを補正します。静止画撮影だけでなく、動画撮影時の手ブレも補正します。また、流し撮りでは、カメラが流し撮りの方向を自動的に検出し、手ブレによる揺れのみを補正します。 たとえば、横方向に流し撮りするときには縦方向の手ブレだけが、縦方向に流し撮りするときには横方向の手ブレだけが補正されます。
OFF OFF	手ブレ補正をしません。

- 三脚などでカメラを固定して撮影するときは、手ブレ補正を［**OFF**］にしてください。

［**ON**］のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（📖8）。

☑ 手ブレ補正についてのご注意

- カメラの電源をONにした直後、または再生モードから撮影モードに切り換えた直後は、液晶モニターの画像が安定してから撮影してください。
- 手ブレ補正の原理上、撮影直後に液晶モニターの画像がずれて見えることがあります。
- 手ブレ補正機能を設定しても、撮影状況によっては手ブレを完全に補正できないことがあります。
- シーンモードの［**夜景**］、［**夜景ポートレート**］が［**三脚撮影**］のときは、手ブレ補正は［**OFF**］になります。

モーション検知

MENUボタンを押す ➔ タブ（13）➔ モーション検知

静止画を撮影するときに被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。

項目	内容
AUTO **（初期設定）**	カメラが被写体の動きや手ブレを検知すると、ブレを軽減するためにISO感度を上げてシャッタースピードを速くします。 ただし、以下の場合はモーション検知は作動しません。 • フラッシュ発光時 • 以下のシーンモードのとき - （夜景） - （風景） - （逆光） - ［**スポーツ**］ - ［**夜景ポートレート**］ - ［**クローズアップ**］の［**連写 NR 撮影**］ - ［**打ち上げ花火**］ - ［**パノラマ**］の［**かんたんパノラマ**］ - ［**ペット**］ • EFFECTS（スペシャルエフェクト）が［**高感度モノクロ**］のとき • 撮影モードが **P**、**S**、**A**、**M**、**U** のとき
OFF OFF	モーション検知をしません。

［**AUTO**］のときは、撮影時の画面にアイコンが表示されます（8）。
カメラがブレを検知してシャッタースピードを速くしたときは、モーション検知表示は緑色に変わります。

詳細編

モーション検知についてのご注意

- モーション検知を設定しても、撮影状況によっては手ブレや被写体ブレを完全に軽減できないことがあります。
- 極端にブレているときや暗すぎるときは、モーション検知が作動しないことがあります。
- 撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

AF補助光

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ AF補助光

暗い場所などでオートフォーカスによるピント合わせを補助するAF補助光の点灯/非点灯を設定します。

項目	内容
AUTO （初期設定）	暗い場所などで自動的にAF補助光が点灯します。AF補助光が届く距離は、広角側で約4.0 m、望遠側で約2.1 mです。 ・［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置や、［**ミュージアム**］（□50）、［**ペット**］（□52）などのシーンモードによっては点灯しません。
OFF	AF補助光は点灯しません。暗い場所などでピントが合いにくくなることがあります。

電子ズーム

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ 電子ズーム

電子ズームの動作を設定します。

項目	内容
ON （初期設定）	光学ズームが最も望遠側にある状態でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、電子ズーム（□31）が作動します。
OFF	電子ズームは作動しません。

詳細編

電子ズームについてのご注意

- 電子ズーム使用時は、画面中央でピント合わせを行います。
- シーンモードが［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］、［**パノラマ**］の［**かんたんパノラマ**］、［**ペット**］または［**3D撮影**］のときは、電子ズームは使えません。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）
- 電子ズーム作動中は、［**測光方式**］は［**中央部重点**］または［**スポット**］になります。

サイドズームレバー設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（📖13）➔ サイドズームレバー設定

撮影時にサイドズームレバーを操作したときの動作を設定します。

項目	内容
ズームレバー（初期設定）	撮影時にサイドズームレバーで、ズーム操作ができます（📖31）。
MFレバー	フォーカスモードがMF（マニュアルフォーカス）のときに、サイドズームレバーでピント合わせができます（➡2）。 ・**T**方向に操作すると、遠くの被写体にピントが合います。 ・**W** 方向に操作すると、近くの被写体にピントが合います。
クイックバックズーム	被写体を見失いやすい望遠側のズームで撮影するときに使います。サイドズームレバーを**W**方向に操作すると、現在のズーム位置から一定のステップ分だけ**W**側にズーム位置を移動します。もう一度**W**方向に操作すると、さらに**W**側にズーム位置を移動します。**T**方向に操作すると、サイドズームレバーを操作する前のズーム位置に戻ります。 ・電子ズーム使用時に **W** 方向に操作すると、光学ズームの望遠端へ移動します。 ・サイドズームレバー以外の操作をすると、操作する前のズーム位置には戻りません。 ・動画撮影中は［**クイックバックズーム**］は動作しません。

詳細編

操作音

MENUボタンを押す ➔ タブ（13）➔ 操作音

操作音について設定します。

項目	内容
設定音	以下の音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］をまとめて設定します。 • 設定音（電子音 1 回：設定完了時など） • 合焦音（電子音 2 回：ピントが合ったとき） • 警告音（電子音 3 回：禁止動作を行ったときなど） • オープニング音
シャッター音	シャッターをきったときのシャッター音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

操作音についてのご注意

- シーンモードの［**ペット**］では、［**ON**］に設定しても、設定音およびシャッター音は鳴りません。
- 動画撮影のときは、［**ON**］に設定しても、シャッター音は鳴りません。
- 他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（80）

オートパワーオフ

MENUボタンを押す ➔ タブ（13）➔ オートパワーオフ

電源をONにしたまま、カメラを操作しない状態が続くと、節電のために液晶モニターが消灯して待機状態になります（25）。
このメニューでは、待機状態になるまでの時間を設定します。
［**30 秒**］、［**1 分**］（初期設定）、［**5 分**］、［**30 分**］から選べます。

オートパワーオフの設定について

- 以下の場合、待機状態に入るまでの時間は固定です。
  - メニュー表示中：3分（オートパワーオフを［**30 秒**］または［**1 分**］に設定した場合）
  - スライドショー再生中：最大30分
  - ACアダプター EH-62A接続中：30分
- Eye-Fiカードを使用した画像の転送中は、待機状態になりません。

メモリー /カードの初期化（フォーマット）

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ メモリーの初期化/カードの初期化

内蔵メモリーまたはSDカードを初期化（フォーマット）します。
初期化すると、内蔵メモリーまたはSDカード内のデータはすべて削除されます。削除したデータは元に戻せません。必要なデータは初期化する前にパソコンなどに転送してください。

内蔵メモリーの初期化

内蔵メモリーを初期化するときは、SDカードを取り出してください。セットアップメニューの項目に［**メモリーの初期化**］が表示されます。

SDカードの初期化

SDカードをカメラに入れると、SDカードを初期化できます。セットアップメニューの項目に［**カードの初期化**］が表示されます。

初期化についてのご注意

- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラではじめて使うときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

言語/Language

MENUボタンを押す ➔ ¥タブ（□13）➔ 言語/Language

画面に表示する言語を、日本語（初期設定）または英語に設定します。

TV出力設定

MENUボタンを押す ➔ Yタブ（□13）➔ TV出力設定

テレビとの接続に必要な設定を行います。

項目	内容
ビデオ出力	アナログビデオ出力の方式を［**NTSC**］と［**PAL**］から選べます。お使いのテレビに合わせて設定してください。 日本ではNTSC方式が、欧州ではPAL方式が主流です。
HDMI	HDMI出力時の画像の解像度を［**オート**］（初期設定）、［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から選べます。［**オート**］にすると、接続するテレビに対応した解像度を［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から自動で選んで出力します。
HDMI **機器制御**	HDMI-CEC規格対応テレビにHDMIケーブルで接続したときに、テレビからの信号を受信するかどうかを設定します。［**ON**］（初期設定）にすると、テレビのリモコンを使って再生中の操作ができます。 →「テレビのリモコンを使う（HDMI 機器制御）」（E24）
HDMI 3D**出力**	撮影した3D画像のHDMI機器への出力方法を設定します。 3D（立体）で再生するには、［**ON**］（初期設定）にします。

詳細編

HDMI、HDMI-CECとは

「HDMI」とは、High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。
「HDMI-CEC」とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

Fnボタン設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（□13）➔ Fnボタン設定

撮影時によく使う撮影メニューを、Fn（ファンクション）ボタン（□2）に割り当てできます。

・ 撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**、**U**のときに使えます。

項目	内容
画像サイズ（□78）	画像サイズの設定を表示します。
Picture Control（⚭33）	Picture Controlの設定を表示します。
ホワイトバランス（⚭38）	ホワイトバランスの設定を表示します。
測光方式（⚭40）	測光方式の設定を表示します。
連写（初期設定）（⚭41）	連写の設定を表示します。
ISO感度設定（⚭45）	ISO感度の設定を表示します。
AFエリア選択（⚭47）	AFエリア選択の設定を表示します。

パソコン接続充電

MENUボタンを押す ➔ Yタブ（□13）➔ パソコン接続充電

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき（□90）に、カメラ内のバッテリーを充電するかどうかを設定します。

項目	内容
AUTO （初期設定）	カメラを起動済みのパソコンに接続したときに、パソコンからの電力供給状態に応じて、カメラ内のバッテリーを充電します。
OFF	カメラをパソコンに接続しても、カメラ内のバッテリーを充電しません。

✔ カメラとプリンターを接続してプリントするときのご注意

- カメラをPictBridge対応プリンターに接続しても、バッテリーの充電はできません。
- プリンターによっては、［**パソコン接続充電**］を［**AUTO**］にするとプリントできない場合があります。プリンターに接続して電源がONになってもカメラにPictBridge画面が表示されないときは、カメラの電源をいったんOFFにしてUSBケーブルを外し、［**パソコン接続充電**］を［**OFF**］に設定してから、接続をやり直してください。

✔ パソコンに接続して充電するときのご注意

- パソコンに接続しても、ご購入後にカメラの表示言語と日時（□26）を設定していないときは、充電やデータの転送はできません。また、時計用電池（□27）が切れて日時がリセットされたまま再設定していないときも、充電やデータの転送はできません。本体充電ACアダプター EH-69Pでバッテリーを充電し（□20）、カメラの日時を設定してください。
- カメラの電源をOFFにすると、バッテリーの充電も中止されます。
- 充電中にパソコンが休止状態（スリープ状態）になると、充電が中止され、カメラの電源がOFFになることがあります。
- カメラとパソコンの接続を外すときは、カメラの電源をOFFにしてから、USBケーブルを外してください。
- 本体充電ACアダプター EH-69P使用時に比べて、充電に時間がかかることがあります。また、画像を転送しながら充電すると、充電に時間がかかります。
- 充電だけをしたいときに、カメラをパソコンに接続して、パソコンでNikon Transfer 2などが起動した場合は、これらの画面を閉じてください。
- 充電が完了し、パソコンとの通信が無い状態が30分続くと、カメラの電源は自動的にOFFになります。
- パソコンの仕様、設定または状態によっては、カメラ内のバッテリーを充電できないことがあります。

充電ランプについて

パソコンに接続しているときのカメラの充電ランプの状態と意味は以下のとおりです。

充電ランプ	意味
ゆっくり点滅（緑色）	充電中です。
消灯	充電していません。 電源ランプが点灯したまま、ゆっくりした点滅（緑色）から消灯に変わると、充電の完了です。
速い点滅（緑色）	• 使用可能な温度ではありません。周囲の温度が 5 ℃ ～ 35 ℃の室内で充電してください。 • USB ケーブルが正しく接続されていないか、バッテリーの異常です。正しく接続し直すか、バッテリーを交換してください。 • パソコンが休止状態（スリープ状態）で電力を供給していません。パソコンを復帰してください。 • パソコンの仕様または設定がカメラへの電力供給に対応していないため充電できません。

Av/Tv操作切り換え

MENUボタンを押す ➔ Yタブ（□13）➔ Av/Tv操作切り換え

プログラムシフト、シャッタースピードまたは絞り値の設定方法を切り換えます。

- 撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**、**U**のときに使えます。

項目	内容
切り換えない（初期設定）	コマンドダイヤルでプログラムシフトまたはシャッタースピードを、マルチセレクターで絞り値を調節します。
操作を切り換える	マルチセレクターでプログラムシフトまたはシャッタースピードを、コマンドダイヤルで絞り値を調節します。

連番リセット

MENUボタンを押す ➔ Yタブ（□13）➔ 連番リセット

［**はい**］を選ぶと、ファイル番号の連番（E98）をリセットします。リセットすると新しい記録フォルダーが作られ、次に撮影する画像の連番は、「0001」から始まります。

連番リセットのご注意

フォルダー番号が999に達し、そのフォルダー内にファイルがあるときは、[**連番リセット**]ができません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（E85）する必要があります。

目つぶり検出設定

MENUボタンを押す ➔ Yタブ（□13）➔ 目つぶり検出設定

以下の撮影モードで顔認識撮影（□85）したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。

- 以下のシーンモードのとき
  - [**おまかせシーン**]（□45）
  - [**ポートレート**]（□46）
  - [**夜景ポートレート**]（[**三脚撮影**] 時）（□47）
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**、**U**（[**AFエリア選択**] が [**顔認識オート**]（⊶47）のとき）

項目	内容
ON	顔認識して撮影した直後に、被写体の人物が目を閉じて写っている可能性があるとカメラが検出したときは、液晶モニターに [**目つぶり確認**] 画面を表示します。目を閉じて写っている可能性のある人物の顔が黄色い枠で囲まれます。撮影した画像を見て、撮り直すかどうかを確認できます。
OFF **（初期設定）**	目つぶり検出をしません。

目つぶり確認画面の操作方法

- 目つぶり検出した顔を拡大表示するには、ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。1コマ表示に戻るには、**W**（▦）方向に回します。
- 複数の人物の目つぶりを検出した場合、拡大表示中に◀ ▶を押すと、拡大表示する顔が切り換わります。
- 🗑ボタンを押すと、画像を削除します。
- 撮影画面に戻るには、Ⓚボタンまたはシャッターボタンを押します。
- 何も操作しないまま数秒経過すると、自動的に撮影画面に戻ります。

詳細編

☑ 目つぶり検出設定についてのご注意

他の機能と組み合わせて使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□80）

サムネイルバー

MENUボタンを押す ➔ Yタブ（□13）➔ サムネイルバー

再生モードの1コマ表示（□34）でマルチセレクターを速く回したときに、サムネイルバーを表示するかどうかを設定します。

項目	内容
ON	再生モードの1コマ表示でマルチセレクターを速く回すと、画面下部にサムネイルバーを表示します。 前後のサムネイルを見て、画像を選べます。 サムネイルバー表示中にOKボタンを押すと、サムネイルバーが消えます。
OFF（初期設定）	サムネイルバーを表示しません。

サムネイルバーについてのご注意

サムネイルバーを表示するには、内蔵メモリーまたはSDカードに画像が10コマ以上保存されている必要があります。

Eye-Fi送信機能

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（□13）➔ Eye-Fi送信機能

項目	内容
有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効（初期設定）	画像を送信しません。

Eye-Fiカード使用時のご注意

- 電波の状態が悪い場合、［**有効**］に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を［**無効**］にしてください。
- Eye-Fiカードの使用方法はEye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。Eye-Fiカードに関する不具合や質問は、カードメーカーにお問い合わせください。
- このカメラにはEye-Fiカードの通信機能をON/OFFする機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保証するものではありません。
- エンドレスメモリー機能には対応していません。パソコンで設定をしている場合は、OFFにしてください。エンドレスメモリー機能を設定していると、撮影した画像枚数表示が正常に表示されなくなることがあります。
- Eye-Fiカードの送信機能の使用は、ご購入された国でのみ使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- ［**有効**］にしていると、バッテリーの消耗は通常より早くなります。

Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、画面で確認できます（□8）。

- ：［**Eye-Fi送信機能**］が［**無効**］に設定されています。
- （点灯）：画像の送信を待っています。
- （点滅）：画像の送信中です。
- ：エラーが発生しました。Eye-Fiカードをコントロールできません。

使用できるEye-Fiカードについて

このカメラでは、次のEye-Fiカードをお使いいただけます（2011年11月現在）。Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。

- Eye-Fi Connect X2 SDHC 4GB
- Eye-Fi Mobile X2 SDHC 8GB
- Eye-Fi Pro X2 SDHC 8GB

インジケーターの+/−方向

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（📖13）➔ インジケーターの+/−方向

撮影モードがMのときに表示される露出インジケーターの+/−表示の方向を入れ換えできます。
初期設定では、インジケーターの+側を左に、−側を右に表示します。

設定クリアー

MENUボタンを押す ➔ 🔧タブ（📖13）➔ 設定クリアー

［**はい**］を選ぶと、カメラの設定が初期設定にリセットされます。

撮影の基本機能

項目	初期設定
フラッシュモード（📖66）	自動発光
セルフタイマー（📖69）/ 笑顔自動シャッター（📖70）	OFF
フォーカスモード（📖72）	通常AF
露出補正（📖74）	0.0

シーンモード

項目	初期設定
シーンメニュー（📖41）	おまかせシーン
夜景ポートレートの撮影方法（📖47）	三脚撮影
クローズアップの撮影方法（📖49）	通常撮影
料理モードの色合い（📖50）	中央
パノラマの撮影方法（📖51）	かんたんパノラマの標準 (180°)
ペット（📖52）	ペット自動シャッター：ON 連写：連写

夜景メニュー

項目	初期設定
夜景（📖42）	手持ち撮影

風景メニュー

項目	初期設定
風景（□43）	通常撮影

逆光メニュー

項目	初期設定
HDR（□44）	OFF

スペシャルエフェクトメニュー

項目	初期設定
スペシャルエフェクト（□55）	ソフト

撮影メニュー

項目	初期設定
画質（□77）	NORMAL
画像サイズ（□78）	16M 4608×3456
Picture Control（⊶33）	スタンダード
ホワイトバランス（⊶38）	オート（標準）
ホワイトバランスの微調整（⊶38）	0
測光方式（⊶40）	マルチパターン
連写（⊶41）	単写
インターバル撮影（⊶43）	30 秒
ISO感度設定（⊶45）	オート
低速限界設定（⊶45）	OFF
AEブラケティング（⊶46）	OFF
AFエリア選択（⊶47）	オート
AFモード（⊶51）	シングルAF
調光補正（⊶52）	0.0
ノイズ低減フィルター（⊶52）	標準
Active D-ライティング（⊶53）	OFF
ズームメモリー（⊶54）	OFF
起動ポジション設定（⊶54）	24 mm

動画メニュー

項目	初期設定
動画設定（⊶64）	1080P30 HD 1080p★ (1920×1080)
AFモード（⊶68）	シングルAF

GPS設定メニュー

項目	初期設定
位置情報記録機能（69）	OFF
ログ取得間隔（71）	15秒
ログ取得時間（71）	6時間

セットアップメニュー

項目	初期設定
オープニング画面（74）	なし
撮影後の画像表示（78）	ON
画面の明るさ（78）	3
格子線表示（78）	OFF
ヒストグラム表示（78）	OFF
デート写し込み（79）	OFF
手ブレ補正（80）	ON
モーション検知（81）	AUTO
AF補助光（82）	AUTO
電子ズーム（82）	ON
サイドズームレバー設定（83）	ズームレバー
設定音（84）	ON
シャッター音（84）	ON
オートパワーオフ（84）	1 分
HDMI（86）	オート
HDMI 機器制御（86）	ON
HDMI 3D出力（86）	ON
Fnボタン設定（87）	連写
パソコン接続充電（88）	AUTO
Av/Tv操作切り換え（90）	切り換えない
目つぶり検出設定（91）	OFF
サムネイルバー（92）	OFF
Eye-Fi送信機能（93）	無効
インジケーターの+/-方向（94）	＋0－

その他

項目	初期設定
用紙設定（E27、E28）	プリンターの設定
スライドショーのインターバル設定（E57）	3 秒
連写グループ表示方法（E63）	代表画像のみ

- ［**設定クリアー**］を行うと、ファイル番号の連番（E98）もクリアーされます。クリアー後に撮影した画像には、内蔵メモリー /SDカード内の最大ファイル番号の次の番号から連番が付けられます。内蔵メモリー/SDカード内の画像をすべて削除（□36）してから、［**設定クリアー**］をすると、次に撮影する画像の連番は「0001」から始まります。
- 以下の項目は、［**設定クリアー**］を行っても初期設定には戻りません。
  - 撮影メニュー：［**Custom Picture Control**］の登録（E37）、［**ホワイトバランス**］のプリセットマニュアルデータ（E39）
  - セットアップメニュー：［**地域と日時**］（E75）、［**言語/Language**］（E85）、［**TV出力設定**］の［**ビデオ出力**］（E86）
- モードダイヤル**U**に登録したユーザーセッティングの内容は、［**設定クリアー**］では初期設定に戻りません。［**User Setting リセット**］（E53）で初期設定に戻してください。

バージョン情報

MENUボタンを押す（□13）➔ Yタブ➔ バージョン情報

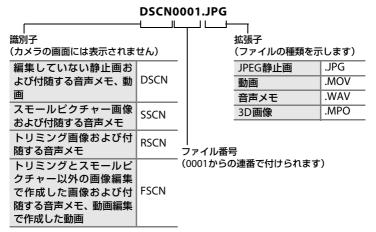
カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。

詳細編

記録データのファイル名とフォルダー名

このカメラで撮影した静止画、動画、および音声メモには、以下のようにファイル名が付けられます。

識別子	
編集していない静止画および付随する音声メモ、動画	DSCN
スモールピクチャー画像および付随する音声メモ	SSCN
トリミング画像および付随する音声メモ	RSCN
トリミングとスモールピクチャー以外の画像編集で作成した画像および付随する音声メモ、動画編集で作成した動画	FSCN

拡張子	
JPEG静止画	.JPG
動画	.MOV
音声メモ	.WAV
3D画像	.MPO

- ファイルを保存するフォルダーは、「フォルダー番号 ＋ NIKON」（例：100NIKON）という名前で、自動的に作られます。フォルダー内のファイル数が200に達すると、新しいフォルダーが作られます（例：100NIKON→101NIKON）。フォルダー内のファイル番号が9999に達したときや［**連番リセット**］（E90）したときも新しいフォルダーが作られ、ファイル番号は0001に戻ります。
  フォルダー内にファイルがないときは、[**連番リセット**]をしても新しいフォルダーは作られません。
- 音声メモのファイル名は、音声メモを録音した画像と同じ識別子とファイル番号になります。
- パノラマアシストモード（E6）では、撮影のたびに「フォルダー番号＋P_XXX」という名前のフォルダー（例：101P_001）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。
- インターバル撮影（E43）では撮影のたびに「フォルダー番号 ＋ INTVL」という名前のフォルダー（例：101INTVL）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。

- 内蔵メモリーとSDカードの間で記録データをコピーする場合（E62）、ファイル名は以下のようになります。
  - 「選択画像コピー」：
    使用中のフォルダー（または次回の撮影で使われるフォルダー）に、データがコピーされます。コピーされたデータのファイル名は、「内蔵メモリーおよびSDカード内の最大ファイル番号＋1」から連番で付けられます。
  - 「全画像コピー」：
    データはフォルダーごとにコピーされます。フォルダー名は「コピー先の最大フォルダー番号＋1」から連番で付けられます。
    ファイル名は変わりません。
- フォルダー番号が 999 のときにファイル数が 200 個またはファイル番号が 9999に達すると、それ以上撮影できません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（E85）してください。

詳細編

別売アクセサリー

充電式バッテリー	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5※1
本体充電AC アダプター	本体充電ACアダプター EH-69P※1、2
充電器	バッテリーチャージャー MH-61※3 （残量のない状態からの充電時間：約2時間）
ACアダプター	ACアダプター EH-62A※3 ＜EH-62Aの取り付け方＞ 1 2 3 バッテリー/SDカードカバーを閉める前に、ACアダプターのコードをバッテリー室の溝に奥まで入れてください。コードが溝からはみ出していると、カバーを閉めたときにカバーやコードを破損するおそれがあります。
USBケーブル	USBケーブル UC-E6※1
AVケーブル	オーディオビデオケーブル EG-CP16※1
レンズキャップ	レンズキャップ LC-CP24※1
ハンドストラップ	ハンドストラップ AH-CP1

※1 カメラご購入時に付属（→「箱の中身をご確認ください」（□ii））。
※2 日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。
※3 日本国内専用電源コード（AC 100 V 対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。
また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/でもお求めいただけます。

警告メッセージ

画面に表示される警告メッセージの意味は、以下のとおりです。

表示	考えられる原因や対処法	📖
（点滅）	カメラの時計が設定されていません。 日付と時刻を設定してください。	75
電池残量がありません	バッテリーの残量がありません。 バッテリーを充電または交換してください。	18、20
電池が高温です	バッテリーの温度が高温になっています。 電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。このメッセージが出ると5秒後に液晶モニターが消灯し、電源ランプ、AF/アクセスランプおよびフラッシュランプが高速点滅を開始します。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	25
カメラが高温です。電源をOFFにします	カメラの内部が高温になっています。自動的にカメラの電源がOFFになります。 カメラ内部の温度が下がるまでしばらく放置してから電源を入れ直してください。	–
AF● （赤色点滅）	ピントを合わせることができません。 • ピントを合わせ直してください。 • フォーカスロック撮影をお試しください。	 32 86
記録中 しばらくお待ちください	画像の記録中です。 記録が終了して警告表示が消えるまでお待ちください。	–
カードがロックされています	SDカードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。 「Lock」を解除してください。	–
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	Eye-Fiカードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。 「Lock」を解除してください。	–
	Eye-Fi カードへのアクセス異常です。 • 動作確認済みのカードを使ってください。 • カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 • カードが正しく挿入されているか確認してください。	 23 22 22
このカードは使えません カードに異常があります	SDカードへのアクセス異常です。 • 動作確認済みのカードを使ってください。 • カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 • カードが正しく挿入されているか確認してください。	 23 22 22

詳細編

表示	考えられる原因や対処法	📖
このカードは初期化されていません。初期化しますか？ はい いいえ	SDカードが、このカメラ用に初期化されていません。初期化するとカード内のデータはすべて削除されるため、カード内に必要なデータが残っているときは、［**いいえ**］を選び、初期化する前にパソコンなどに保存してください。［**はい**］を選んでⓀボタンを押すと、SDカードを初期化できます。	22
メモリー残量がありません	データを記録する空き容量がありません。 • 画質または画像サイズを変更してください。 • 不要な画像、動画を削除してください。 • SD カードを交換してください。 • SDカードをカメラから取り出し、内蔵メモリーを使ってください。	 77、78 36、100 22 23
画像を保存できません	画像記録中にエラーが発生しました。 内蔵メモリー /SDカードを初期化してください。	⊶85
	これ以上記録できないファイル番号に達しました。 SDカードを交換するか、内蔵メモリー /SDカードを初期化してください。	22、⊶85
	オープニング画面に登録できない画像です。	⊶74
	画像コピー先の容量不足です。 コピー先の不要な画像を削除してください。	36
パノラマ撮影に失敗しました	かんたんパノラマ撮影ができませんでした。 以下の場合、かんたんパノラマ撮影ができないことがあります。 • 一定時間経っても撮影が終わらないとき • カメラを動かす速度が速すぎるとき • パノラマ方向に対してまっすぐになっていないとき	⊶3
パノラマ撮影に失敗しました まっすぐに動かしてください		
パノラマ撮影に失敗しました ゆっくりと動かしてください		
2枚目の撮影に失敗しました	3D画像の撮影で、1コマ撮影後に2コマ目の撮影ができませんでした。 • 撮影をやり直してください。1　コマ目の撮影後は被写体がガイドに合うようにカメラを水平移動してください。 • 被写体が動く、暗い、コントラストが低いなど、撮影条件によっては 2 コマ目を撮影できないことがあります。	⊶8 –

表示	考えられる原因や対処法	📖
3D画像の保存に失敗しました	3D 画像が記録できませんでした。 • 撮影をやり直してください。 • 不要な画像を削除してください。 • 被写体が動く、暗い、コントラストが低いなど、撮影条件によっては、3D 画像を作成できず、画像を保存できないことがあります。	E8 36 –
音声を登録できません	音声メモを付けられない画像ファイルです。 • 動画には音声メモを付けられません。 • このカメラで撮影した画像を選んでください。	– E61
この画像は編集できません	編集できない画像を画像編集しようとしました。 • 編集可能な条件を確認してください。 • 動画は画像編集できません。	E15 –
動画記録できません	SD カードに動画を記録するのに時間がかかっています。画像記録処理の速いSDカードに交換してください。	23
連番リセットできません	これ以上新しいフォルダーを作成できません。 SDカードを交換するか、内蔵メモリー /SDカードを初期化してください。	22、 E85
撮影画像がありません	撮影済みの画像がありません。 • 内蔵メモリーに記録した画像を再生するときは、SD カードをカメラから取り出してください。 • 内蔵メモリー内の画像をSDカードにコピーするときは、MENU ボタンを押して再生メニューの［**画像コピー**］を選んでください。	22 E62
このファイルは表示できません このデータは再生できません	COOLPIX P510以外で作成されたファイルです。 このカメラでは再生できません。 ファイルを作成または編集したパソコンなどで再生してください。	–
表示できる画像がありません	スライドショーで表示できる画像がありません。	–
このファイルは削除できません	画像にプロテクトがかかっています。 プロテクトを解除してください。	E58
自宅と訪問先が同じタイムゾーンです	自宅と訪問先を同じタイムゾーンに設定しました。	E77
モードダイヤルの位置がずれています	モードダイヤルが正しい位置にセットされていません。 モードダイヤルを回して、カメラの指標にいずれかのモードを合わせてください。	28
フラッシュを上げてください	シーンモードが［**夜景ポートレート**］または（逆光）の［**HDR**］が［**OFF**］のときに、フラッシュが閉じています。 （フラッシュポップアップ）ボタンを押してフラッシュをポップアップしてください。	47、 44、 66

警告メッセージ

表示	考えられる原因や対処法	📖
フラッシュが閉じています	おまかせシーンのときにフラッシュが閉じています。 ⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押してフラッシュをポップアップしてください。フラッシュを使いたくないときは、フラッシュを閉じたままでも撮影できます。	45、66
レンズエラー	レンズの作動不良です。 電源を入れ直してください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	25
通信エラー	プリンターとの通信中にエラーが発生しました。 カメラの電源をOFFにして、USBケーブルの接続をやり直してください。	E26
システムエラー	カメラの内部回路にエラーが発生しました。 電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	25
GPS情報の取得に失敗しました	時計合わせが正しく行われませんでした。 お使いになる場所や時間を変えて、もう一度測位してください。	–
カード内にA-GPSファイルが見つかりません	SDカードに更新可能なA-GPSファイルがありません。 以下のことを確認してください。 • SD カードが入っているか • SD カード内に A-GPS ファイルが入っているか • SD カード内の A-GPS ファイルがカメラ内の A-GPS ファイルより新しいか • 有効期限が切れていないか	–
更新に失敗しました	A-GPSファイルの更新ができませんでした。 A-GPSファイルが壊れている可能性があります。ホームページからダウンロードし直してください。	E70
カードに保存できません	SDカードが挿入されていません。 SDカードを挿入してください。	22
	すでにログデータが、1日に36件保存されています。	–
	すでにログデータが、100件保存されています。 不要なログデータをSDカードから削除するか、新しいSDカードに交換してください。	E73
プリンターエラー：プリンターを確認してください	プリンターに異常があります。 プリンターを確認し、エラーの原因を取り除いた後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–

表示	考えられる原因や対処法	📖
プリンターエラー：用紙を確認してください	指定したサイズの用紙がセットされていません。 指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：紙詰まりです	用紙が詰まりました。 詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：用紙がありません	用紙がセットされていません。 指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：インクを確認してください	インクに異常があります。 インクを確認した後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：インクがありません	インクがなくなりました。 インクを交換した後、［**継続**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：ファイルが異常です	プリントする画像ファイルに異常があります。 ［**キャンセル**］を選んでⓀボタンを押し、プリントを中止してください。	–

※プリンターの使用説明書もあわせてご覧ください。

付録、索引

取り扱い上のご注意

カメラについて

お使いになるときは、必ず「安全上のご注意」（📖vi、vii）をお守りください。

● 強いショックを与えないでください

カメラを落としたり、ぶつけたりすると、故障の原因になります。また、レンズに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。

● 水に濡らさないでください

カメラ内部に水が入ると、部品がサビつくなど修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えないでください

温度差が極端な場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆の場合）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に結露が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使ってください。

● 強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は、撮像素子などの褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際に撮影した画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

● バッテリーやACアダプター、メモリーカードを取り外すときは、必ず電源をOFFにしてください

電源がONの状態で取り外すと、故障の原因になります。特に撮影中やデータの削除中は、データの破損やカードの故障の原因になります。

● モニター画面（電子ビューファインダー含む）について

- モニター画面（電子ビューファインダー含む）は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では液晶モニターは、日差しの影響で見えにくいことがあります。
- 液晶モニターの表面を強くこすったり、強く押したりすると、破損や故障の原因になります。万一、液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますのでご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、ご注意ください。

バッテリーについて

お使いになるときは、必ず「安全上のご注意」（📖viii）をお守りください。

● 使用上のご注意

- 使用後のバッテリーは、発熱していることがあるのでご注意ください。
- 周囲の温度が0℃～40℃ の範囲を超える場所で使うと、性能劣化や故障の原因になります。
- 万一、異常に熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常や不具合が起きたら、すぐに使用を中止して、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- カメラやバッテリーチャージャーから取り外したときは、必ず付属の端子カバーを付けてください。

● 充電について

撮影の前に充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりません。

- 周囲の温度が 5℃～35 ℃ の室内で充電してください。
- バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、不完全な充電になったりし、性能劣化の原因にもなります。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっているときは、バッテリーの温度が下がるのを待ってから充電してください。
  バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
  バッテリーの温度が45℃～60℃のときは、充電できる容量が減ることがあります。
- 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電すると、性能が劣化します。
- 充電直後にバッテリーの温度が上がることがありますが、性能その他に異常はありません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影環境に応じて、予備バッテリーをご用意ください。地域によっては入手が困難な場合があります。

● 低温時には残量の充分なバッテリーを使い、予備のバッテリーも用意する

バッテリーは一般的な特性として、性能が低温時に低下します。低温時には、バッテリーおよびカメラを冷やさないようにしてください。
消耗したバッテリーを低温時に使うと、カメラが動かないこともあります。予備のバッテリーは保温し、交互にあたためながらお使いください。低温で一時的に使えなかったバッテリーも、常温に戻ると使える場合があります。

● バッテリーの接点について

バッテリーの接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなることがあります。接点の汚れは、乾いた布で拭き取ってください。

● 残量のなくなったバッテリーは充電する

残量のなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源スイッチのON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。残量がなくなったバッテリーは、充電してからお使いください。

● 保管について

- バッテリーを使わないときは、必ずカメラやバッテリーチャージャーから取り出してください。取り付けたままにすると、電源を切っていても微小電流が流れ続けて過放電状態になり、使えなくなることがあります。
- バッテリーは、長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。
- バッテリーは、付属の端子カバーを付けて、涼しい場所で保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥した場所をおすすめします。暑い場所や極端に寒い場所は避けてください。

● 寿命について

バッテリーを充分に充電しても、使用期間が極端に短くなってきたときは、寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

● リサイクルについて

充電を繰り返して劣化し、使えなくなったバッテリーは、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。接点部にテープなどを貼り付けて絶縁してから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へお持ちください。

本体充電ACアダプターについて

お使いになるときは、必ず「安全上のご注意」（📖ix）をお守りください。

- 本体充電ACアダプター EH-69Pに対応している機器以外で使わないでください。
- EH-69P以外の本体充電ACアダプター、USB-ACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。
- EH-69Pは、家庭用電源のAC 100－240 V、50/60 Hz に対応しています。日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめのうえ、お買い求めください。

メモリーカードについて

● 使用上のご注意

- メモリーカードは、SDカード以外は使えません。
  推奨メモリーカード→ 📖23
- お使いになるときは、必ずメモリーカードの説明書の注意事項をお守りください。
- ラベルやシールを貼らないでください。

● 初期化について

- SDカードをパソコンで初期化（フォーマット）しないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラではじめて使うときは、必ずこのカメラで初期化してください。
  未使用のSDカードは、このカメラで初期化してからお使いになるようおすすめします。
- SDカードを初期化すると、カード内のデータはすべて削除されます。初期化する前に、必要なデータはパソコンなどに保存してください。
- SD カードを入れたあとにカメラに「このカードは初期化されていません。初期化しますか？」の警告メッセージが表示されたときは初期化が必要です。削除したくないデータがある場合は、［**いいえ**］を選んでください。必要なデータはパソコンなどに保存してください。カードを初期化してよければ、［**はい**］を選んで Ⓚボタンを押してください。
- 初期化中、画像の記録中や削除中、パソコンとの通信中などに以下の操作をすると、データの破損やカードの故障の原因になります。
  - バッテリー /SDカードカバーを開けて、カードやバッテリーを脱着する
  - カメラの電源を OFFにする
  - ACアダプターを外す

カメラのお手入れ方法

クリーニングについて

アルコール、シンナーなど揮発性の有機溶剤や化学洗剤、防錆剤、曇り止めは使わないでください。

レンズ/電子ビューファインダー

- ガラス部分をクリーニングするときは、手で直接触らないようご注意ください。
- ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やメガネ拭きなどでガラス部分の中央から外側に円を描くようにゆっくりと拭き取ってください。
- 強く拭いたり、硬いもので拭いたりすると、破損や故障の原因になることがあります。
- 汚れが取れないときは、レンズクリーナー液（市販）で湿らせた柔らかい布で軽く拭いてください。

液晶モニター

- ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やメガネ拭きなどで軽く拭き取ってください。
- 強く拭いたり、硬いもので拭いたりすると、破損や故障の原因になることがあります。

カメラボディー

- ゴミやホコリをブロアーで吹き払ってください。乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。
- 海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。

ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因になります。この場合、当社の保証の対象外になります。

保管について

カメラを長期間お使いにならないときは、バッテリーを取り出してください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってお使いいただけるように、「月に一度」を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

カメラを以下の場所に保管しないようにご注意ください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所
- 湿度が60%を超える場所

バッテリーの保管は、「取り扱い上のご注意」の「バッテリーについて」の「●保管について」（☼4）をお守りください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいとお感じになったときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせいただく前に、以下の項目をご確認ください。

• 警告メッセージを確認するには → ⊶101

電源・表示・設定関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
カメラ内のバッテリーを充電できない	• 端子の接続状態を確認してください。 • バッテリー /SD カードカバーを閉じてください。	20 22
パソコンに接続してバッテリーを充電できない	• セットアップメニュー［**パソコン接続充電**］が［**OFF**］になっています。 • パソコンに接続して充電しているときは、カメラの電源を OFF にすると、バッテリーの充電も中止されます。 • パソコンに接続して充電しているときに、パソコンが休止状態（スリープ状態）になると、充電が中止され、カメラの電源が OFF になることがあります。 • パソコンの仕様、設定または状態によっては、パソコンに接続してカメラ内のバッテリーを充電できないことがあります。	110、⊶88 ⊶88 ⊶88 –
電源をONにできない	• バッテリー残量がありません。 • 本体充電 AC アダプターでコンセントに接続しているときは、電源は ON にできません。 • バッテリー /SD カードカバーが開いていると、電源は ON にできません。	24 20 22
カメラの電源が突然切れる	• バッテリー残量がありません。 • 無操作状態が続いたため、オートパワーオフ機能が働きました。 • カメラの電源を ON にしたまま、本体充電 AC アダプターを接続すると電源が OFF になります。 • パソコンまたはプリンターとの接続中に USB ケーブルが外れると電源が OFF になります。USB ケーブルの接続をやり直してください。 • カメラの内部が高温になっています。温度が下がるまでしばらく放置してから電源を入れ直してください。 • 低温下ではカメラやバッテリーが正常に動作しないことがあります。	24 25 20 90、93、⊶26 – ☼3

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
液晶モニター/電子ビューファインダーに何も映らない	• 電源が入っていません。 • バッテリー残量がありません。 • 節電機能により待機状態になっています。電源スイッチ、シャッターボタン、▶ ボタンまたは ●（動画撮影）ボタンを押すか、モードダイヤルを回してください。 • 液晶モニターと電子ビューファインダーは同時に点灯しません。ボタンを押して点灯させたい方に切り換えてください。 • カメラとパソコンがUSBケーブルで接続されています。 • カメラとテレビがAVケーブルまたはHDMIケーブルで接続されています。 • インターバル撮影中です。	25 24 25 16 90、93 90、 23 43
液晶モニターがよく見えない	• 周囲の光が明るすぎます。暗い場所に移動するか、電子ビューファインダーをお使いください。 • 液晶モニターの明るさを調整してください。 • 液晶モニターが汚れています。	16 108、 78 6
電子ビューファインダー内がはっきり見えない	視度調節ダイヤルで調節してください。	16
ボタンを押してもモニターが液晶モニター（または電子ビューファインダー）に切り換わらない	• 以下の場合、モニターの切り換えはできません。 - 動画の撮影中および再生中 - 音声メモの録音中および再生中 - インターバル撮影中 - プリンターに接続中 • 警告内容によっては、警告メッセージの表示中は、モニターの切り換えができません。	 96、100 88 61 90 –
撮影日時が正しく表示されない	• 日時を設定していない（撮影時に日時未設定マークが点滅している）場合は、静止画の撮影日時が「0000/00/00　00:00」、動画の撮影日時が「2012/01/01 00:00」と記録されます。セットアップメニュー［**地域と日時**］で日時を正しく設定してください。 • 内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くありません。定期的に日時の設定を行うことをおすすめします。	26、108 75 108、 75
撮影情報や画像情報が表示されない	撮影情報、画像情報を非表示にしている可能性があります。設定内容の情報が表示されるまで、**DISP** ボタンを押してください。	15
［**デート写し込み**］が選べない	セットアップメニュー［**地域と日時**］が設定されていません。	26、108、 75

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
[**デート写し込み**]を有効にしたのに、日付が写し込まれない	• 日付を写し込めない撮影モードになっています。 • デート写し込みが制限される他の機能の設定がされています。 • 動画には写し込みできません。	108、 ⚙79 80 –
電源を入れると地域と日時の設定画面が表示される	時計用電池が切れたため、設定がリセットされました。	27
設定内容が初期状態に戻ってしまった		
[**連番リセット**]ができない	フォルダー番号が999に達し、そのフォルダー内にファイルがあるときは、[**連番リセット**]ができません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化してください。	110、 ⚙90
液晶モニターが消灯し、電源ランプが高速点滅する	バッテリーの温度が高温になっています。電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	25
カメラの温度が高くなる	動画撮影やEye-Fiカードでの画像送信などで長時間使ったり、周囲の温度が高い場所で使ったりすると、カメラの温度が高くなることがありますが、故障ではありません。	97

●デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。このような場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてみてください。これによってカメラが作動しなくなったときのデータは失われるおそれがありますが、すでに内蔵メモリーまたはSDカードに記録されているデータは失われません。この操作を行ってもカメラに不具合が続くときは、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
撮影モードにできない	HDMIケーブルまたはUSBケーブルを外してください。	90、93、 ⚯23、 ⚯26
撮影できない	• 再生モードになっているときは、▶ ボタン、シャッターボタンまたは ●（動画撮影）ボタンを押してください。 • メニューが表示されているときは、MENU ボタンを押してください。 • バッテリー残量がありません。 • シーンモードが［**夜景ポートレート**］または（逆光）の［**HDR**］が［**OFF**］のときは、フラッシュをポップアップしてください。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。	34 13 24 47、44、 66 66
3D画像を撮影できない	被写体が動く、暗い、コントラストが低いなど、撮影条件によっては、2コマ目を撮影できないことや、撮影した画像を保存できないことがあります。	–
ピントが合わない	• 被写体との距離が近すぎます。フォーカスモードの（マクロ AF）、またはシーンモードの［**おまかせシーン**］、［**クローズアップ**］での撮影をお試しください。 • オートフォーカスが苦手な被写体を撮影しています。 • セットアップメニュー［**AF 補助光**］を［**AUTO**］にしてください。 • シャッターボタンを半押ししたときに、被写体が AF エリア内に入っていません。 • フォーカスモードが MF（マニュアルフォーカス）になっています。 • 電源を入れ直してください。	45、49、 72 33 109、 ⚯82 32、61 72 25
撮影時の画面に色の着いた縞模様が発生する	同じパターンを繰り返す被写体（窓のブラインドなど）に色の着いた縞模様（干渉縞、モアレ）が現れることがありますが、故障ではありません。 記録される画像、動画にこの現象は残りません。ただし、［**高速連写 120 fps**］と［**HS 120 fps (640×480)**］では、記録される画像、動画にこの現象が残ることがあります。	–
画像がぶれる	• フラッシュを使ってください。 • 手ブレ補正機能やモーション検知機能を使ってください。 • BSS（ベストショットセレクター）を使ってください。 • 三脚などでカメラを安定させてください（セルフタイマーを併用すると、より効果的です）。	66 108、 109 61 69
フラッシュ撮影時に、画像に白い点が写り込む	フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して写り込んでいます。フラッシュモードを（発光禁止）にしてください。	67

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
フラッシュが発光しない	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが発光しない撮影モードです。 • フラッシュが制限される他の機能の設定がされています。	67 75 80
電子ズームが使えない	• セットアップメニュー［**電子ズーム**］が［**OFF**］になっています。 • シーンモードが［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］、［**パノラマ**］の［**かんたんパノラマ**］、［**ペット**］または［**3D 撮影**］のときは、電子ズームは使えません。 • 電子ズームが制限される他の機能の設定がされています。	109 46、47、51、53 80
［**画像サイズ**］が選べない	［**画像サイズ**］が制限される他の機能の設定がされています。	80
シャッター音が鳴らない	• セットアップメニュー［**操作音**］の［**シャッター音**］が［**OFF**］になっています。 • シーンモードが［**スポーツ**］、［**ミュージアム**］または［**ペット**］になっています。 • シャッター音が制限される他の機能の設定がされています。 • スピーカーをふさがないでください。	109 46、50、52 80 3
AF 補助光が点灯しない	セットアップメニュー［**AF 補助光**］が［**OFF**］になっています。［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しない場合があります。	109
画像が鮮明でない	レンズが汚れています。	☼6
画像の色合いが不自然になる	適切なホワイトバランスが選ばれていません。	61、 ⊶38
画面や撮影画像にリング状の帯や虹色の縞模様が見える	逆光撮影や、太陽などの非常に強い光源が画面内にある撮影では、リング状の帯や虹色の縞模様（ゴースト）などが写し込まれることがあります。 光源の位置を変えるか、光源を画面内に入れずに撮影をお試しください。	–
画像がざらつく	被写体が暗いため、シャッタースピードが遅くなっているか、ISO感度が高くなっています。 • フラッシュを使ってください。 • 低い ISO 感度にしてください。	66 61、 ⊶45
画像が暗すぎる（露出アンダー）	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが指などでさえぎられています。 • 被写体にフラッシュの光が届いていません。 • 露出を補正してください。 • ISO 感度を上げてください。 • 逆光で撮影しています。フラッシュをポップアップして、シーンモードの ▣（逆光）の［**HDR**］を［**OFF**］にするか、フラッシュモードを ⚡（強制発光）にしてください。	67 30 66 74 61、 ⊶45 44、66

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像が明るすぎる（露出オーバー）	露出を補正してください。	74
赤目以外の部分が補正された	⚡◉（赤目軽減自動発光）やシーンモードの［**夜景ポートレート**］の赤目軽減強制発光でフラッシュ撮影すると、ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。［**夜景ポートレート**］以外の撮影モードで、フラッシュモードを⚡◉（赤目軽減自動発光）以外にして撮影してください。	47、66
美肌の効果が得られない	• 撮影条件によっては、美肌効果が適切に得られないことがあります。 • 4 人以上の顔を撮影した画像は、再生メニュー［**美肌**］をお試しください。	54 88、⚭18
画像の記録に時間がかかる	以下の場合、画像の記録に時間がかかることがあります。 • ノイズ低減機能が作動したとき • フラッシュを⚡◉（赤目軽減自動発光）にして撮影したとき • 以下のシーンモードで撮影したとき - 夜景アイコン（夜景）の［**手持ち撮影**］ - 風景アイコン（風景）、［**クローズアップ**］の［**連写 NR 撮影**］ - 逆光アイコン（逆光）の［**HDR**］が［**OFF**］以外 -［**夜景ポートレート**］の［**手持ち撮影**］ -［**パノラマ**］の［**かんたんパノラマ**］ • 撮影メニュー［**連写**］が［**高速連写 120 fps**］または［**高速連写 60 fps**］のとき • 笑顔自動シャッターで撮影したとき • アクティブ D- ライティング機能で撮影したとき	 – 67 42 43、49 44 47 51 61、⚭41 70 62、⚭53
［**連写**］または［**AE ブラケティング**］の設定ができない、または使えない	［**連写**］または［**AEブラケティング**］が制限される他の機能の設定がされています。	80
COOLPIX ピクチャーコントロールが設定できない	COOLPIXピクチャーコントロールが制限される他の機能の設定がされています。	80

付録、索引

再生関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
再生できない	• パソコンか他社製のカメラによって画像が上書きされたか、ファイル名やフォルダー名が変更されました。 • インターバル撮影中は再生できません。 • COOLPIX P510 以外で撮影した動画は再生できません。	– 61 96
連写グループが再生できない	• COOLPIX P510 以外で連写した画像は、連写グループとして再生できません。 • ［**連写グループ表示方法**］の設定を確認してください。	– 89、 ⚙63
画像の拡大表示ができない	• 動画やスモールピクチャー、320 × 240 以下にトリミングされた画像は拡大表示できません。 • COOLPIX P510 以外で撮影した画像は、拡大表示できないことがあります。 • カメラを HDMI 接続して、3D 画像を 3D（立体）で再生しているときは、拡大表示できません。	– – ⚙8
音声メモの録音や再生ができない	• 動画には音声メモを付けられません。 • COOLPIX P510 以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。また、このカメラ以外で画像に音声メモを付けると、このカメラで再生できません。	100 88
画像や動画を編集できない	• 画像や動画の編集が可能な条件を確認してください。 • COOLPIX P510 以外で撮影した画像や動画は編集できません。	⚙16、 ⚙31 –
画像がテレビに映らない	• セットアップメニュー［**TV 出力設定**］の［**ビデオ出力**］または［**HDMI**］が正しく設定されていません。 • HDMI ミニ端子と USB/ オーディオビデオ出力端子の両方にケーブルが接続されています。 • 画像が記録されていないSDカードが入っています。SDカードを交換してください。内蔵メモリーの画像を再生するときはSDカードを取り出してください。	110、 ⚙86 90 22
カメラをパソコンに接続しても、Nikon Transfer 2が自動起動しない	• カメラの電源が OFF になっています。 • バッテリー残量がありません。 • USBケーブルが正しく接続されていません。 • パソコンにカメラが正しく認識されていません。 • 対応 OS を確認してください。 • Nikon Transfer 2 が自動起動しない設定になっています。Nikon Transfer 2 については、ViewNX 2 のヘルプをご参照ください。	25 24 90 – 91 94
カメラをプリンターに接続しても、PictBridge起動画面が表示されない	PictBridge対応プリンターの種類によっては、［**パソコン接続充電**］を［**AUTO**］に設定していると、PictBridge起動画面が表示されず、プリントできない場合があります。［**パソコン接続充電**］を［**OFF**］にしてプリンターに接続し直してください。	110、 ⚙88

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
プリントする画像が表示されない	• 画像が記録されていない SD カードが入っています。SD カードを交換してください。 • 内蔵メモリーの画像をプリントするときは SD カードを取り出してください。 • 3D 撮影した画像はプリントできません。	22 23 ⊶8
カメラ側で用紙設定ができない	PictBridge対応プリンターでも、以下の場合はカメラで「用紙設定」ができません。プリンター側で用紙サイズを設定してください。 • カメラ側で設定した用紙サイズにプリンターが対応していません。 • 自動的に用紙サイズを認識するプリンターを使っています。	⊶27、⊶28 —

GPS関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
測位できない、測位に時間がかかる	• 撮影する環境によって、測位できないことがあります。GPS を使うときは、できるだけ空のひらけた場所でお使いください。 • はじめて測位したときや、測位できない状態が約 2 時間経過したとき、バッテリーの交換をしたときは、測位情報を取得するまで数分かかります。	103 103
撮影した画像に位置情報が記録されない	• 撮影時の画面に 🛰 や 🛰 が表示されているときは位置情報が記録されません。撮影前に GPS 受信状態を確認してください。 • 動画に位置情報は記録できません。	102 —
撮影した場所と記録した位置情報に誤差がある	撮影する環境によって、測位に誤差が生じることがあります。GPS衛星からの電波の誤差が大きい場合、最大で数百メートルの誤差を生じることがあります。	102
A-GPSファイルが更新できない	• 以下のことを確認してください。 - SD カードが入っているか - SD カード内に A-GPS ファイルが入っているか - SD カード内の A-GPS ファイルがカメラ内の A-GPS ファイルより新しいか - 有効期限が切れていないか • A-GPS ファイルが壊れている可能性があります。ホームページからダウンロードし直してください。	— ⊶70
ログデータを保存できない	• SD カードが入っているか確認してください。 • 記録できるログデータの数は、1 日に 36 件までです。 • 1 枚の SD カードに保存できるログデータは、最大で 100 件までです。不要なログデータを SD カードから削除するか、新しい SD カードに交換してください。	— — ⊶73

主な仕様

ニコン デジタルカメラCOOLPIX P510

項目	仕様
型式	コンパクトデジタルカメラ
有効画素数	16.1メガピクセル
撮像素子	1/2.3型 原色CMOS、総画素数16.79メガピクセル
レンズ	光学42倍ズーム、NIKKORレンズ
焦点距離	4.3-180mm （35mm判換算24-1000 mm相当の撮影画角）
開放F値	f/3-5.9
レンズ構成	10群14枚（EDレンズ4枚）
電子ズーム	最大2倍（35mm判換算で約2000 mm相当の撮影画角）
手ブレ補正	レンズシフト方式
オートフォーカス	コントラスト検出方式
撮影距離	• 先端レンズ面中央から約 50 cm 〜∞（広角側）、約 1.5 m 〜∞（望遠側） • マクロ AF 時は先端レンズ面中央から約 1 cm（△ マークから広角側）〜∞
AFエリア	顔認識オート、オート（9点）、中央、マニュアル（99点）、ターゲット追尾、ターゲットファインドAF
ファインダー	電子ビューファインダー、0.2型液晶、約20万ドット相当、視度調節機能付き（-4〜+4 m^{-1}）
視野率（撮影時）	上下左右とも約100%（対実画面）
視野率（再生時）	上下左右とも約100%（対実画面）
液晶モニター	広視野角3型TFT液晶、反射防止コート付き、約92万ドット 輝度調節機能付き（5段階） チルト式（下方約82°、上方約90°可動）
視野率（撮影時）	上下左右とも約100%（対実画面）
視野率（再生時）	上下左右とも約100%（対実画面）
記録方式	
記録媒体	内蔵メモリー（約90 MB）、 SD/SDHC/SDXC メモリーカード
画像ファイル	DCF、Exif 2.3、DPOF、MPF準拠
ファイル形式	静止画：JPEG 3D画像：MPO 音声メモ：WAV 動画：MOV（映像：H.264/MPEG-4 AVC、音声：AAC ステレオ）

項目	内容
画像サイズ（記録画素数）	・16 M［**4608×3456**］ ・8 M［**3264×2448**］ ・4 M［**2272×1704**］ ・2 M［**1600×1200**］ ・VGA［**640×480**］ ・16:9 12M［**4608×2592**］ ・16:9 2M［**1920×1080**］ ・3:2［**4608×3072**］ ・1:1［**3456×3456**］
ISO感度（標準出力感度）	・ISO 100、200、400、800、1600、3200、Hi 1（6400相当） ・オート（ISO 100 ～ 1600） ・感度制限オート（ISO 100 ～ 400、100 ～ 800） ・Hi 2 （12800 相当）（ スペシャルエフェクトモードの［**高感度モノクロ**］）
露出	
測光方式	マルチパターン測光（224分割）、中央部重点測光、スポット測光
露出制御	プログラムオート（プログラムシフト可能）、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアル露出、AEブラケティング、モーション検知機能付き、露出補正（±2段の範囲で1/3段刻み）可能
シャッター	メカニカルシャッターとCMOS電子シャッターの併用
シャッタースピード	オート撮影モード、シーンモード、スペシャルエフェクトモード ・1/4000 ※ ～ 1 秒 ・1/4000 ※ ～ 2 秒（ シーンモードの［**夜景**］の［**三脚撮影**］） ・4 秒（シーンモードの ［**打ち上げ花火**］） **P**、**S**、**A**、**M**モード ・1/4000 ※ ～ 8 秒（**M** モードで ISO 100 時：ISO 感度オート、感度制限オート時を含む） ・1/4000 ※ ～ 4 秒（**P**、**S**、**A** モードで ISO 100、200、400 固定時、**M** モードで ISO 200、400 固定時） ・1/4000 ※ ～ 2 秒（ISO 800 固定時） ・1/4000 ※ ～ 1 秒（ISO 1600 固定時、および、**P**、**S**、**A** モードで ISO 感度オート、感度制限オート時） ・1/4000 ※ ～ 1/2 秒（ISO 3200、Hi 1 固定時） ・1/4000 ～ 1/125 秒（高速連写 120 fps） ・1/4000 ～ 1/60 秒（高速連写 60 fps） ※ 絞り値f/8.3時
絞り	電磁駆動による6枚羽根虹彩絞り
制御段数	10（1/3 EVステップ）（広角側）（**A**、**M**モード）
セルフタイマー	約10秒、約2秒

項目		仕様
フラッシュ		
	調光範囲 (ISO感度設定オート時)	約0.5～8.0 m（広角側） 約1.5～4.5 m（望遠側）
	調光方式	モニター発光によるTTL自動調光
インターフェース		Hi-Speed USB
	通信プロトコル	MTP、PTP
ビデオ出力		NTSC、PALから選択可能
HDMI出力		オート、480p、720p、1080i から選択可能
入出力端子		オーディオビデオ（AV）出力/デジタル端子（USB）、HDMIミニ端子（Type C）（HDMI出力）
GPS		受信周波数 1575.42 MHz（C/Aコード）、測地系 WGS 84
言語		日本語、英語の2言語
電源		• Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5（リチウムイオン充電池：付属）× 1 個 • AC アダプター EH-62A （別売）
充電時間		約4時間30分（本体充電ACアダプター EH-69P使用時、残量のない状態からの充電時間）
撮影可能コマ数（電池寿命）※1		約240コマ（EN-EL5使用時）
動画撮影可能時間（電池寿命）※2		約1時間10分 （[**HD 1080p★ (1920×1080)**]、EN-EL5 使用時）
三脚ネジ穴		1/4（ISO 1222）
寸法（幅×高さ×奥行き）		約119.8×82.9×102.2 mm（突起部除く）
質量		約555g（バッテリー、SDメモリーカード含む）
動作環境		
	使用温度	0℃～40℃
	使用湿度	85%以下（結露しないこと）

• 仕様中のデータは、すべて常温（25℃）、リチャージャブルバッテリー EN-EL5をフル充電で使用時のものです。

※1 電池寿命測定方法を定めた CIPA（カメラ映像機器工業会）規格によるものです。測定条件は、23(±2)℃、撮影ごとにズーム、2回に1回の割合でのフラッシュ撮影、画質［**NORMAL**］、画像サイズ 16M［**4608×3456**］です。撮影間隔、メニュー表示時間、画像表示時間などにより、コマ数は変動します。

※2 1回の撮影で記録可能な時間は、SDカードの残量が多いときでもファイルサイズ4 GBまで、または最長29分までです。

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	DC 3.7 V、1100 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約36×54×8 mm（突起部除く）
質量	約30 g（端子カバーを除く）

本体充電ACアダプター EH-69P

電源	AC 100～240 V、50/60 Hz、0.068～0.042 A
定格入力容量	6.8～10.1 VA
定格出力	DC 5.0 V、550 mA
使用温度	0℃～40℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約55 × 22 × 54 mm
質量	約55 g

説明書について

- 説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF)：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録方式です。
- DPOF (Digital Print Order Format)：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif (Exchangeable image file format) Version 2.3：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。
  この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。
  詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターのメーカー各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接プリントするための標準規格です。

索引

マーク・英数字

ア

カ

サ

マ

ヤ

ラ

アフターサービスについて

■この製品の使い方や修理に関するお問い合わせは

- 使い方に関するご質問は、裏面に記載の「ニコン　カスタマーサポートセンター」にお問い合わせください。
- 修理に関するご質問は、裏面に記載の「修理センター」にお問い合わせください。

【お願い】

- お問い合わせいただく場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
  「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、「問題が発生したときの症状」、「表示されたメッセージ」、「症状の発生頻度」など。
- ソフトウェアのトラブルの場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
  「ソフトウェア名およびバージョン」、「パソコンの機種名」、「OSのバージョン」、「メモリー容量」、「ハードディスクの空き容量」、「問題が発生したときの症状」、「症状の発生頻度」、エラーメッセージが表示されている場合はエラーメッセージの内容など。
- ファクシミリや郵送でお問い合わせの場合は「ご住所」、「お名前」、「フリガナ」、「電話番号」、「FAX番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

■修理を依頼される場合は

- ニコンサービス機関（裏面に記載の「修理センター」など）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。
- ニコンサービス機関につきましては、詳しくは「ニコン　サービス機関のご案内」をご覧ください。

【お願い】

- 修理に出されるときは、メモリーカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。
  ※内蔵メモリー内に画像データがあるときは、消去される場合があります。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後5年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ニコンサービス機関またはご購入店へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

Nikon

製品の使い方に関するお問い合わせ

＜ニコン カスタマーサポートセンター＞

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話·公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30 〜 18:00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03）5977-7499 にお送りください。

修理サービスのご案内

修理品のお引き取りを依頼される場合は

＜ニコン ピックアップサービス＞

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け · 修理品のお引き取り、修理後のお届け·集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の料金にて承ります。

※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。

0120-02-8155 営業時間：9:00〜18:00（年末年始12/29〜1/4を除く毎日）

※上記のフリーダイヤルはピックアップサービス専用です。ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。
製品や修理に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター、または修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

＜（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター＞

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話·公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30〜18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

インターネットご利用の方へ

＜ニコンイメージング／サポートページ＞

- http://www.nikon-image.com/support/

  最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデートに関する情報がご覧いただけます。

  ※製品をより有効にご利用いただくために、定期的にアクセスされるようおすすめします。

- http://www.nikon-image.com/support/repair/

  「ニコン　ピックアップサービス」のお申し込みや修理見積もり金額の確認、インターネットを利用して修理を申し込まれた場合の修理状況や納期の確認などがご覧いただけます。

※お問い合わせや修理を依頼をされるときには、裏面の「アフターサービスについて」も参照ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

FX2E03(10)

6MM18710-03